

8
モセ

聖徒伝 34

「アイドル フェスタ」

出25～32章 幕屋建設命令・金の子牛事件

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 幕屋建設命令 25～31章

II. 金の子牛事件 32章

III. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考える

教会の内にも忍び寄る偶像



イスラエルの歩みは
すべて アブラハムへの
神の約束から始まった



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

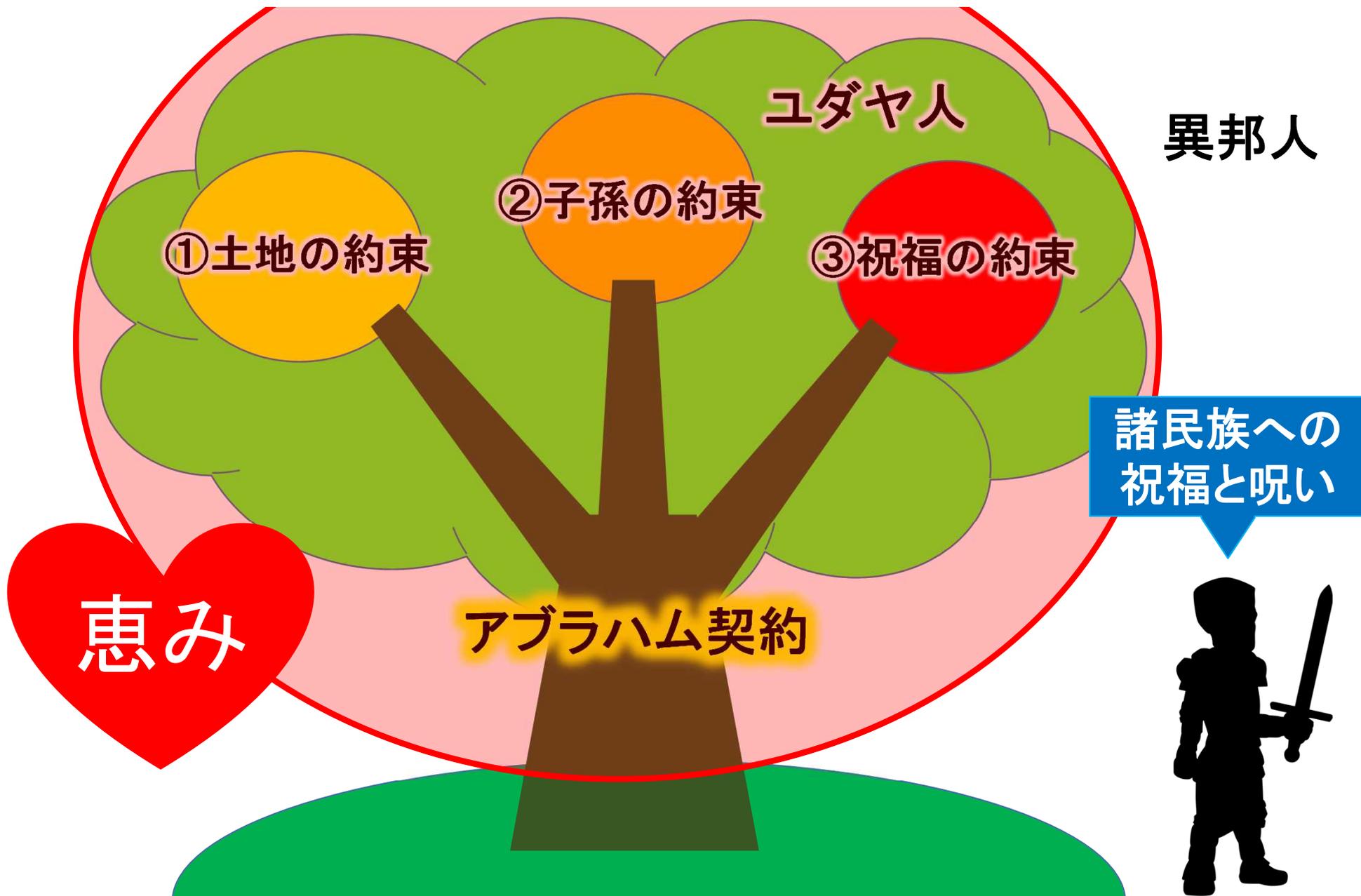
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

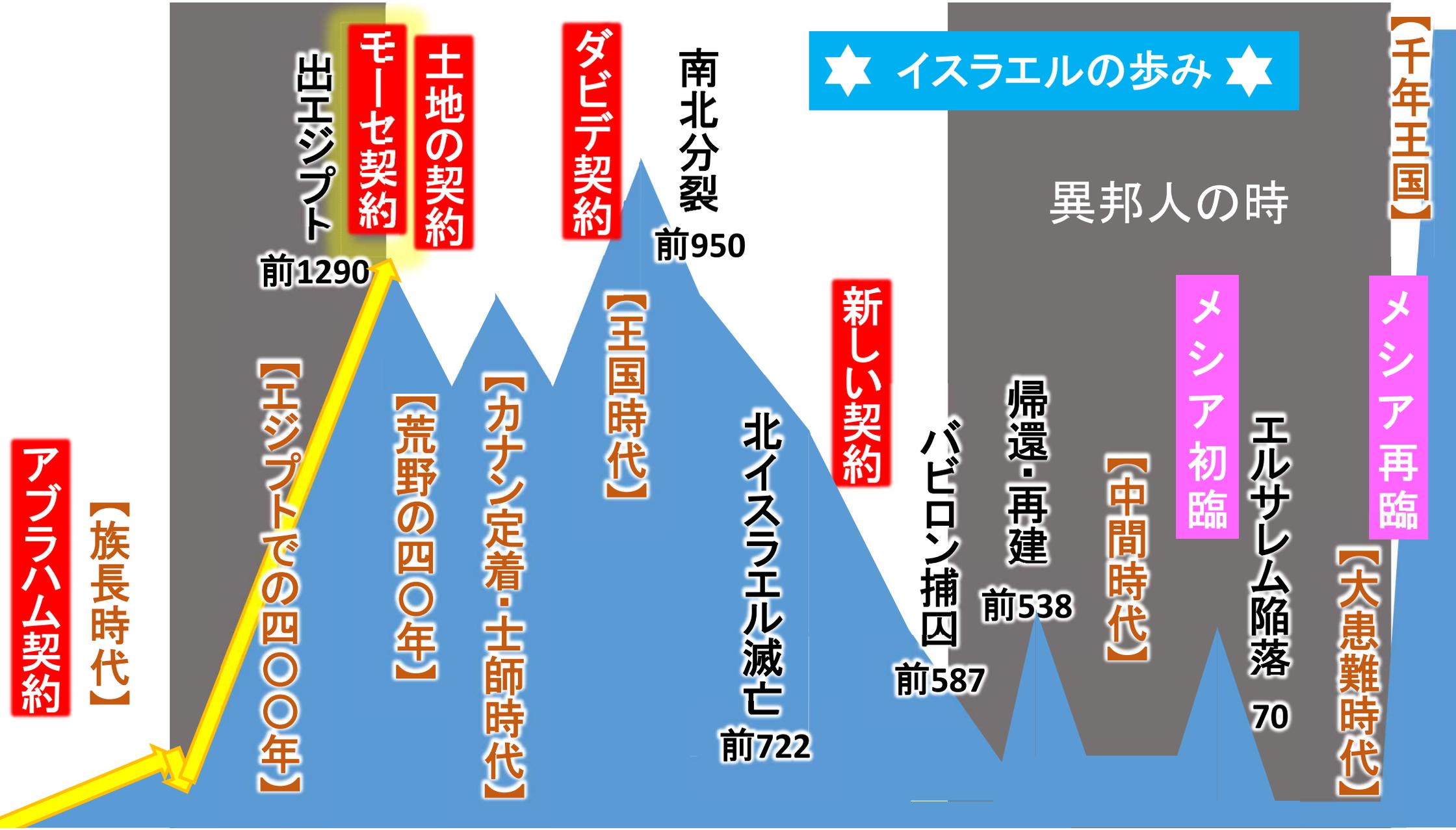
イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト 前1290

モーセ契約

土地の契約

【族長時代】

アブラハム契約

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。
- 40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。
- 80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。
- パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。
- モーセは、イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
葦の海を渡り、荒野を横切り、シナイ山へ。
- シナイ山に、神が顕現され、モーセを仲介者として
律法を授与された。律法の中である十戒が、
民の前で読み上げられた。



0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

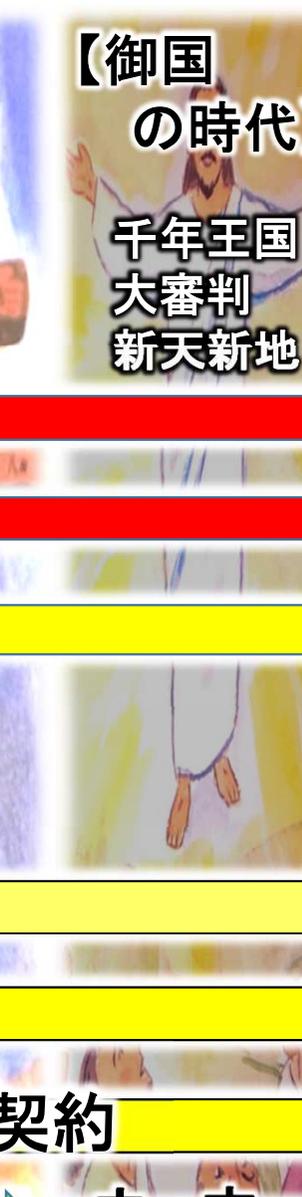
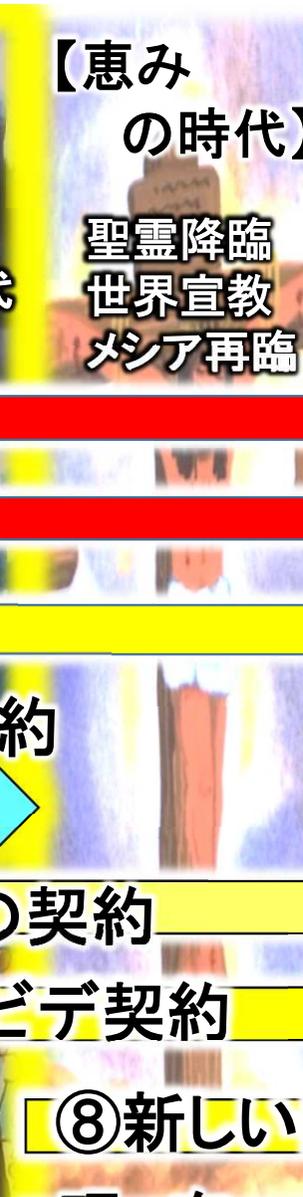
民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

律法は、イスラエルを導く、飴と鞭

罪を思い知らせ、救い主へ導く

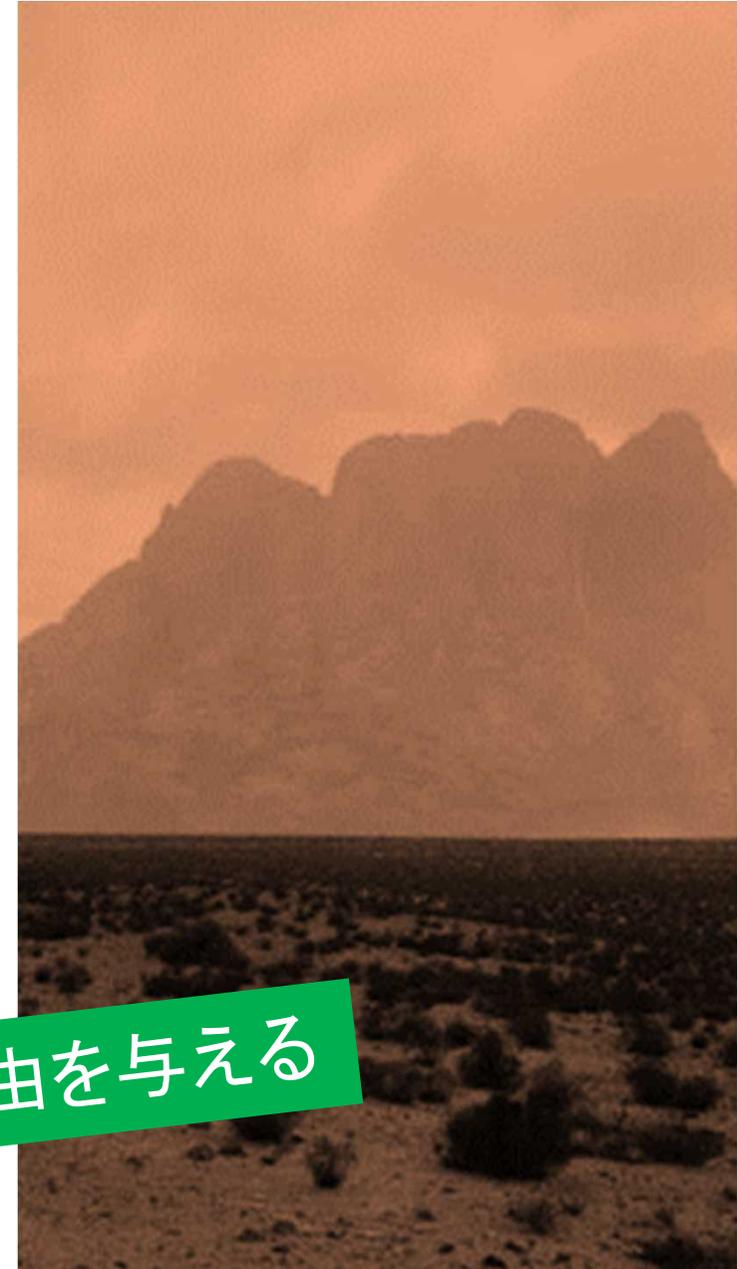


【法が、人にもたらしたものの】

- 法は、束縛？ では、法がなかったら？
- 無制限に、人に、正しさが求められたら？
いったい誰が、神のもとにたどり着ける？
- 法は、神ご自身に制限を加え、
私たち人間に、チャンスと自由を与えるもの!!

法は、神ご自身を縛り、

人に機会と自由を与える



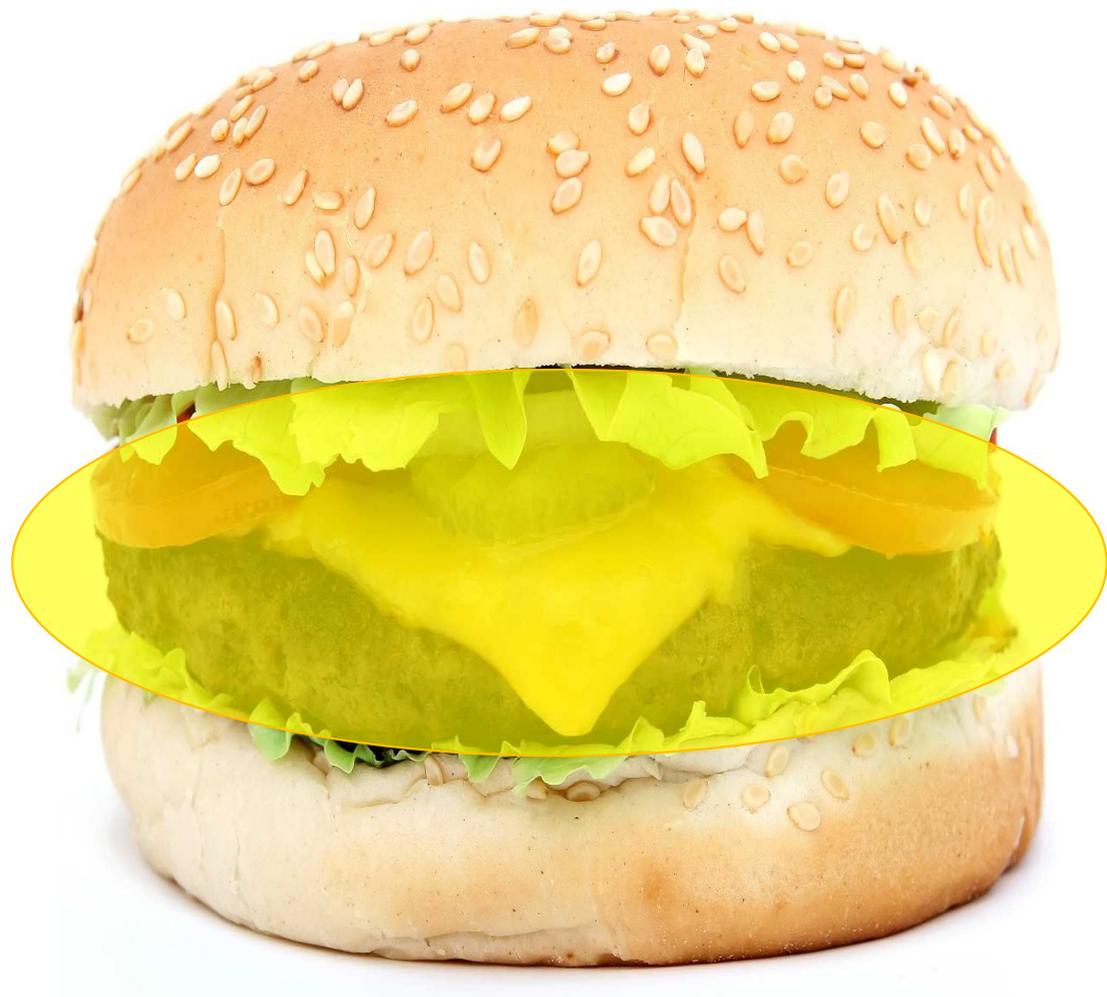


I. 幕屋建設命令

出エジプト記25～31章

【出エジプト記・後半の流れを確認しよう!!】

- 律法授与 20～24章
- 幕屋建設の指示 25～31章
- 金の子牛事件 32章
- 律法の再授与 33～34章
- 幕屋建設・完成 35～40章



【幕屋建設命令】 出 25:1~7

【主】はモーセに告げて仰せられた。

「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。彼らから受けてよい奉納物は次のものである。金、銀、青銅、青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、燈油、そそぎの油とかおりの高い香のための香料、エポデや胸当てにはめ込むしまめのうや宝石。」

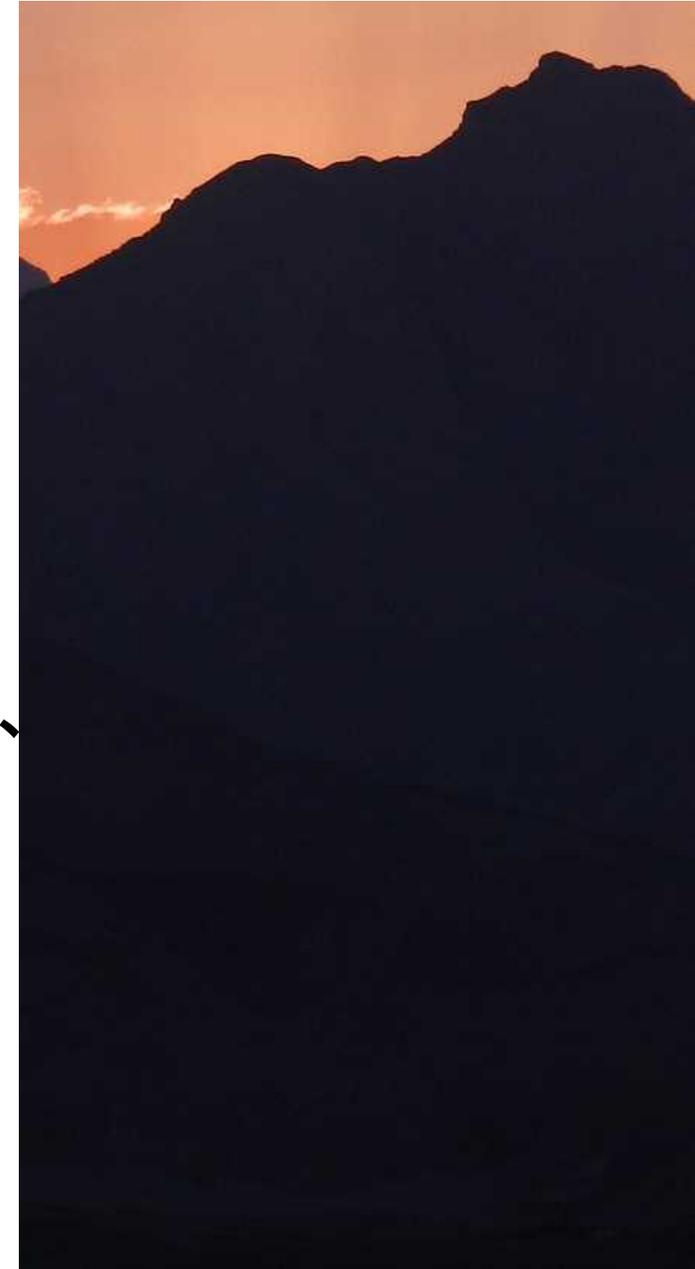


エジプトから得た
贈り物が材料に!!

【幕屋建設命令】 出25:8～9

彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。

- 人が罪を犯した時、地上を離れた神の栄光が、部分的とはいえ、再び地上に住まわれる!!
- 神の方法に従うことで、神に近づける。
➡幕屋の実際の建設は、35～40章。



【幕屋建設の目的】

- ①王なる神が住まわれる**王宮**。
②民が神を礼拝する**神殿**。
- 幕屋は、天にあるものの写し(ヘブ8:5)
- 幕屋は、神が聖なることを教える、
罪人が、神に近づくための神の方法。



【幕屋とは？】

- 移動式のテントの神殿。神の王宮。
天にある神の住まいのひな形。視覚教材。
⇒究極的に、メシアそのものを示す!!
※教会堂は、幕屋でも、神殿でもない。
教会堂に近いのは、ユダヤの会堂。

- 出エジプト記の半分は、律法の記述。
3分の1以上は、幕屋の記述。

- 出エジプト記で最も重大なのは幕屋。
幕屋に、シャカイナグローリーが宿る!!



「出25:8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」

【幕屋】 出25～31章

- ①契約の箱 25:16～21
- ②供卓 25:23～30
- ③燭台 25:31～40
- ⑤幕屋の幕 構造物 26:1～37
- ⑥祭壇 27:1～8
- ⑦庭 27:9～21
- ⑧祭服 28:1～42
- ⑨祭司の聖別 29:1～46
- ⑩香壇 30:1～10
- ⑪きよめ 日々の祈り 30:11～38
- ⑫技術者の任命 31:1～11

幕屋の内

幕屋の外

祭司



メシアの型の説明は
次々回に!!

【契約の箱】 出25:10～22

■ 縦113cm × 横68cm × 高さ45cm
アカシア材＋純金

■ 最も重要な祭具

★ 契約の箱の
贖いの蓋のケルビム*の間に
(* 神の側近の天使)
シャカイナグローリーが宿った。

■ 中身は、①十戒の石版2枚
②アロンの杖
③マナの壺



【供卓】 出25:23～30



12部族を表す12枚のパンを捧げた。

【燭台(メノラー)】 出25:31～40



幕で暗闇となっている
聖所内を照らすもの。

【幕屋の構造】 出26章

■ 幕

④じゅごんの皮

③雄羊の皮(赤になめす)

②ヤギの織物

①亜麻布の織物

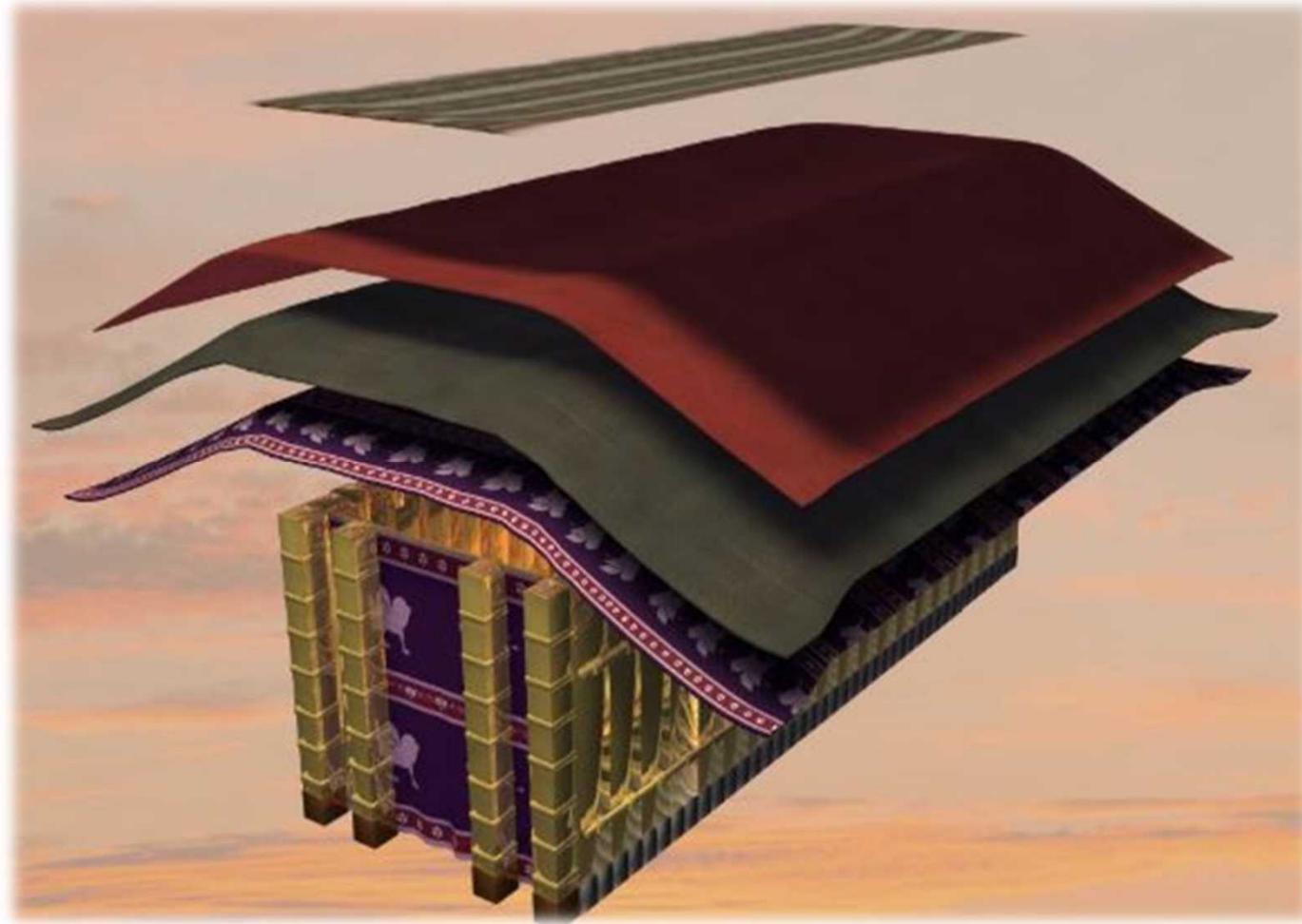
(ケルビム*の刺繍入)

* 最上位の天使

■ 骨組みとなる縦横の板

...金で覆われた

■ 青銅製の土台



【幕屋内部】 出26章

縦13,3m

× 横4,4m

× 高さ4,4m

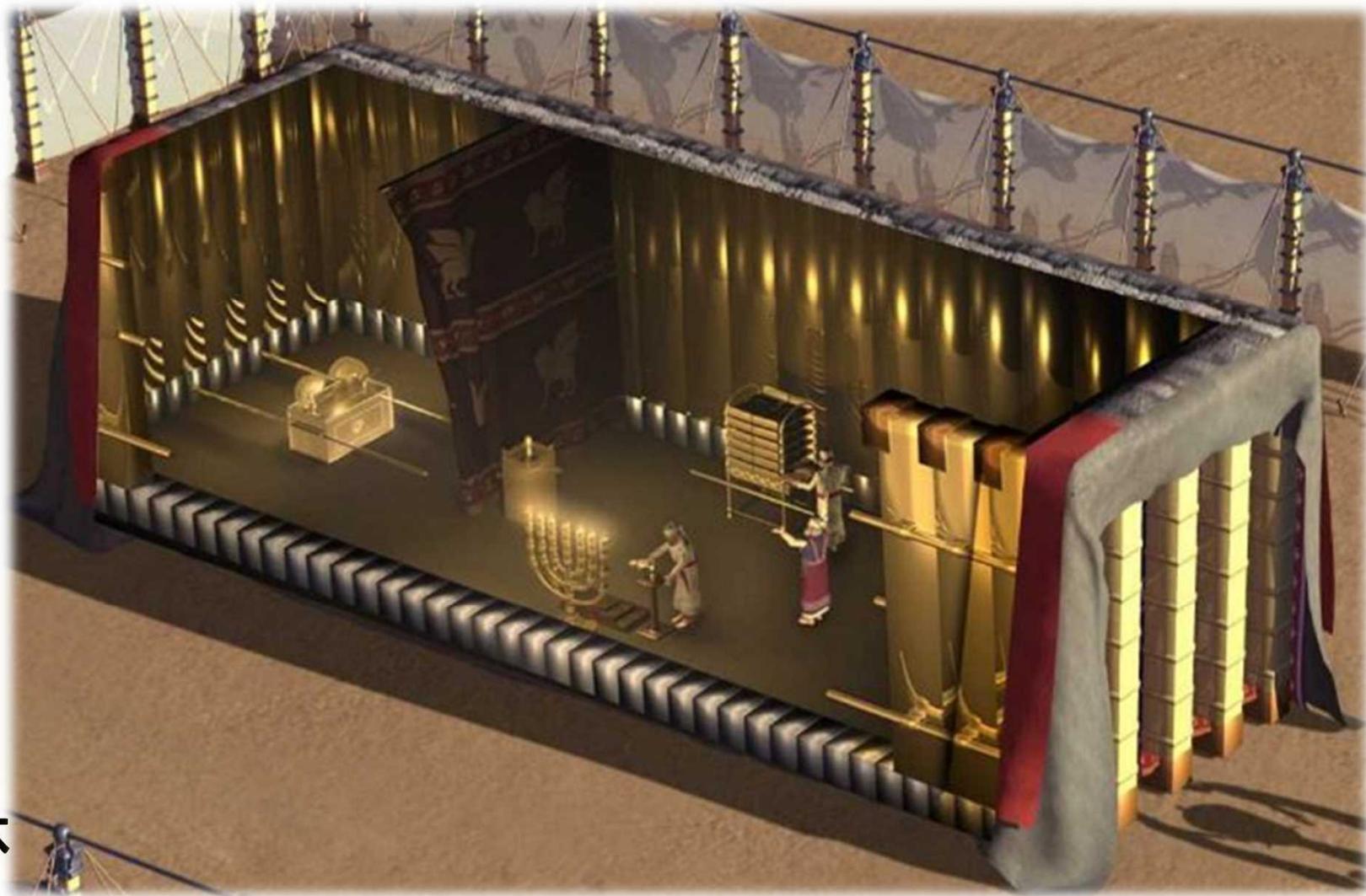
17,5坪 36畳

・聖所 24畳

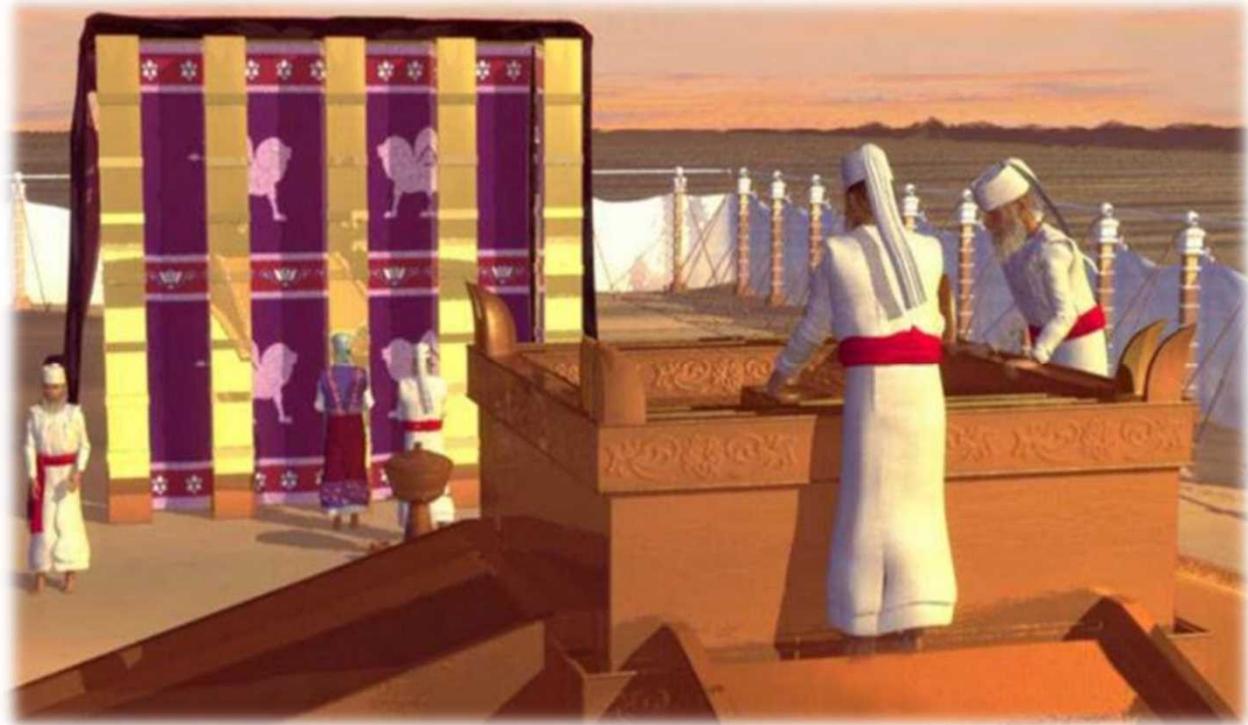
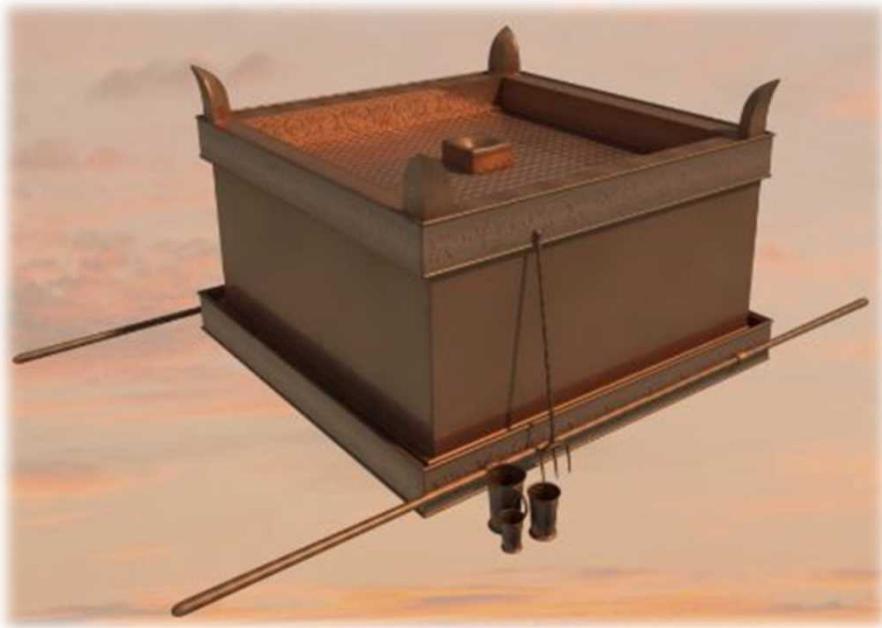
・至聖所 12畳

縦横高さ

4.4m³の立方体



【祭壇】 出27章



縦2,2m × 横2,2m × 高さ1,3m

大きなバーベキューコンロ。ここで生け贄の動物を焼いた

【幕屋の庭】 出27章

【北】

【西】



【東】

【南】

縦(東西)44m × 横(南北)22m 約970m² 約300坪

【祭服】 出28～29章

■大祭司

▼亜麻布の長服の上に以下を着用

- ①エポデ(聖なるエプロン?!)
- ②裁きの胸当て(12の宝石付)
- ③ウリムとトンミル
...肩につけた二つの石。神意を伺う。
- ④青服(袖なしのワンピース)
- ⑤額当て ...「主の聖なる者」と彫られた。

■一般の祭司

亜麻布の長服のみ。



【香の壇】 出30章



縦44cm × 横44cm × 高さ8cm ➡香は、「祈り」を現す。

香を焚く奉仕は、イスラエルを代表する祈り。名誉ある奉仕だった。

例)洗礼者ヨハネの父・祭司ザカリアの神殿の奉仕(ルカ1:5～25)

【安息日】 出31章

「31:15 六日間は仕事をしてよい。しかし、七日目は、【主】の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。

31:17 これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである」

- イスラエルに求められる、神への完全な信頼(安息)。
- 安息日は、イスラエルを他と区別(聖別)する、しるし。
- ★ 「ユダヤ人が安息日を守ったのではなく、安息日がユダヤ人を守った」 ...ユダヤの格言

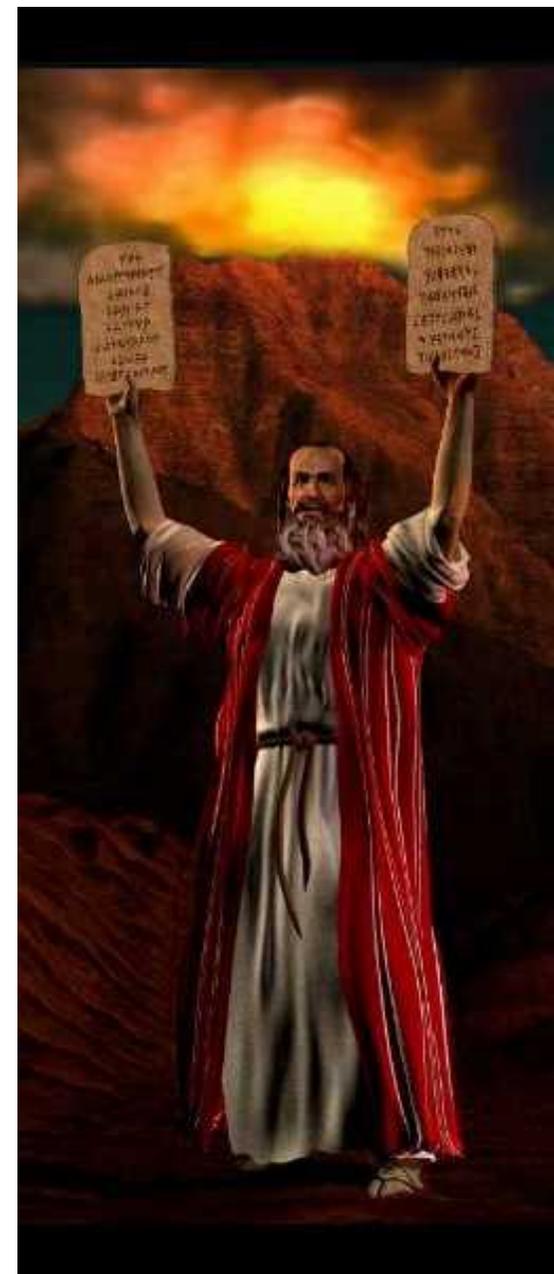


【十戒の石板】 出 31:17~18

「これ(安息日)は、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである。」

こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。

- 「安息日」は、神の完全さを示し、民に、神の律法への全的信頼を求める。
- 律法の中心である「十戒」が、神ご自身の手で、石の板に刻まれた。



Ⅱ. 金の子牛事件

出エジプト記32章

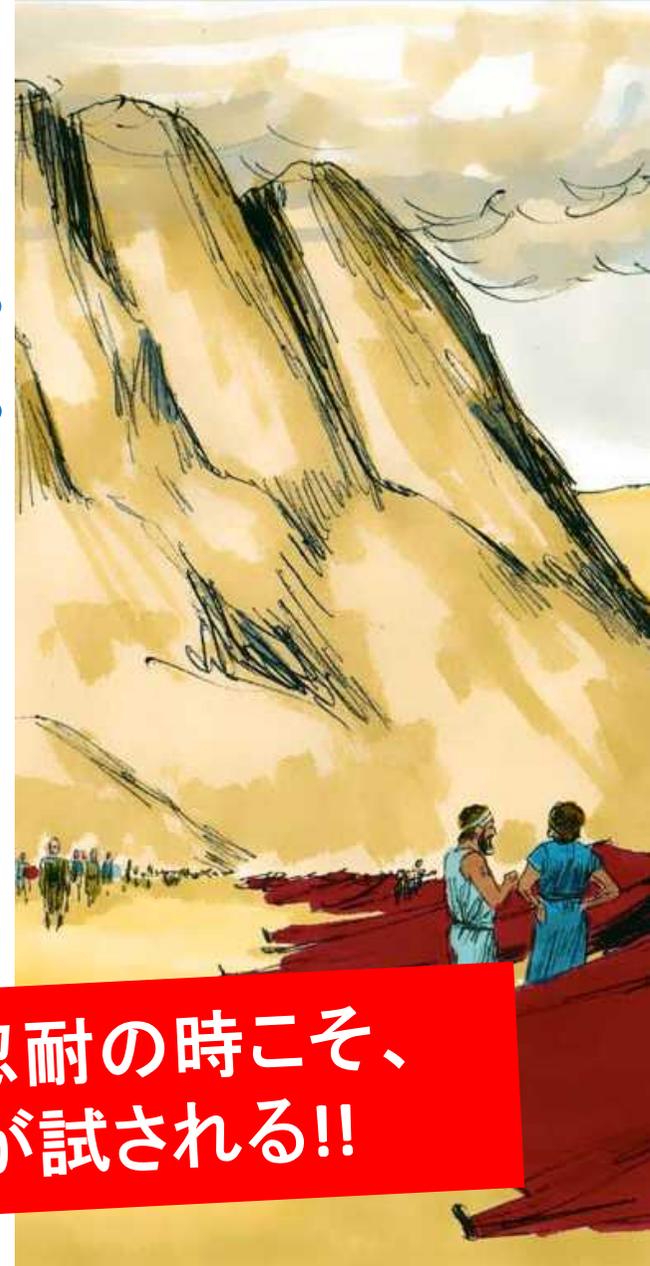


【民の圧力】 出32:1

民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから」

- モーセがシナイ山に上って40日が過ぎていた。
- 民は、目に見える安心を求め、アロンに詰め寄った。

座して待つ忍耐の時こそ、最も信仰が試される!!



【金の子牛】 出32:2～4

それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」

そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鋳物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」と言った。



言い逃れられない
自覚的な罪!!

■なぜ子牛？ ➡ エジプトの影響?! (アピス、ハトホル等)

人物像ではなく、成牛でもなく、子牛。➡後ろめたさがあった?!

【偶像礼拝】 出32:5～6

アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼わって言った。「あすは【主】への祭りである。」

そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた。



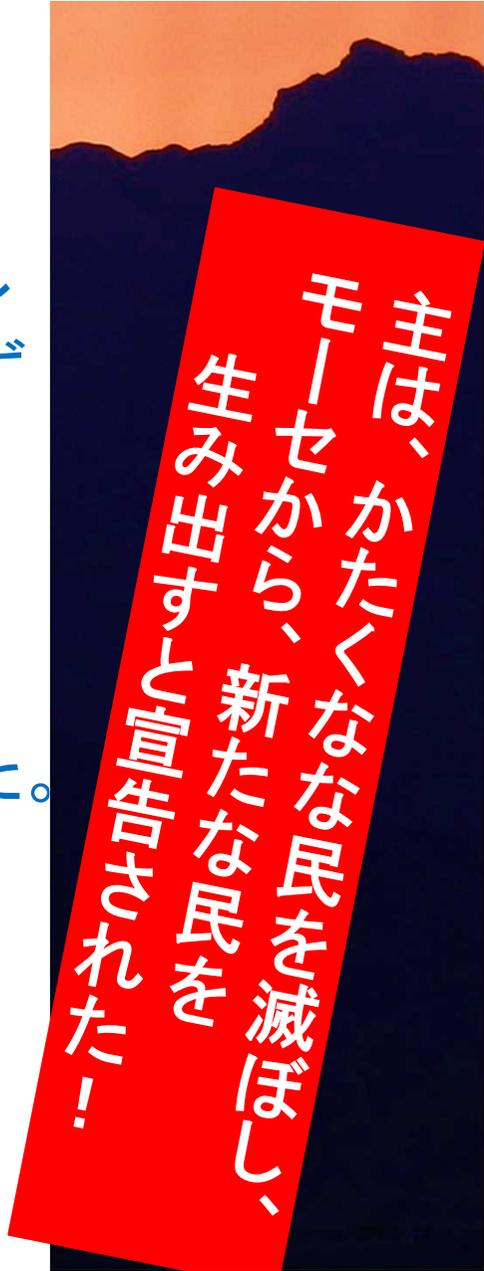
偶像の祭りに伴う
性的淫乱を示す

飲めや食えやの大騒ぎが、繰り広げられた!!

【神の怒り】 出 32:7～10

【主】はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただから。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言っている。」

【主】はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」



【仲介者の使命】 出 32:11～12

しかしモーセは、彼の神、【主】に嘆願して言った。「【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。

また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざいを思い直してください。」

■ モーセのとりなしポイント・その1

神の憐れみに訴え、御名が汚されないよう願う。



【神の恵みに訴えるモーセ】 出 32:13～14

あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる』と仰せられたのです。」すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された。

■アブラハム契約の恵みに訴えたモーセ!!

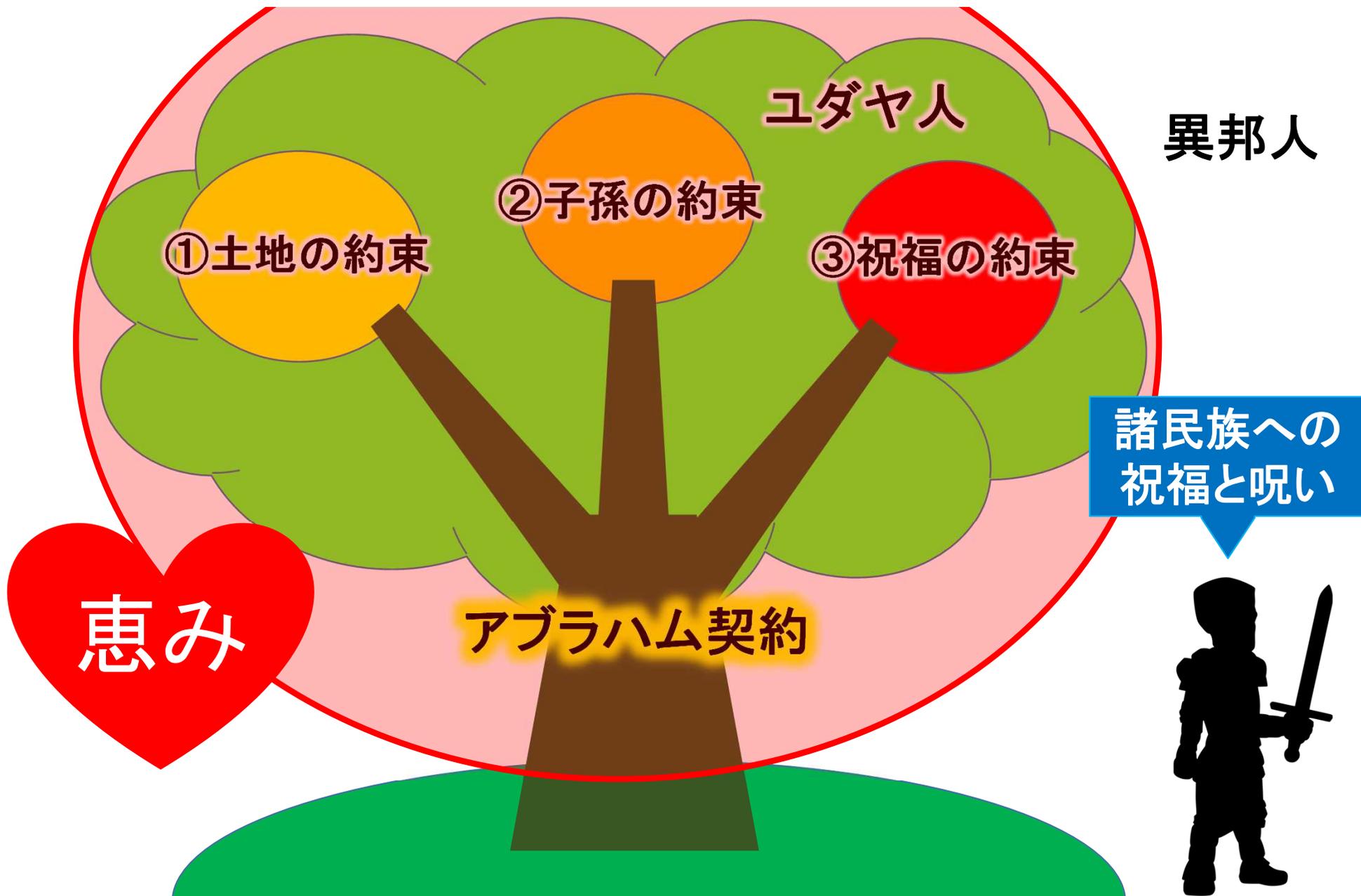
神が、イスラエルに無条件に約束された、

①子孫の祝福、②土地の約束が、その根拠!!

アブラハム契約への
深い理解を示すモーセ



【アブラハム契約】



【下山】 出 32:15～18

モーセは向き直り、二枚のあかしの板*を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にいくさの音がします。」するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

* 十戒の石板 ...同じ文面が2枚か。複数の証人を示す。

■ 未成熟なヨシュアとは対照的に、

人の罪の現実を見据える、とりなし手、モーセの姿。



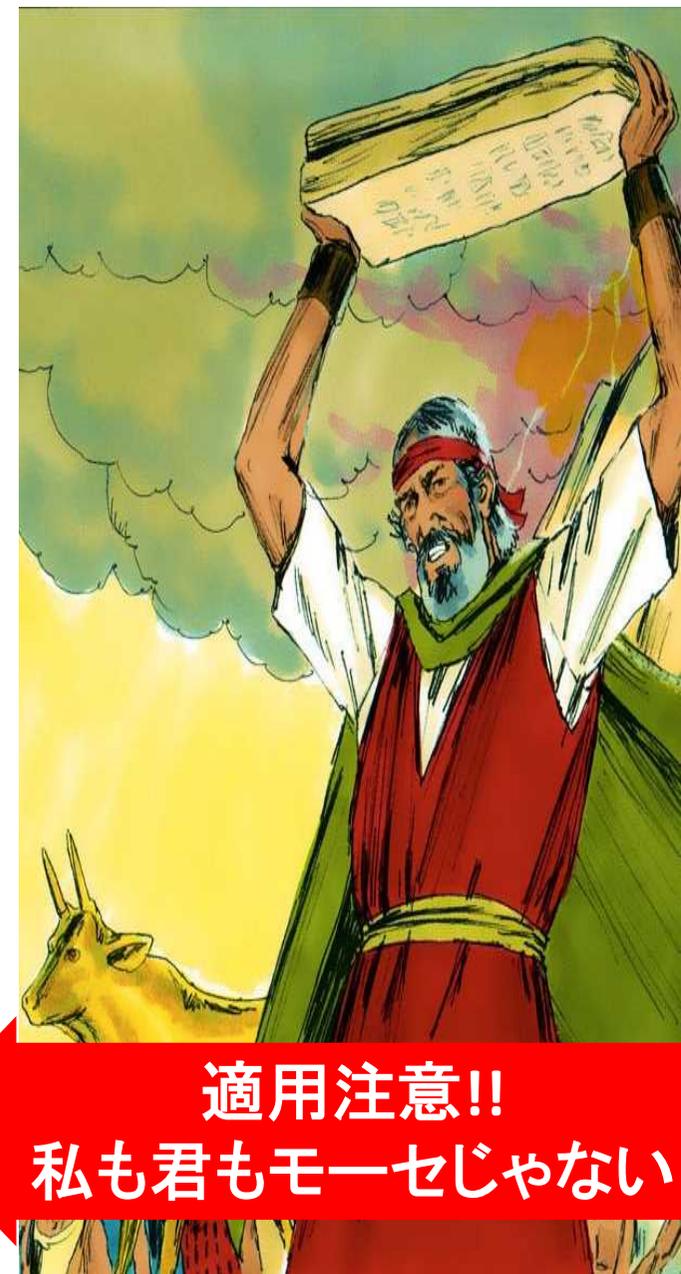
【モーセの怒り】 出 32:19～21

宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上にかき散らし、イスラエル人に飲ませた。

モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

■モーセの怒りは、仲介者としての神の代弁



適用注意!!
私も君もモーセじゃない

【アロンの言い訳】 出 32:22～25

アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。

モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

■ 敵？ ...敵対する諸民族？ 背後でほくそ笑む悪の勢力？

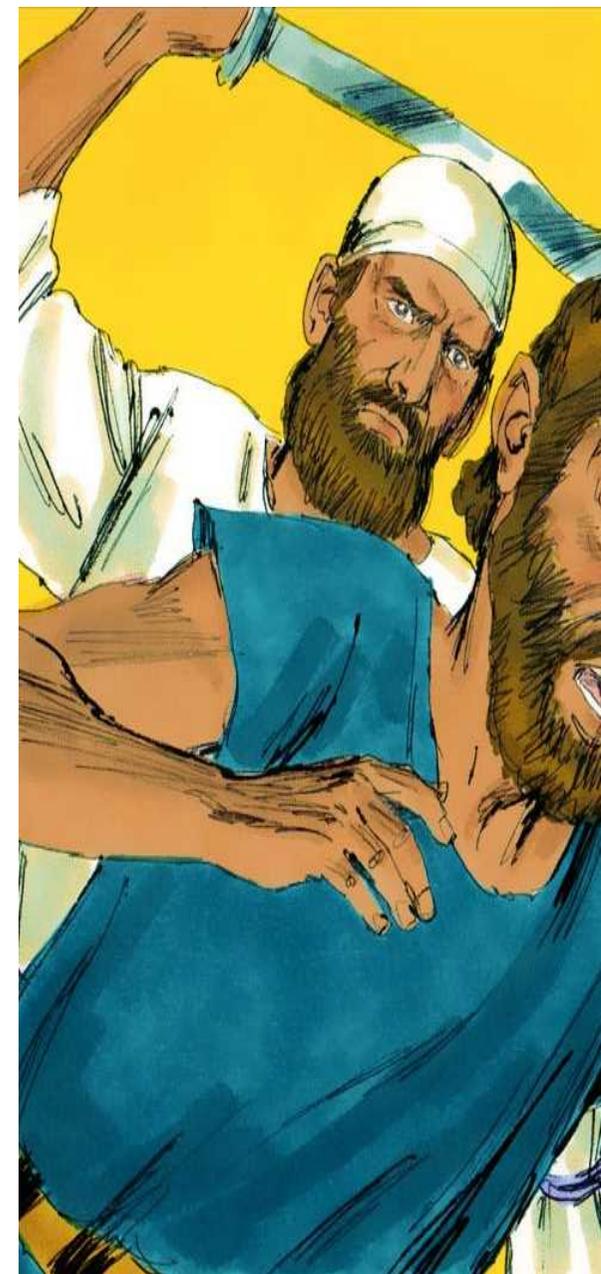
「どこのような、アロンの言い訳！」



【聖絶】 出 32:26～28

そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、【主】につく者は、私のところに」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのおの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

- 神につくか、人につくか、選択を求めたモーセ。
- 悔い改めなかった、事件の首謀者たちが打たれた。
 - ➡ その多くがレビ人。主に仕える者の責任の重さ。



【命がけのモーセのとりなし】 出 32:29～32

そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのおのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、【主】に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は【主】のところに上って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら—。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

本当に命と引き換えにされたとりなし手は、メシアである主イエス



【与えられた猶予】 出 32:33～35

すると【主】はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前を行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」
こうして、【主】は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

- イスラエルへの究極的裁きが、大患難時代。再臨されるメシアが、裁き主として来られる。



裁きの中にもある
恵みの要素。
民に与えられた
猶予期間。



IV. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考えよう
教会の内にも忍び寄る偶像



【偶像礼拝とは？】

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在

■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。

偶像とは、ひたすら、
人間にとって、都合のよいもの。
欲望の投影。



【教会に忍び寄る、目には見えない偶像とは？】

■ アロンが示した、無責任と甘え。➡ 勝手に偶像ができた。

「そこで、神は彼らに背を向け、

彼らが天の星に仕えるままにされました。」 使 7:42

➡偶像礼拝の根源とは、世の支配者(サタン)への依存。

■ 愛ばかりが強調される教会にある、強い束縛、支配の不思議。

人間的母性の特徴は、無条件の愛と、無制限の支配。

「ずっと、ありのままがいい」「どこまでも、あなたはわたしのもの」

➡制限のない依存と支配の背後に働いている存在は？

■ 義の神がもたらすのは、制約と自由。

これを守るなら、祝福がある。➡ 選択権と責任は、各々に!!

【神の義に生きるものになるために!!】

- 決して、自然には身につかないのが、父性。
父性とは、“約束の大切さに基づき、制約と自由をもたらすもの。”
→ 責任の範囲を明らかにし、選択の自由を人に与える。
- 父性を身につけるために必要なのは、“契約の概念を学ぶこと。”
契約は、誰かに教わらなければ、決して分からない。
- 愛の神は、一方的恵みによって、イスラエルを救い出され、
義なる神は、契約によって、イスラエルに成長を促される。
- 十字架の恵みによって、贖い出された私たちは、
御霊の導きによって育まれ、信仰の成熟へと促されていく。
御霊の最大の働きは、約束に基づく神の計画の全貌を教えること。
- 神の契約への理解を深め、約束にもとづく真の自由を味わっていこう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしたちの内(うち)にしのびよる、偶像(ぐうぞう)から、おまもりください。主の約束(やくそく)についての理解(りかい)を深(ふか)め、契約(けいやく)がもたらす、まことの自由(じゆう)を味(あじ)わわせ、よろこび生(い)きる者(もの)へと成長(せいちょう)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」

8
モセ

聖徒伝 34

「アイドル フェスタ」

出25～32章 幕屋建設命令・金の子牛事件

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 幕屋建設命令 25～31章

II. 金の子牛事件 32章

III. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考える

教会の内にも忍び寄る偶像



イスラエルの歩みは
すべて アブラハムへの
神の約束から始まった



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

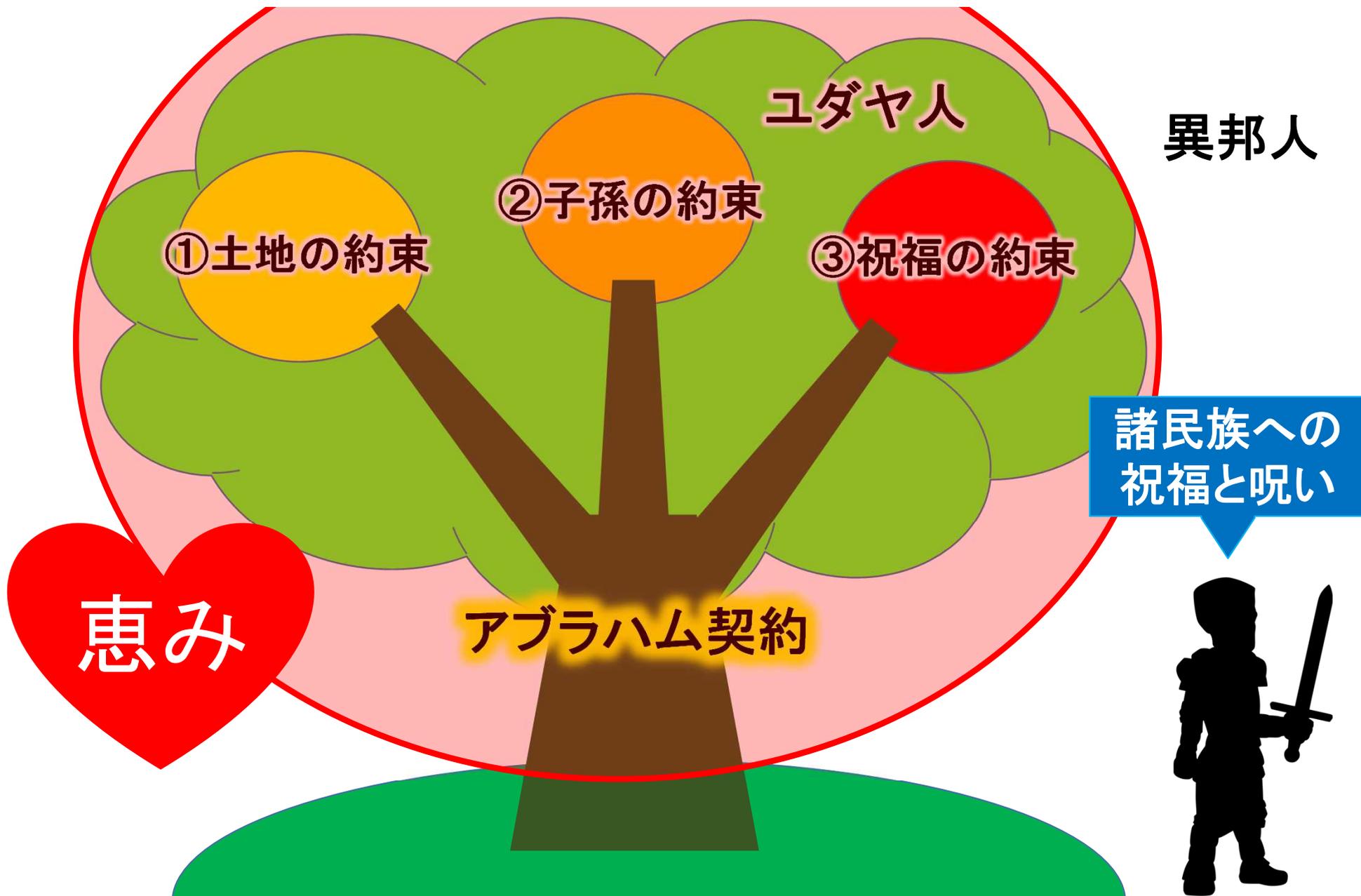
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

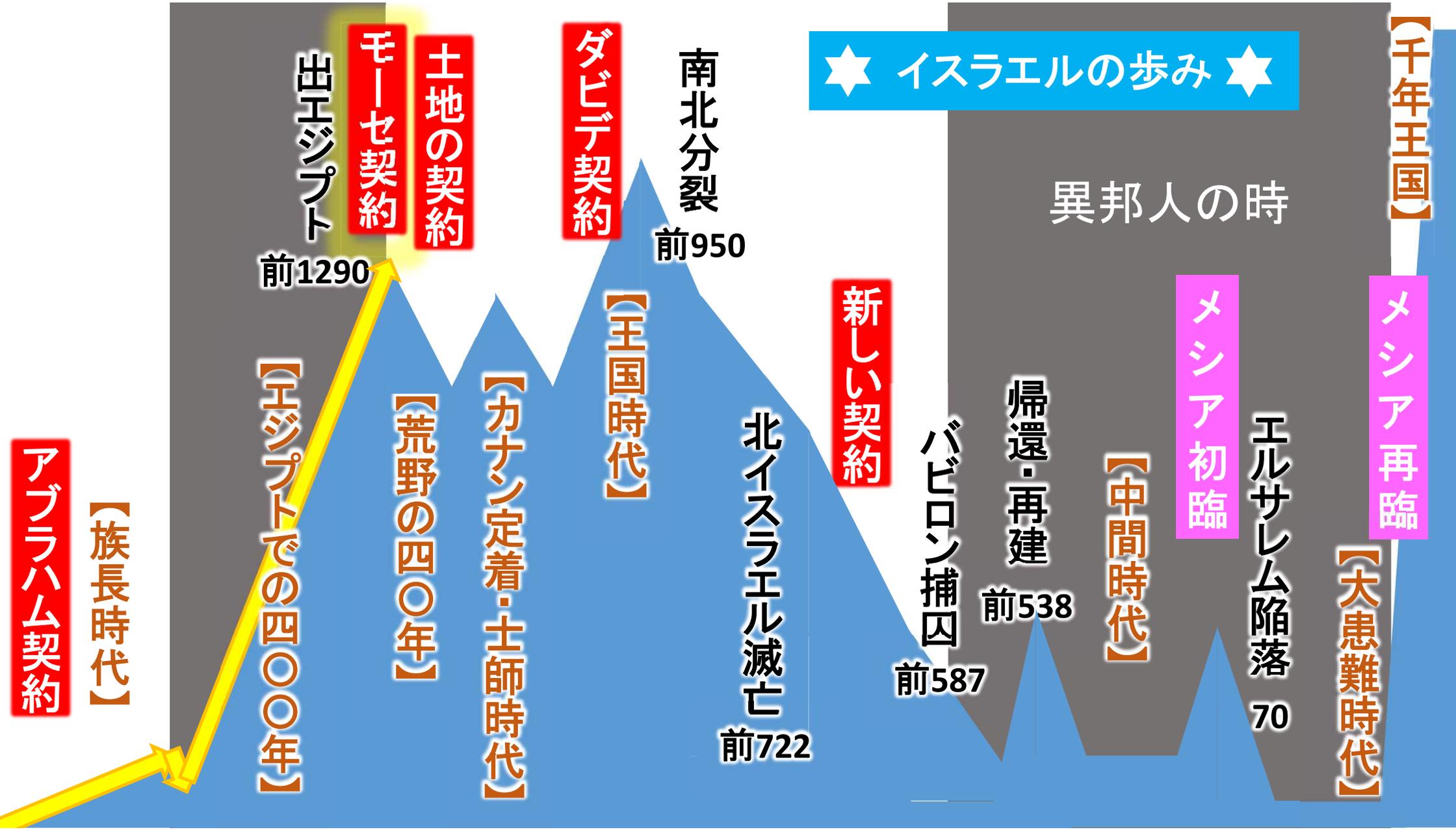


イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!

【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。
- 40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。
- 80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。
- パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。
- モーセは、イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
葦の海を渡り、荒野を横切り、シナイ山へ。
- シナイ山に、神が顕現され、モーセを仲介者として
律法を授与された。律法の中である十戒が、
民の前で読み上げられた。



0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命
80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

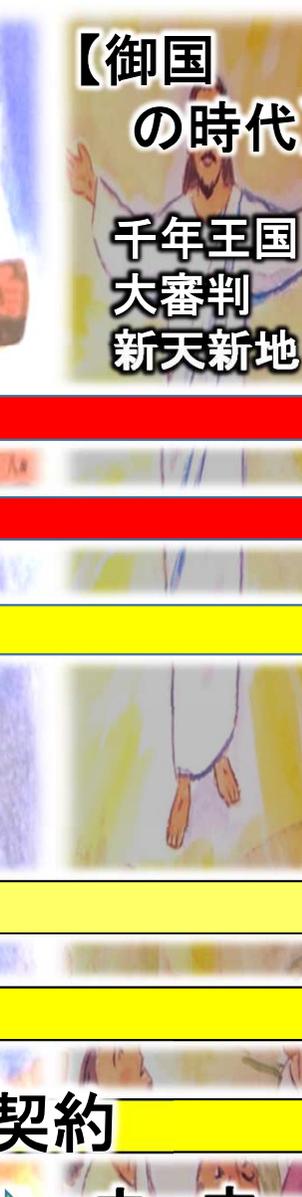
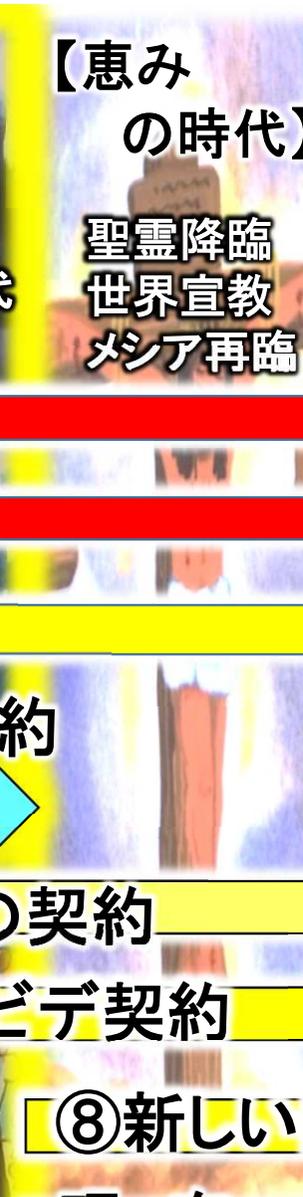
民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

律法は、イスラエルを導く、飴と鞭

罪を思い知らせ、救い主へ導く

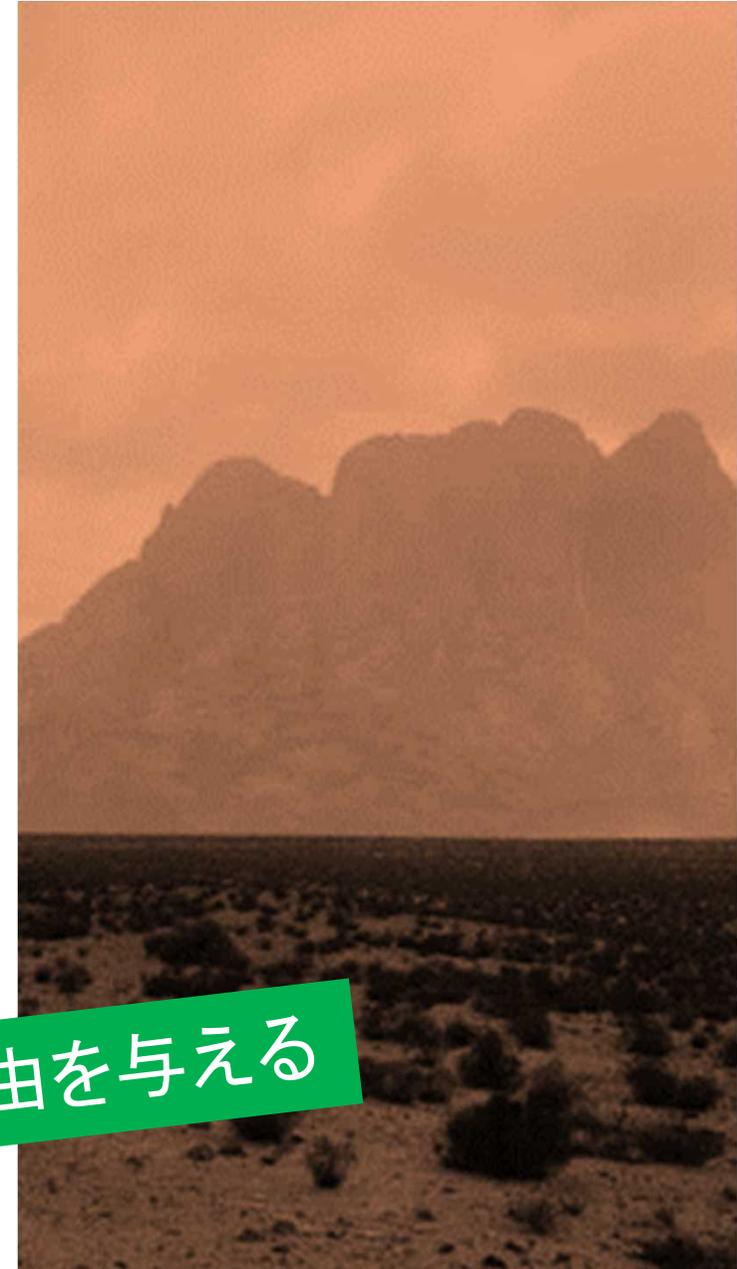


【法が、人にもたらしたものの】

- 法は、束縛？ では、法がなかったら？
- 無制限に、人に、正しさが求められたら？
いったい誰が、神のもとにたどり着ける？
- 法は、神ご自身に制限を加え、
私たち人間に、チャンスと自由を与えるもの!!

法は、神ご自身を縛り、

人に機会と自由を与える



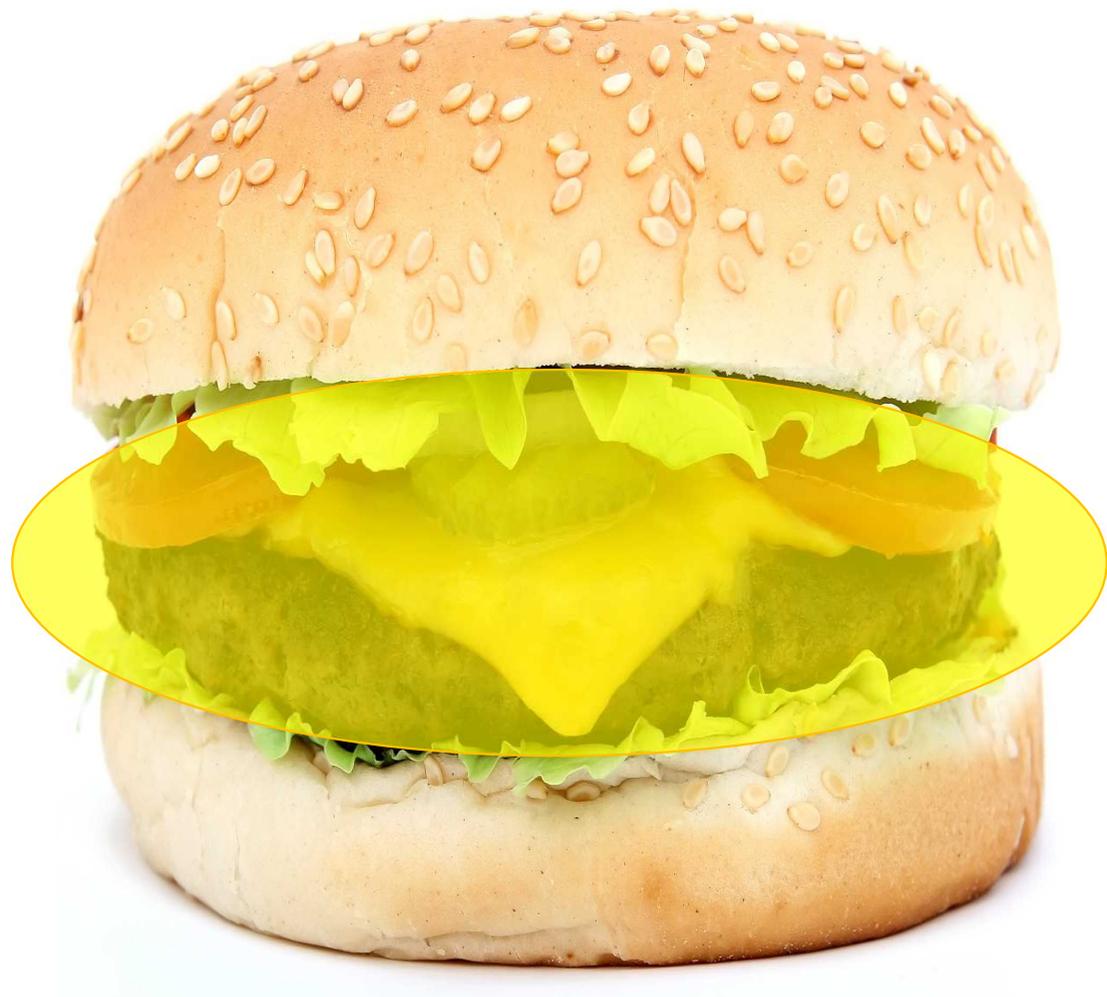


I. 幕屋建設命令

出エジプト記25～31章

【出エジプト記・後半の流れを確認しよう!!】

- 律法授与 20～24章
- 幕屋建設の指示 25～31章
- 金の子牛事件 32章
- 律法の再授与 33～34章
- 幕屋建設・完成 35～40章



【幕屋建設命令】 出 25:1~7

【主】はモーセに告げて仰せられた。

「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。彼らから受けてよい奉納物は次のものである。金、銀、青銅、青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、燈油、そそぎの油とかおりの高い香のための香料、エポデや胸当てにはめ込むしまめのうや宝石。」

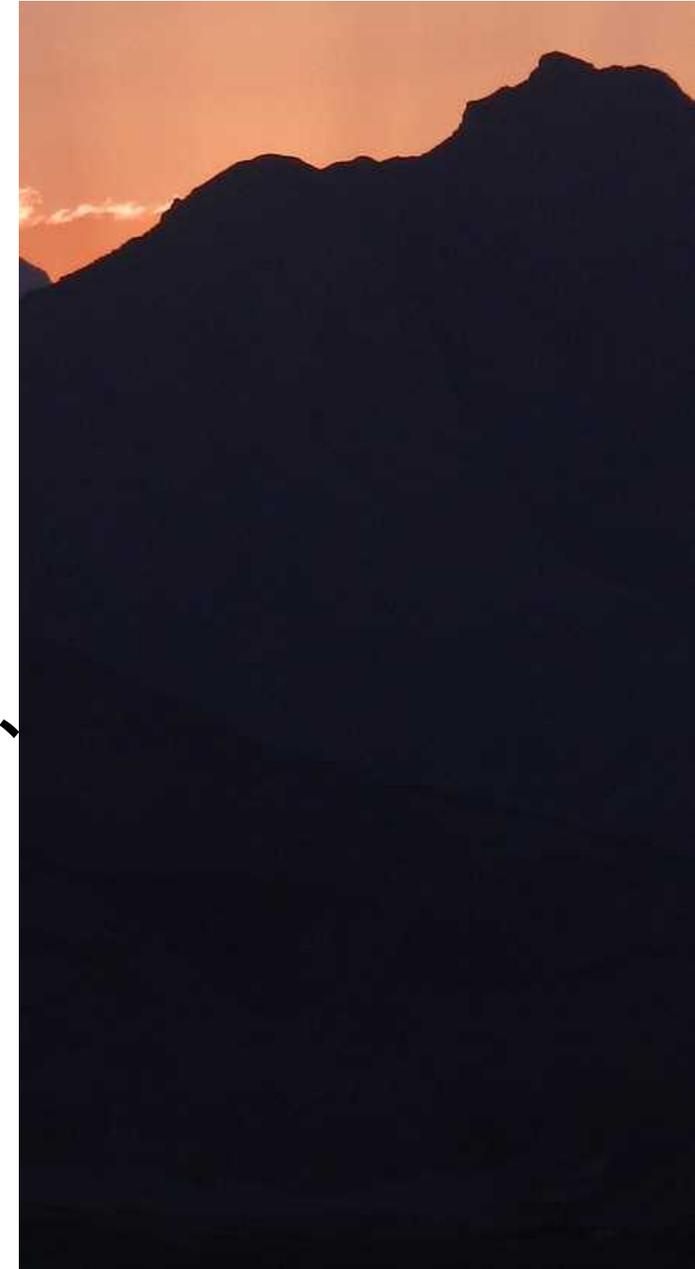


エジプトから得た
贈り物が材料に!!

【幕屋建設命令】 出25:8～9

彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。

- 人が罪を犯した時、地上を離れた神の栄光が、部分的とはいえ、再び地上に住まわれる!!
- 神の方法に従うことで、神に近づける。
➡幕屋の実際の建設は、35～40章。



【幕屋建設の目的】

- ①王なる神が住まわれる**王宮**。
②民が神を礼拝する**神殿**。
- 幕屋は、天にあるものの写し(ヘブ8:5)
- 幕屋は、神が聖なることを教える、罪人が、神に近づくための神の方法。



【幕屋とは？】

- 移動式のテントの神殿。神の王宮。
天にある神の住まいのひな形。視覚教材。
⇒究極的に、メシアそのものを示す!!
※教会堂は、幕屋でも、神殿でもない。
教会堂に近いのは、ユダヤの会堂。

- 出エジプト記の半分は、律法の記述。
3分の1以上は、幕屋の記述。

- 出エジプト記で最も重大なのは幕屋。
幕屋に、シャカイナグローリーが宿る!!



「出25:8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」

【幕屋】 出25～31章

- ①契約の箱 25:16～21
- ②供卓 25:23～30
- ③燭台 25:31～40
- ⑤幕屋の幕 構造物 26:1～37
- ⑥祭壇 27:1～8
- ⑦庭 27:9～21
- ⑧祭服 28:1～42
- ⑨祭司の聖別 29:1～46
- ⑩香壇 30:1～10
- ⑪きよめ 日々の祈り 30:11～38
- ⑫技術者の任命 31:1～11

幕屋の内

幕屋の外

祭司



メシアの型の説明は
次々回に!!

【契約の箱】 出25:10～22

■ 縦113cm × 横68cm × 高さ45cm
アカシア材＋純金

■ 最も重要な祭具

★ 契約の箱の
贖いの蓋のケルビム*の間に
(* 神の側近の天使)
シャカイナグローリーが宿った。

■ 中身は、①十戒の石版2枚
②アロンの杖
③マナの壺



【供卓】 出25:23～30



12部族を表す12枚のパンを捧げた。

【燭台(メノラー)】 出25:31～40



幕で暗闇となっている
聖所内を照らすもの。

【幕屋の構造】 出26章

■ 幕

④じゅごんの皮

③雄羊の皮(赤になめす)

②ヤギの織物

①亜麻布の織物

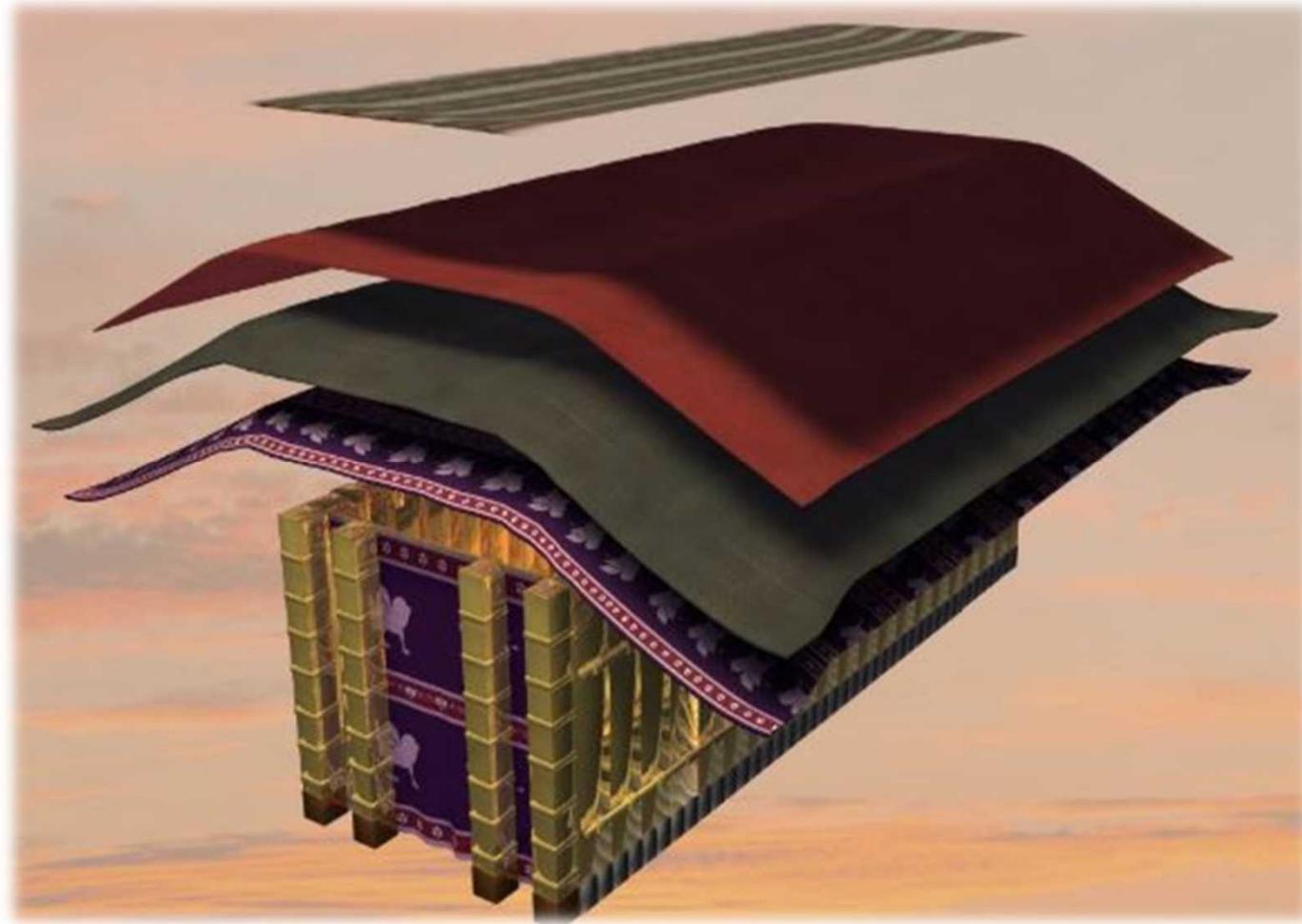
(ケルビム*の刺繍入)

* 最上位の天使

■ 骨組みとなる縦横の板

...金で覆われた

■ 青銅製の土台



【幕屋内部】 出26章

縦13,3m

× 横4,4m

× 高さ4,4m

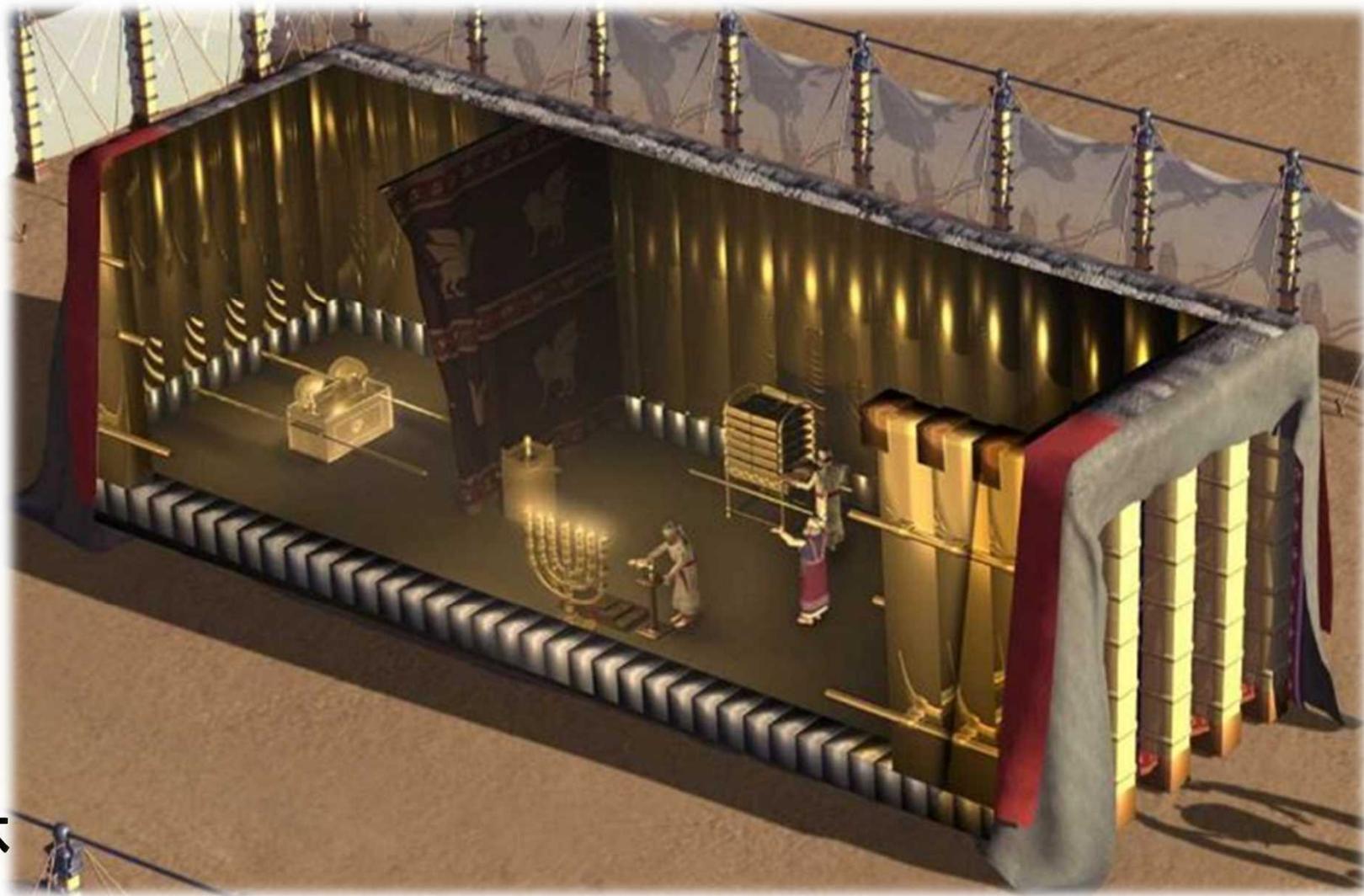
17,5坪 36畳

・聖所 24畳

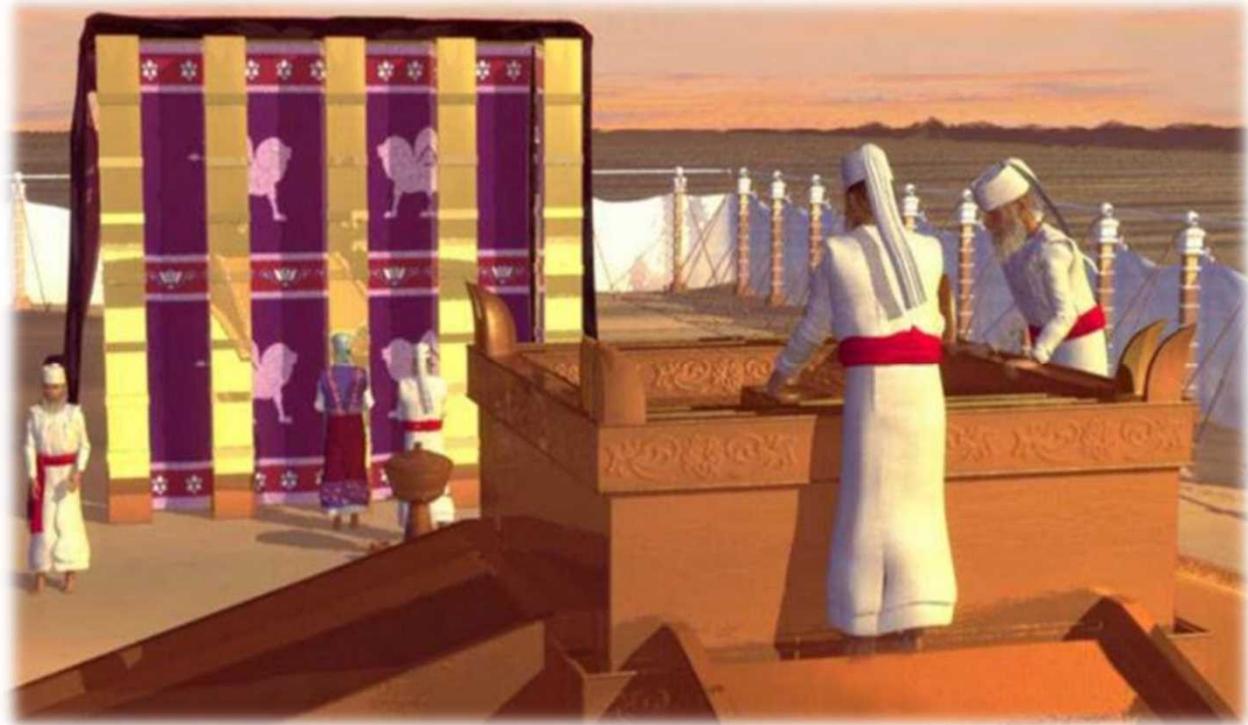
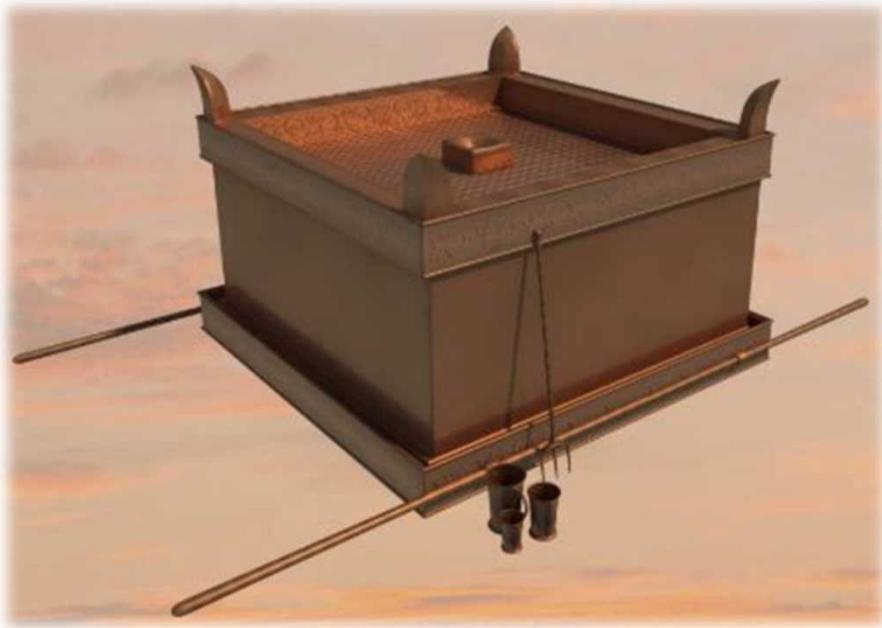
・至聖所 12畳

縦横高さ

4.4m³の立方体



【祭壇】 出27章



縦2,2m × 横2,2m × 高さ1,3m

大きなバーベキューコンロ。ここで生け贄の動物を焼いた

【幕屋の庭】 出27章

【北】

【西】



【東】

【南】

縦(東西)44m × 横(南北)22m 約970m² 約300坪

【祭服】 出28～29章

■大祭司

▼亜麻布の長服の上に以下を着用

- ①エポデ(聖なるエプロン?!)
- ②裁きの胸当て(12の宝石付)
- ③ウリムとトンミル
...肩につけた二つの石。神意を伺う。
- ④青服(袖なしのワンピース)
- ⑤額当て ...「主の聖なる者」と彫られた。

■一般の祭司

亜麻布の長服のみ。



【香の壇】 出30章



縦44cm × 横44cm × 高さ8cm ➡香は、「祈り」を現す。

香を焚く奉仕は、イスラエルを代表する祈り。名誉ある奉仕だった。

例)洗礼者ヨハネの父・祭司ザカリアの神殿の奉仕(ルカ1:5～25)

【安息日】 出31章

「31:15 六日間は仕事をしてよい。しかし、七日目は、【主】の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。

31:17 これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである」

- イスラエルに求められる、神への完全な信頼(安息)。
- 安息日は、イスラエルを他と区別(聖別)する、しるし。
- ★ 「ユダヤ人が安息日を守ったのではなく、安息日がユダヤ人を守った」 ...ユダヤの格言

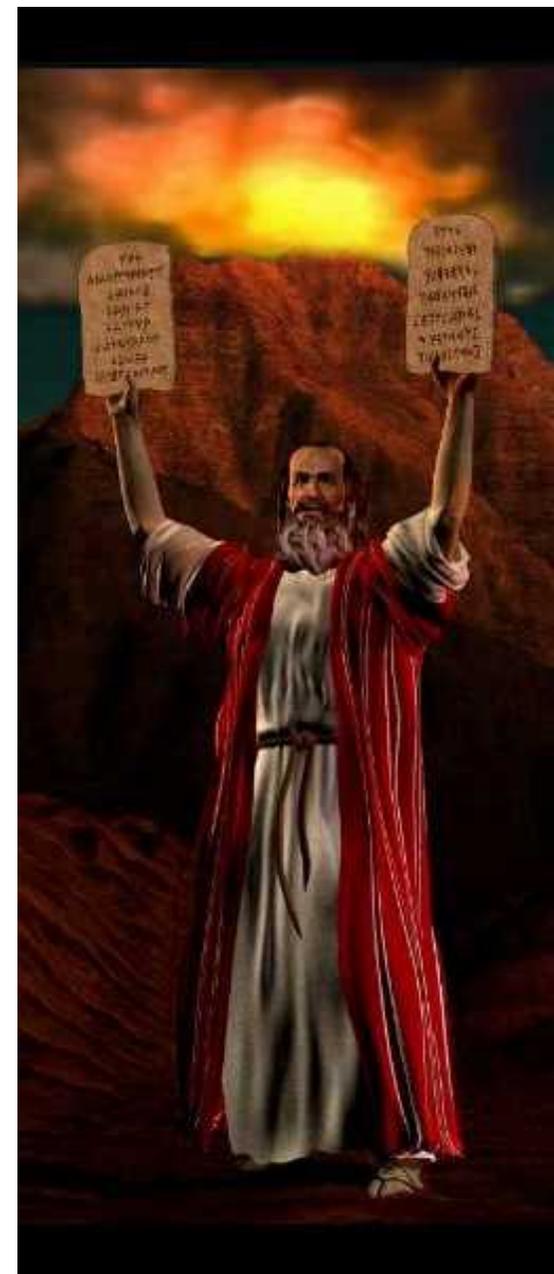


【十戒の石板】 出 31:17~18

「これ(安息日)は、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである。」

こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。

- 「安息日」は、神の完全さを示し、民に、神の律法への全的信頼を求める。
- 律法の中心である「十戒」が、神ご自身の手で、石の板に刻まれた。



Ⅱ. 金の子牛事件

出エジプト記32章

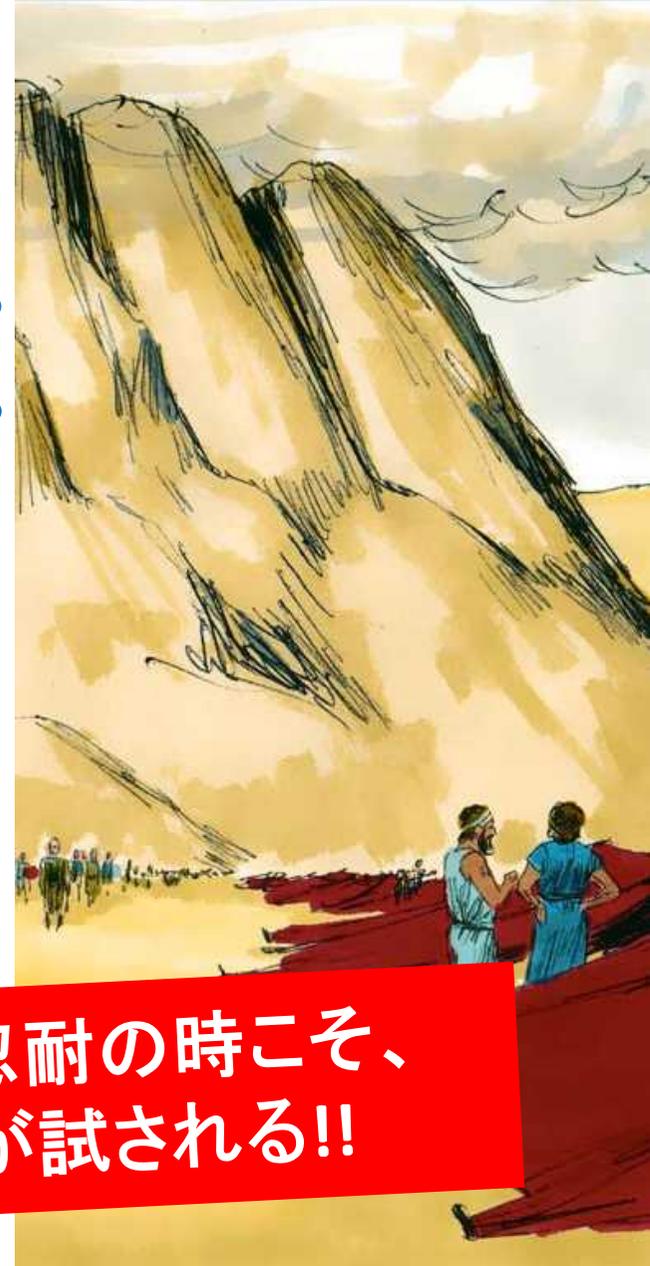


【民の圧力】 出32:1

民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにわかっていから」

- モーセがシナイ山に上って40日が過ぎていた。
- 民は、目に見える安心を求め、アロンに詰め寄った。

座して待つ忍耐の時こそ、最も信仰が試される!!



【金の子牛】 出32:2～4

それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」

そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鑄物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」と言った。



言い逃れられない
自覚的な罪!!

■なぜ子牛？ ➡ エジプトの影響?! (アピス、ハトホル等)

人物像ではなく、成牛でもなく、子牛。➡後ろめたさがあった?!

【偶像礼拝】 出32:5～6

アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼わって言った。「あすは【主】への祭りである。」

そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた。



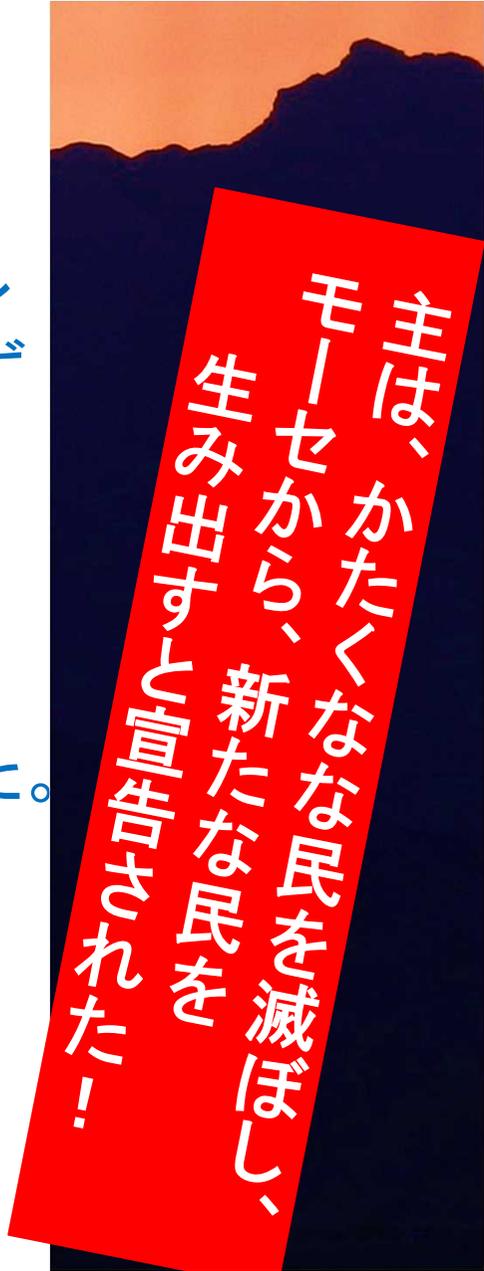
偶像の祭りに伴う
性的淫乱を示す

飲めや食えやの大騒ぎが、繰り広げられた!!

【神の怒り】 出 32:7～10

【主】はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただから。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言っている。」

【主】はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」



【仲介者の使命】 出 32:11～12

しかしモーセは、彼の神、【主】に嘆願して言った。「【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。

また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざいを思い直してください。」

■ モーセのとりなしポイント・その1

神の憐れみに訴え、御名が汚されないよう願う。



【神の恵みに訴えるモーセ】 出 32:13～14

あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる』と仰せられたのです。」すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された。

■ アブラハム契約の恵みに訴えたモーセ!!

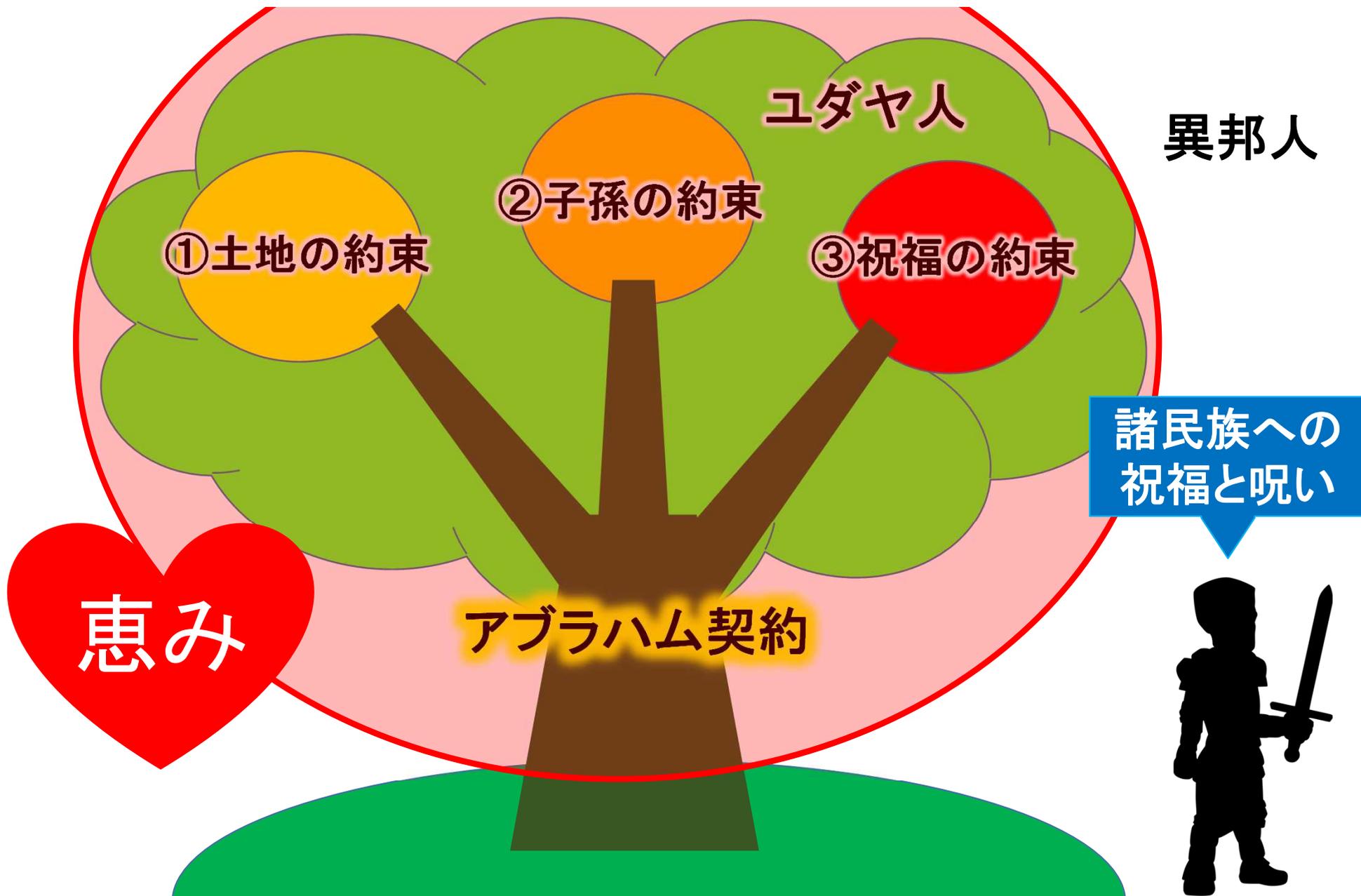
神が、イスラエルに無条件に約束された、

①子孫の祝福、②土地の約束が、その根拠!!



アブラハム契約への
深い理解を示すモーセ

【アブラハム契約】



【下山】 出 32:15～18

モーセは向き直り、二枚のあかしの板*を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にいくさの音がします。」するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

* 十戒の石板 ...同じ文面が2枚か。複数の証人を示す。

■ 未成熟なヨシュアとは対照的に、

人の罪の現実を見据える、とりなし手、モーセの姿。



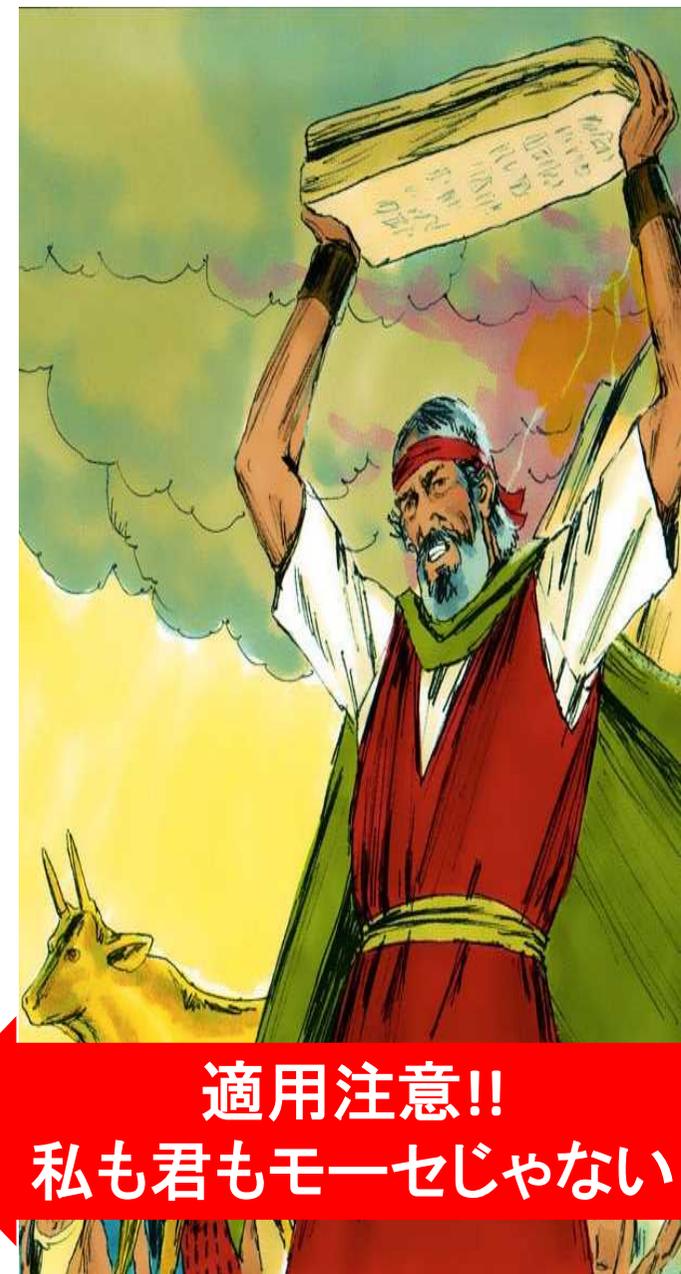
【モーセの怒り】 出 32:19～21

宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上にかき散らし、イスラエル人に飲ませた。

モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

■モーセの怒りは、仲介者としての神の代弁



適用注意!!
私も君もモーセじゃない

【アロンの言い訳】 出 32:22～25

アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。

モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

■ 敵？ ...敵対する諸民族？ 背後でほくそ笑む悪の勢力？

「どこのような、アロンの言い訳！」



【聖絶】 出 32:26～28

そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、【主】につく者は、私のところに」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのこの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのこのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

- 神につくか、人につくか、選択を求めたモーセ。
- 悔い改めなかった、事件の首謀者たちが打たれた。
 - ➔ その多くがレビ人。主に仕える者の責任の重さ。



【命がけのモーセのとりなし】 出 32:29～32

そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのこのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、【主】に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は【主】のところに上って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら—。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

本当に命と引き換えにされたとりなし手は、メシアである主イエス



【与えられた猶予】 出 32:33～35

すると【主】はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前を行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」
こうして、【主】は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

- イスラエルへの究極的裁きが、大患難時代。再臨されるメシアが、裁き主として来られる。



裁きの中にもある
恵みの要素。
民に与えられた
猶予期間。



IV. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考えよう
教会の内にも忍び寄る偶像



【偶像礼拝とは？】

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在

■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。



偶像とは、ひたすら、
人間にとって、都合のよいもの。
欲望の投影。

【教会に忍び寄る、目には見えない偶像とは？】

■ アロンが示した、無責任と甘え。➡ 勝手に偶像ができた。

「そこで、神は彼らに背を向け、

彼らが天の星に仕えるままにされました。」 使 7:42

➡偶像礼拝の根源とは、世の支配者(サタン)への依存。

■ 愛ばかりが強調される教会にある、強い束縛、支配の不思議。

人間的母性の特徴は、無条件の愛と、無制限の支配。

「ずっと、ありのままがいい」「どこまでも、あなたはわたしのもの」

➡制限のない依存と支配の背後に働いている存在は？

■ 義の神がもたらすのは、制約と自由。

これを守るなら、祝福がある。➡ 選択権と責任は、各々に!!

【神の義に生きるものになるために!!】

- 決して、自然には身につかないのが、父性。
父性とは、“約束の大切さに基づき、制約と自由をもたらすもの。”
→ 責任の範囲を明らかにし、選択の自由を人に与える。
- 父性を身につけるために必要なのは、“契約の概念を学ぶこと。”
契約は、誰かに教わらなければ、決して分からない。
- 愛の神は、一方的恵みによって、イスラエルを救い出され、
義なる神は、契約によって、イスラエルに成長を促される。
- 十字架の恵みによって、贖い出された私たちは、
御霊の導きによって育まれ、信仰の成熟へと促されていく。
御霊の最大の働きは、約束に基づく神の計画の全貌を教えること。
- 神の契約への理解を深め、約束にもとづく真の自由を味わっていこう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしたちの内(うち)にしのびよる、偶像(ぐうぞう)から、おまもりください。主の約束(やくそく)についての理解(りかい)を深(ふか)め、契約(けいやく)がもたらす、まことの自由(じゆう)を味(あじ)わわせ、よろこび生(い)きる者(もの)へと成長(せいちょう)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」

8
モセ

聖徒伝 34

「アイドル フェスタ」

出25～32章 幕屋建設命令・金の子牛事件

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 幕屋建設命令 25～31章

II. 金の子牛事件 32章

III. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考える

教会の内にも忍び寄る偶像



イスラエルの歩みは
すべて アブラハムへの
神の約束から始まった



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

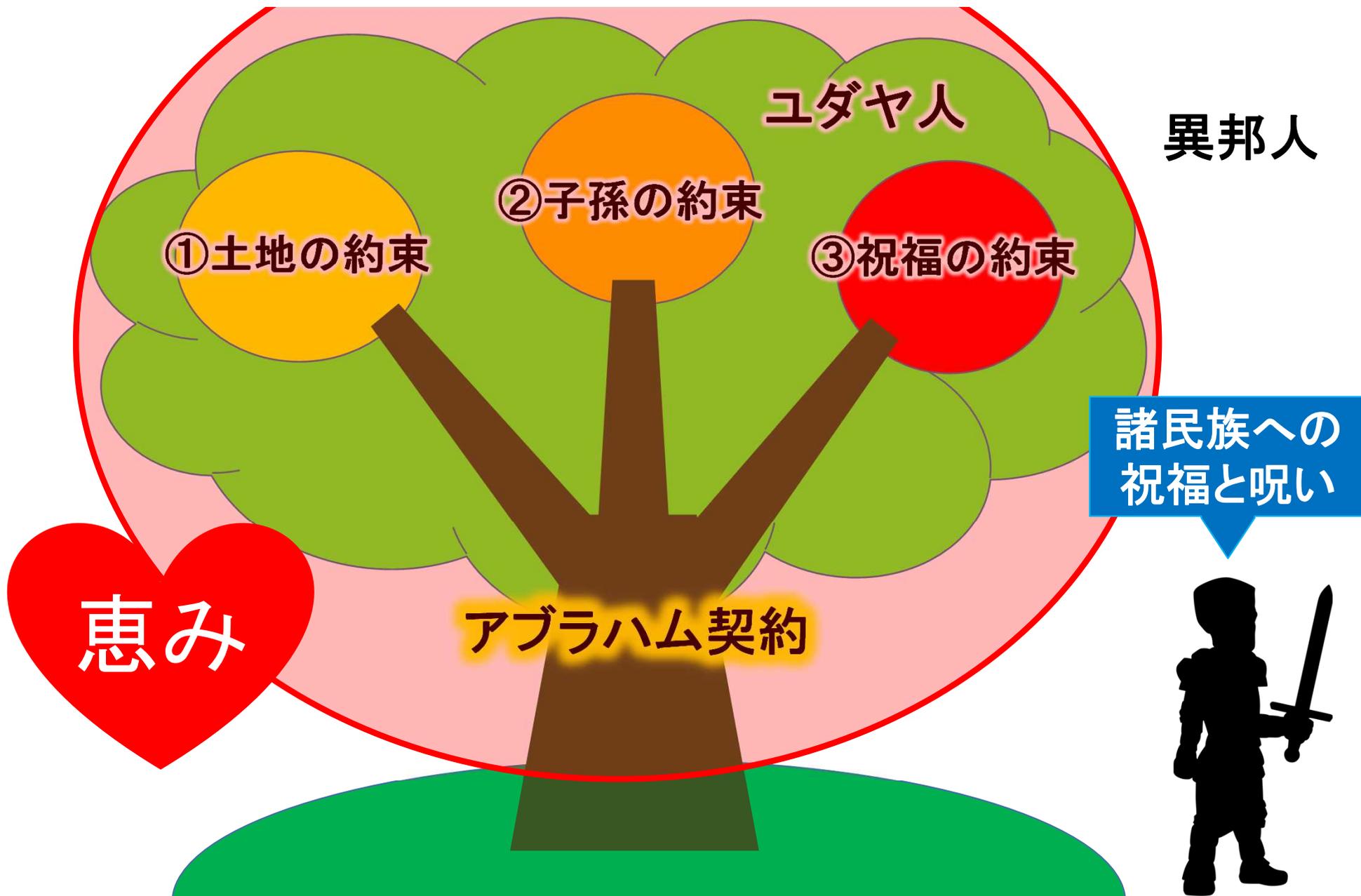
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

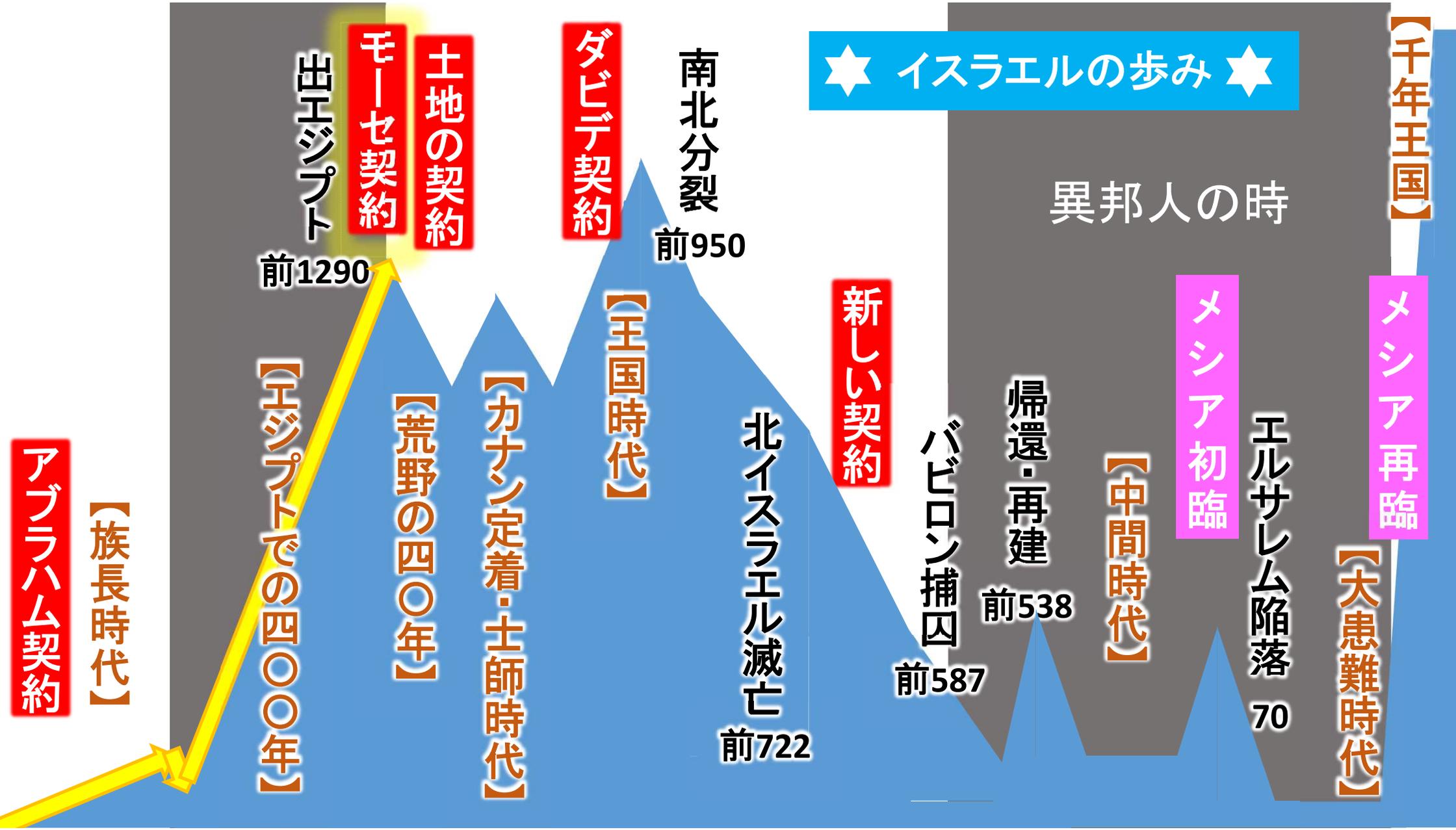
イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

新しい契約

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。
- 40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。
- 80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。
- パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。
- モーセは、イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
葦の海を渡り、荒野を横切り、シナイ山へ。
- シナイ山に、神が顕現され、モーセを仲介者として
律法を授与された。律法の中である十戒が、
民の前で読み上げられた。



0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘ツッポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命
80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

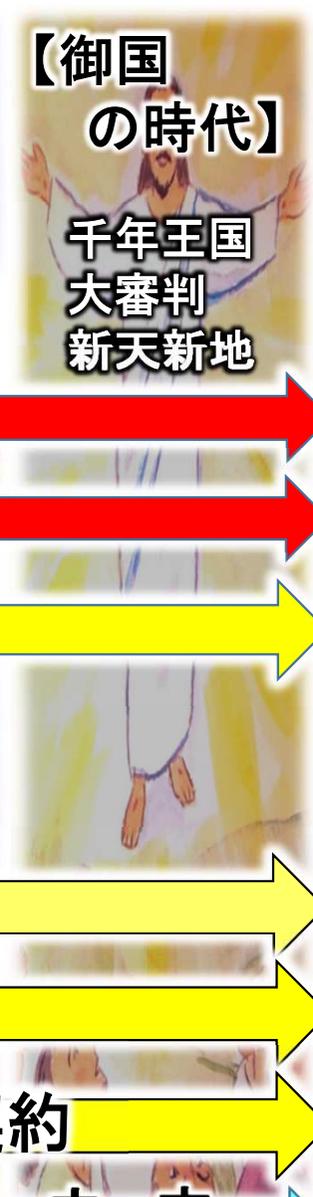
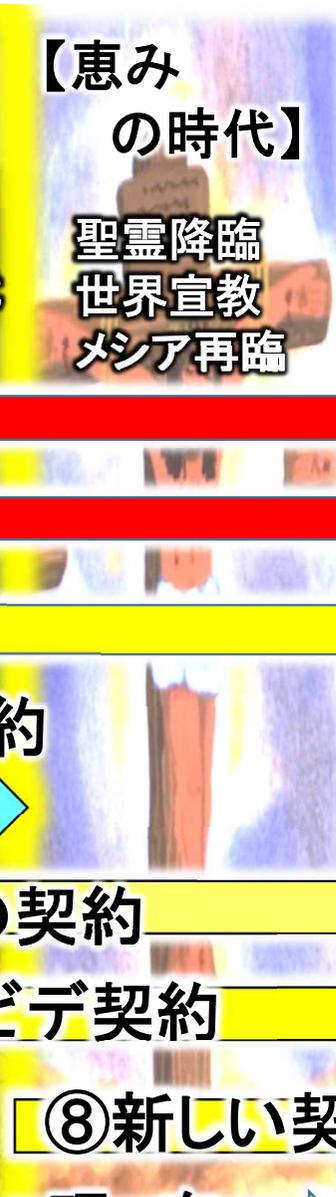
民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

律法は、イスラエルを導く、飴と鞭

罪を思い知らせ、救い主へ導く

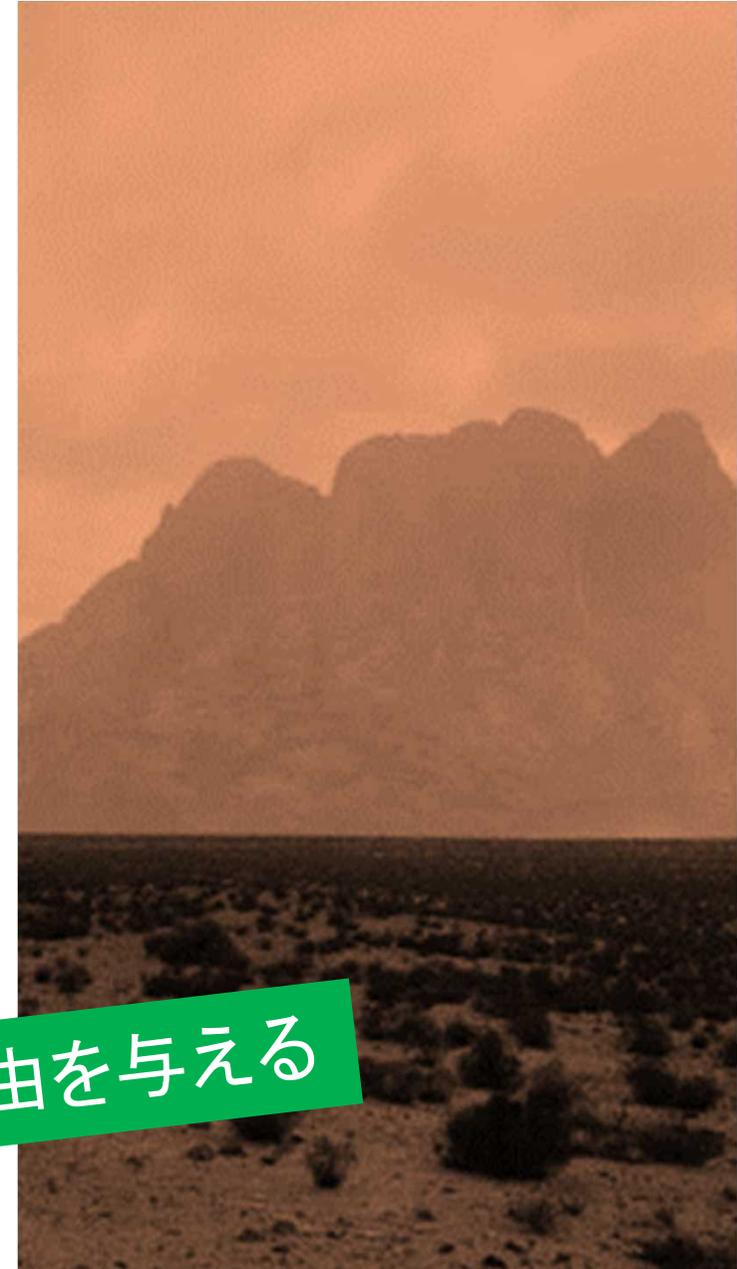


【法が、人にもたらしたものの】

- 法は、束縛？ では、法がなかったら？
- 無制限に、人に、正しさが求められたら？
いったい誰が、神のもとにたどり着ける？
- 法は、神ご自身に制限を加え、
私たち人間に、チャンスと自由を与えるもの!!

法は、神ご自身を縛り、

人に機会と自由を与える



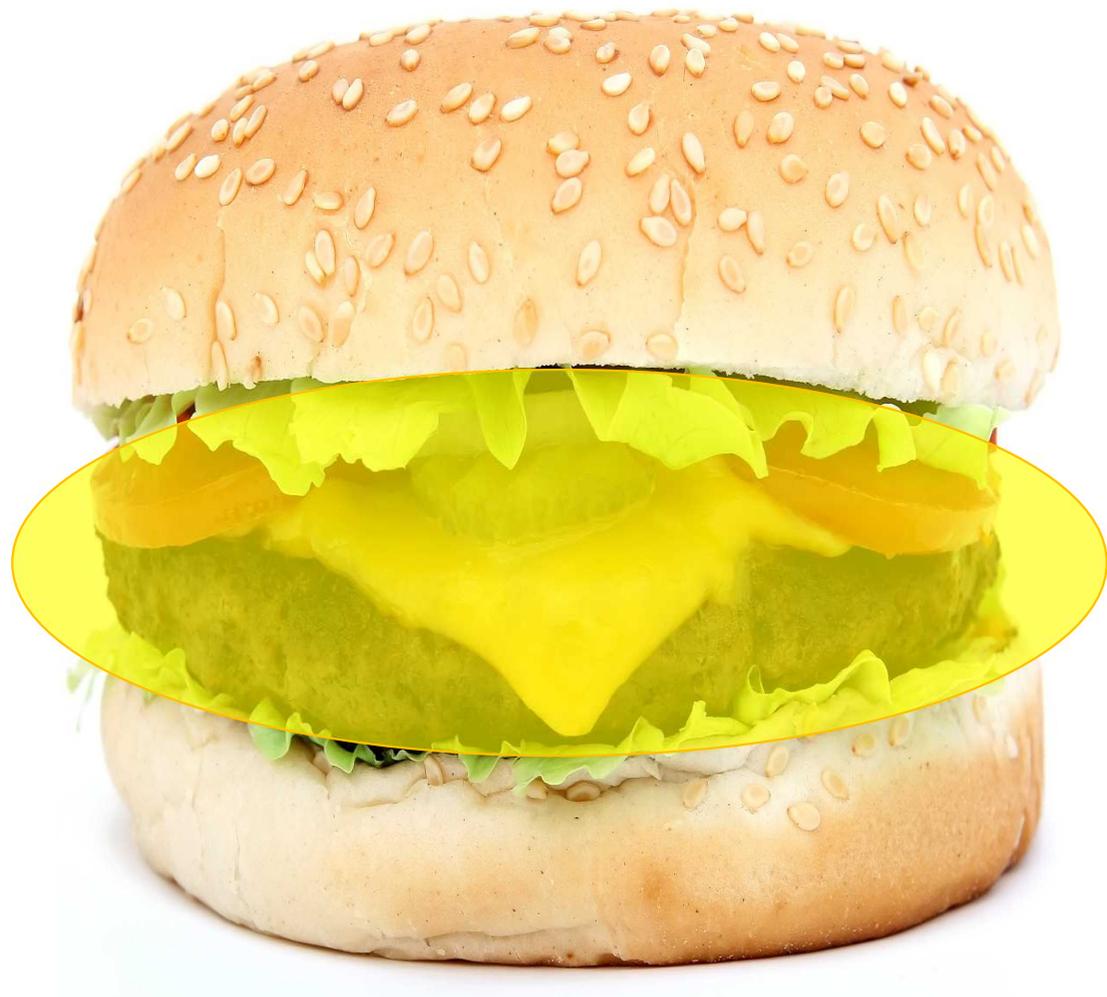


I. 幕屋建設命令

出エジプト記25～31章

【出エジプト記・後半の流れを確認しよう!!】

- 律法授与 20～24章
- 幕屋建設の指示 25～31章
- 金の子牛事件 32章
- 律法の再授与 33～34章
- 幕屋建設・完成 35～40章



【幕屋建設命令】 出 25:1~7

【主】はモーセに告げて仰せられた。

「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。彼らから受けてよい奉納物は次のものである。金、銀、青銅、青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、燈油、そそぎの油とかおりの高い香のための香料、エポデや胸当てにはめ込むしまめのうや宝石。」

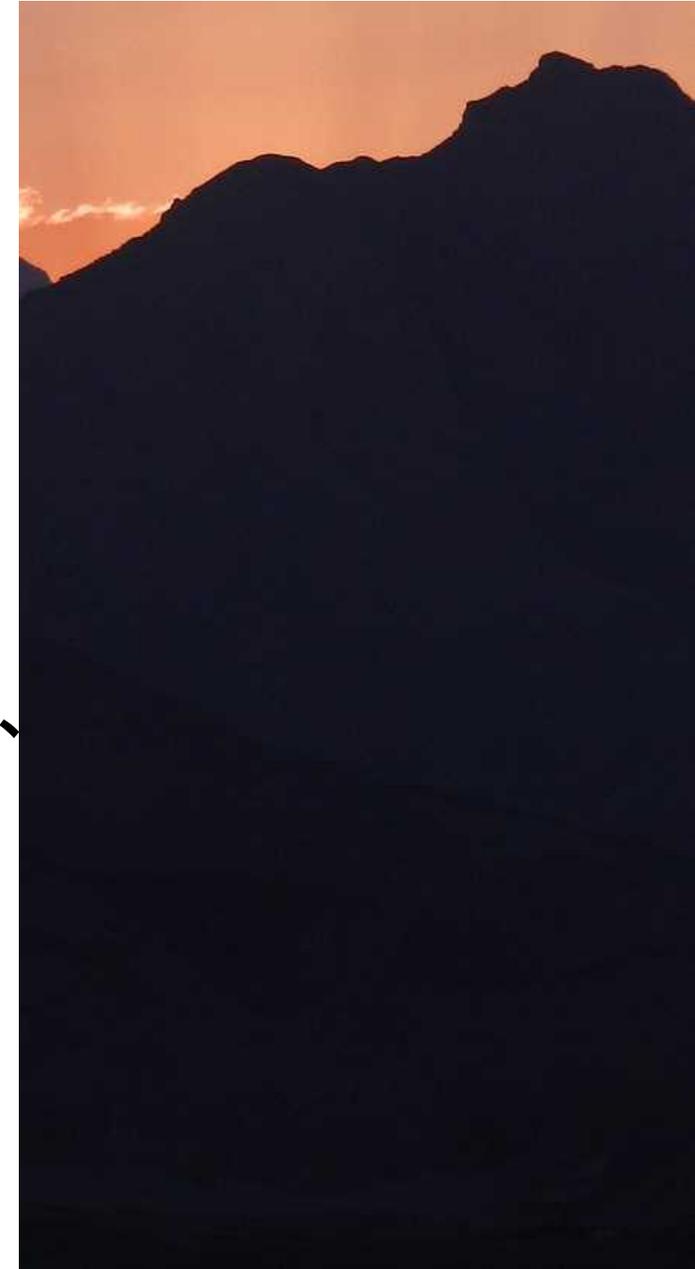


エジプトから得た
贈り物が材料に!!

【幕屋建設命令】 出25:8～9

彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。

- 人が罪を犯した時、地上を離れた神の栄光が、部分的とはいえ、再び地上に住まわれる!!
- 神の方法に従うことで、神に近づける。
➡幕屋の実際の建設は、35～40章。



【幕屋建設の目的】

- ①王なる神が住まわれる**王宮**。
②民が神を礼拝する**神殿**。
- 幕屋は、天にあるものの写し(ヘブ8:5)
- 幕屋は、神が聖なることを教える、
罪人が、神に近づくための神の方法。



【幕屋とは？】

- 移動式のテントの神殿。神の王宮。
天にある神の住まいのひな形。視覚教材。
⇒究極的に、メシアそのものを示す!!
※教会堂は、幕屋でも、神殿でもない。
教会堂に近いのは、ユダヤの会堂。

- 出エジプト記の半分は、律法の記述。
3分の1以上は、幕屋の記述。

- 出エジプト記で最も重大なのは幕屋。
幕屋に、シャカイナグローリーが宿る!!



「出25:8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」

【幕屋】 出25～31章

- ①契約の箱 25:16～21
- ②供卓 25:23～30
- ③燭台 25:31～40
- ⑤幕屋の幕 構造物 26:1～37
- ⑥祭壇 27:1～8
- ⑦庭 27:9～21
- ⑧祭服 28:1～42
- ⑨祭司の聖別 29:1～46
- ⑩香壇 30:1～10
- ⑪きよめ 日々の祈り 30:11～38
- ⑫技術者の任命 31:1～11

幕屋の内

幕屋の外

祭司



メシアの型の説明は
次々回に!!

【契約の箱】 出25:10～22

■ 縦113cm × 横68cm × 高さ45cm
アカシア材＋純金

■ 最も重要な祭具

★ 契約の箱の
贖いの蓋のケルビム*の間に
(* 神の側近の天使)
シャカイナグローリーが宿った。

■ 中身は、①十戒の石版2枚
②アロンの杖
③マナの壺



【供卓】 出25:23～30



12部族を表す12枚のパンを捧げた。

【燭台(メノラー)】 出25:31～40



幕で暗闇となっている
聖所内を照らすもの。

【幕屋の構造】 出26章

■ 幕

④じゅごんの皮

③雄羊の皮(赤になめす)

②ヤギの織物

①亜麻布の織物

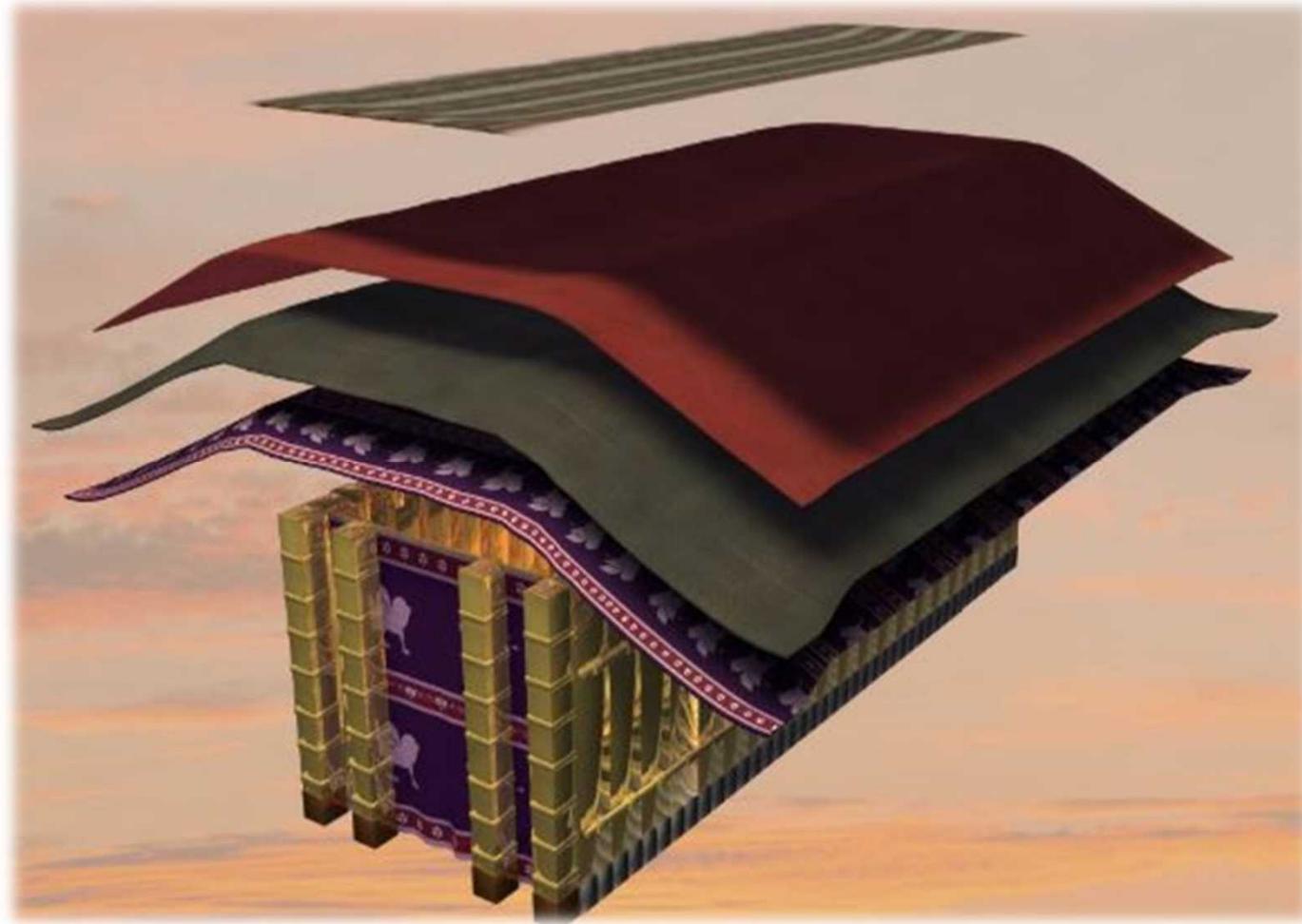
(ケルビム*の刺繍入)

* 最上位の天使

■ 骨組みとなる縦横の板

...金で覆われた

■ 青銅製の土台



【幕屋内部】 出26章

縦13,3m

× 横4,4m

× 高さ4,4m

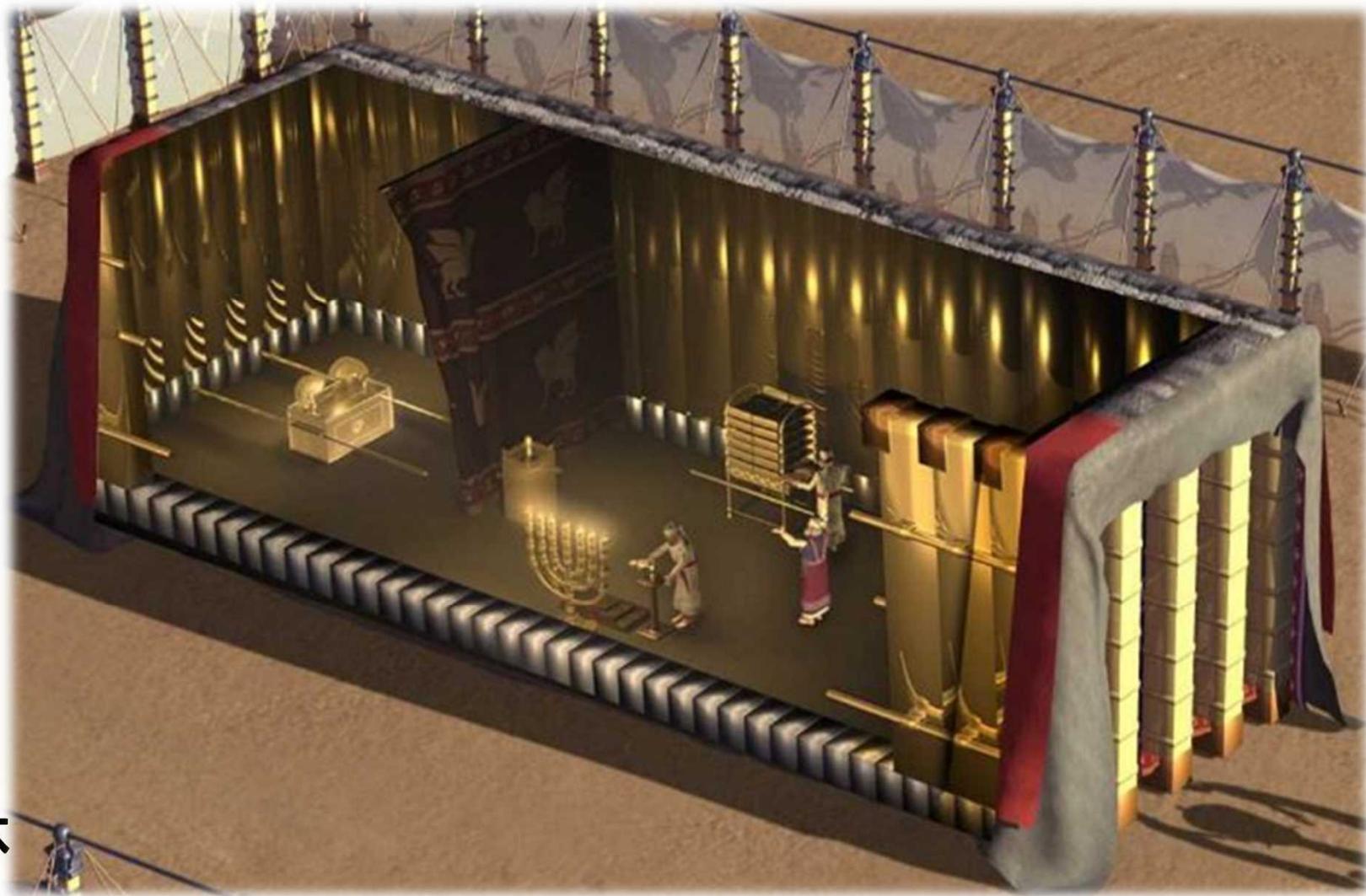
17,5坪 36畳

・聖所 24畳

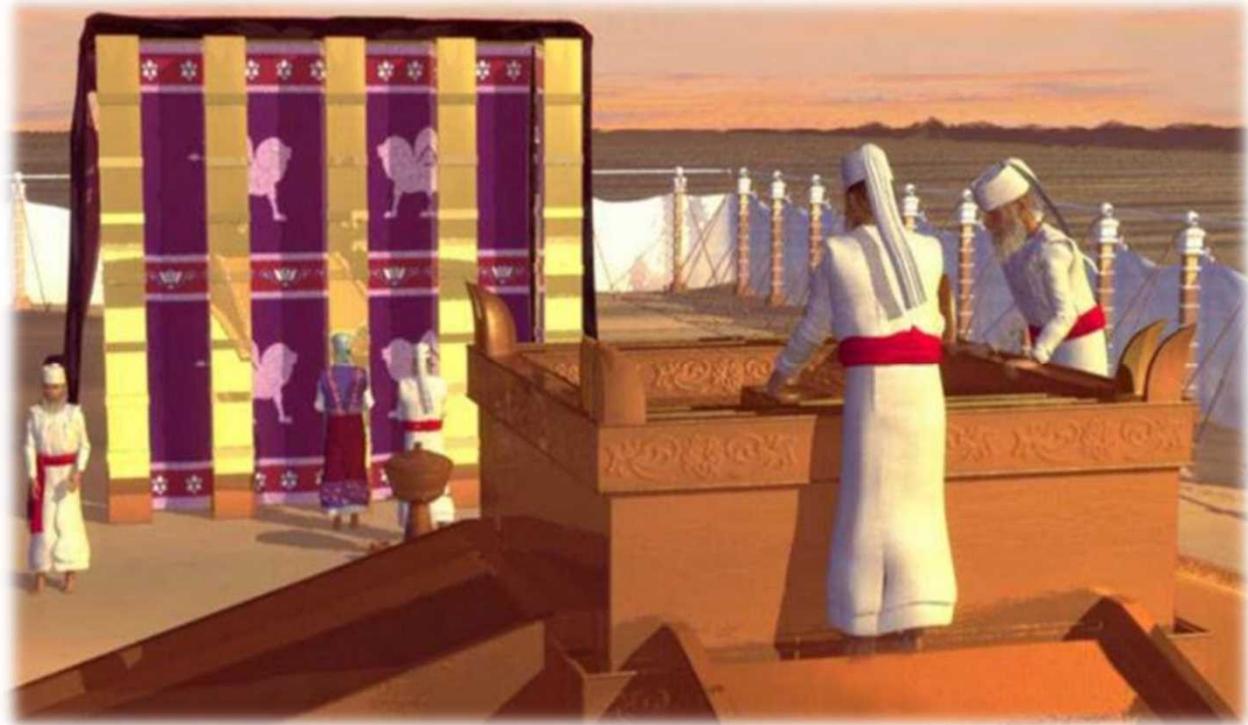
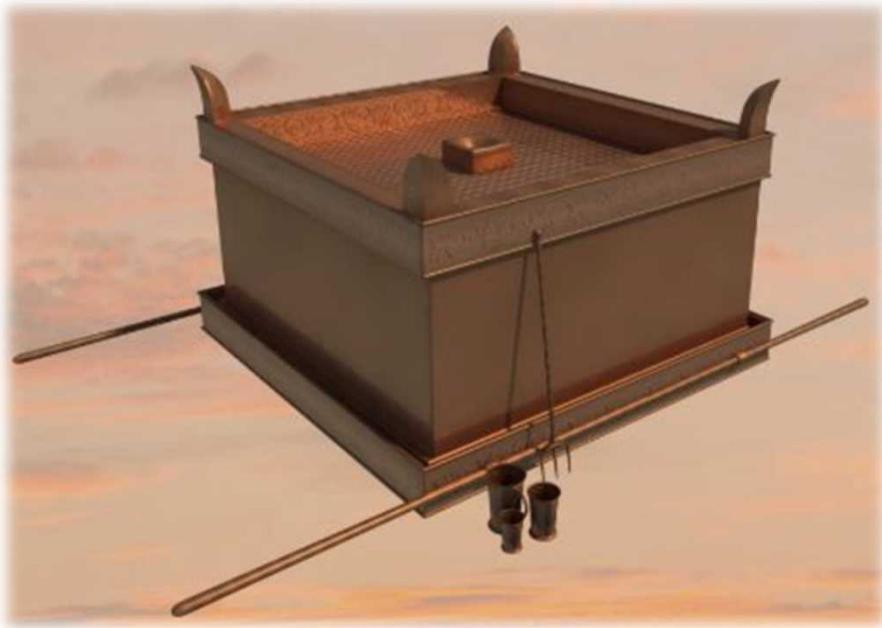
・至聖所 12畳

縦横高さ

4.4m³の立方体



【祭壇】 出27章



縦2,2m × 横2,2m × 高さ1,3m

大きなバーベキューコンロ。ここで生け贄の動物を焼いた

【幕屋の庭】 出27章

【北】

【西】



【東】

【南】

縦(東西)44m × 横(南北)22m 約970m² 約300坪

【祭服】 出28～29章

■大祭司

▼亜麻布の長服の上に以下を着用

- ①エポデ(聖なるエプロン?!)
- ②裁きの胸当て(12の宝石付)
- ③ウリムとトンミル
...肩につけた二つの石。神意を伺う。
- ④青服(袖なしのワンピース)
- ⑤額当て ...「主の聖なる者」と彫られた。

■一般の祭司

亜麻布の長服のみ。



【香の壇】 出30章



縦44cm × 横44cm × 高さ8cm ➡香は、「祈り」を現す。

香を焚く奉仕は、イスラエルを代表する祈り。名誉ある奉仕だった。

例)洗礼者ヨハネの父・祭司ザカリアの神殿の奉仕(ルカ1:5～25)

【安息日】 出31章

「31:15 六日間は仕事をしてよい。しかし、七日目は、【主】の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。

31:17 これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである」

- イスラエルに求められる、神への完全な信頼(安息)。
- 安息日は、イスラエルを他と区別(聖別)する、しるし。
- ★ 「ユダヤ人が安息日を守ったのではなく、安息日がユダヤ人を守った」 ...ユダヤの格言

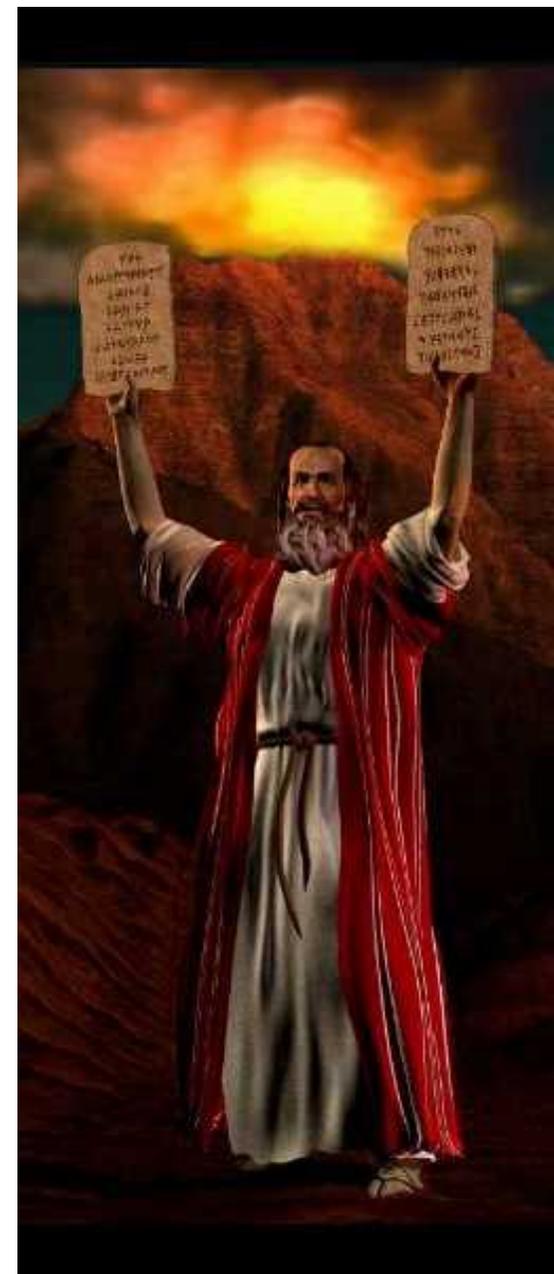


【十戒の石板】 出 31:17~18

「これ(安息日)は、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである。」

こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。

- 「安息日」は、神の完全さを示し、民に、神の律法への全信的頼を求める。
- 律法の中心である「十戒」が、神ご自身の手で、石の板に刻まれた。



Ⅱ. 金の子牛事件

出エジプト記32章

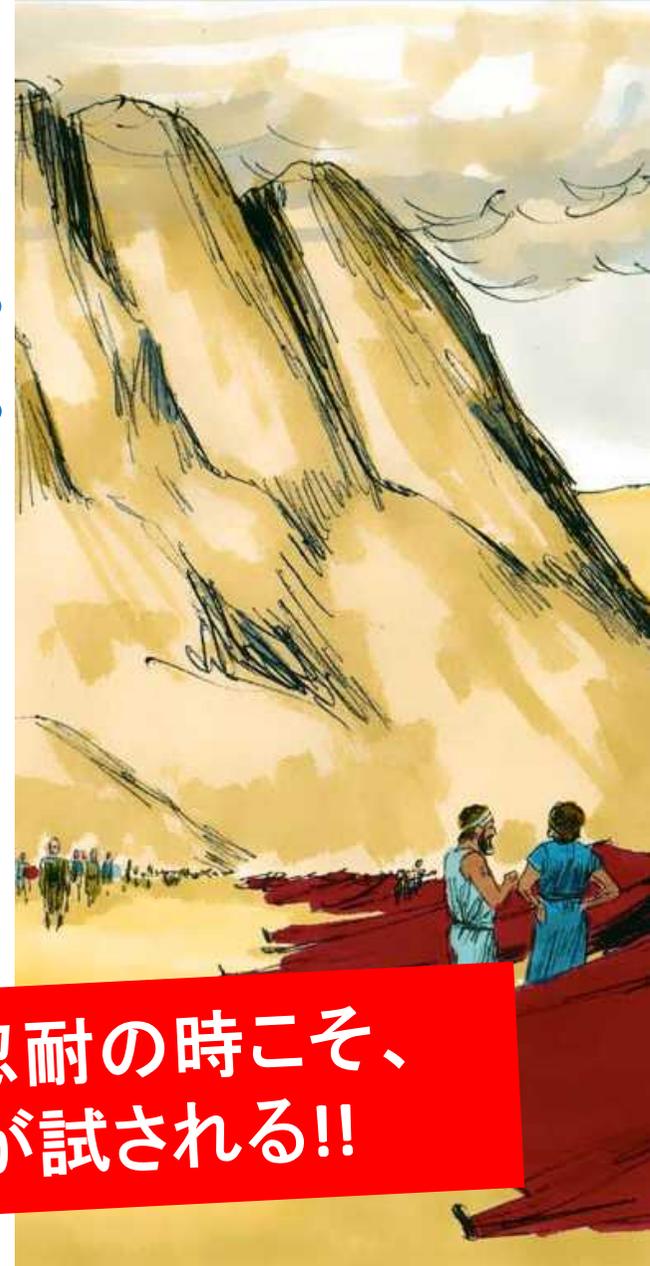


【民の圧力】 出32:1

民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから」

- モーセがシナイ山に上って40日が過ぎていた。
- 民は、目に見える安心を求め、アロンに詰め寄った。

座して待つ忍耐の時こそ、最も信仰が試される!!



【金の子牛】 出32:2～4

それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」

そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鑄物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」と言った。



言い逃れられない
自覚的な罪!!

■なぜ子牛？ ➡ エジプトの影響?! (アピス、ハトホル等)

人物像ではなく、成牛でもなく、子牛。➡後ろめたさがあった?!

【偶像礼拝】 出32:5～6

アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼わって言った。「あすは【主】への祭りである。」

そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた。



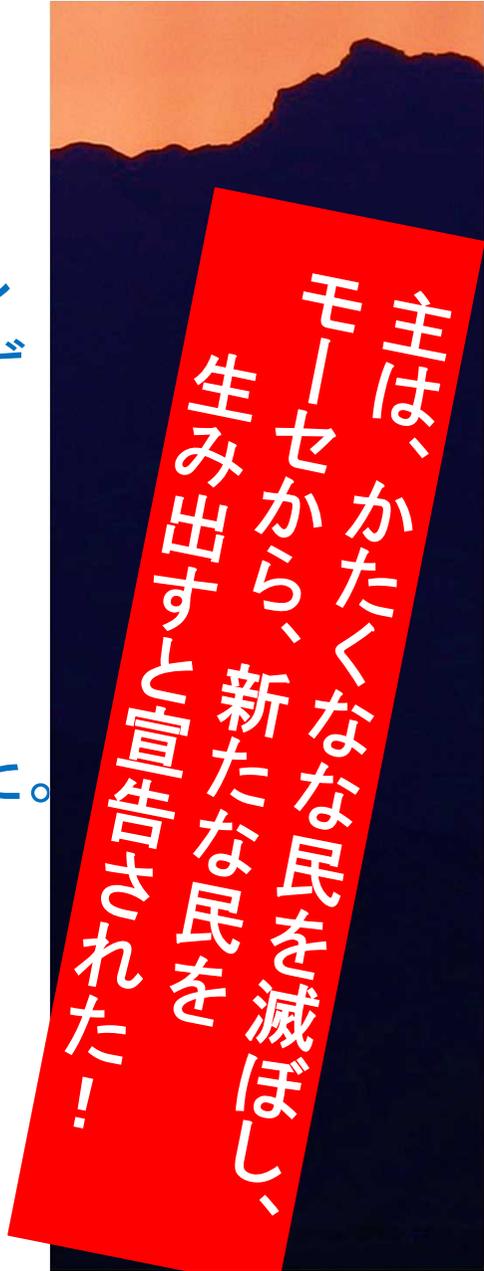
偶像の祭りに伴う
性的淫乱を示す

飲めや食えやの大騒ぎが、繰り広げられた!!

【神の怒り】 出 32:7～10

【主】はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただから。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言っている。」

【主】はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」



【仲介者の使命】 出 32:11～12

しかしモーセは、彼の神、【主】に嘆願して言った。「【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。

また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざいを思い直してください。」

■ モーセのとりなしポイント・その1

神の憐れみに訴え、御名が汚されないよう願う。



【神の恵みに訴えるモーセ】 出 32:13～14

あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる』と仰せられたのです。」すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された。

■ アブラハム契約の恵みに訴えたモーセ!!

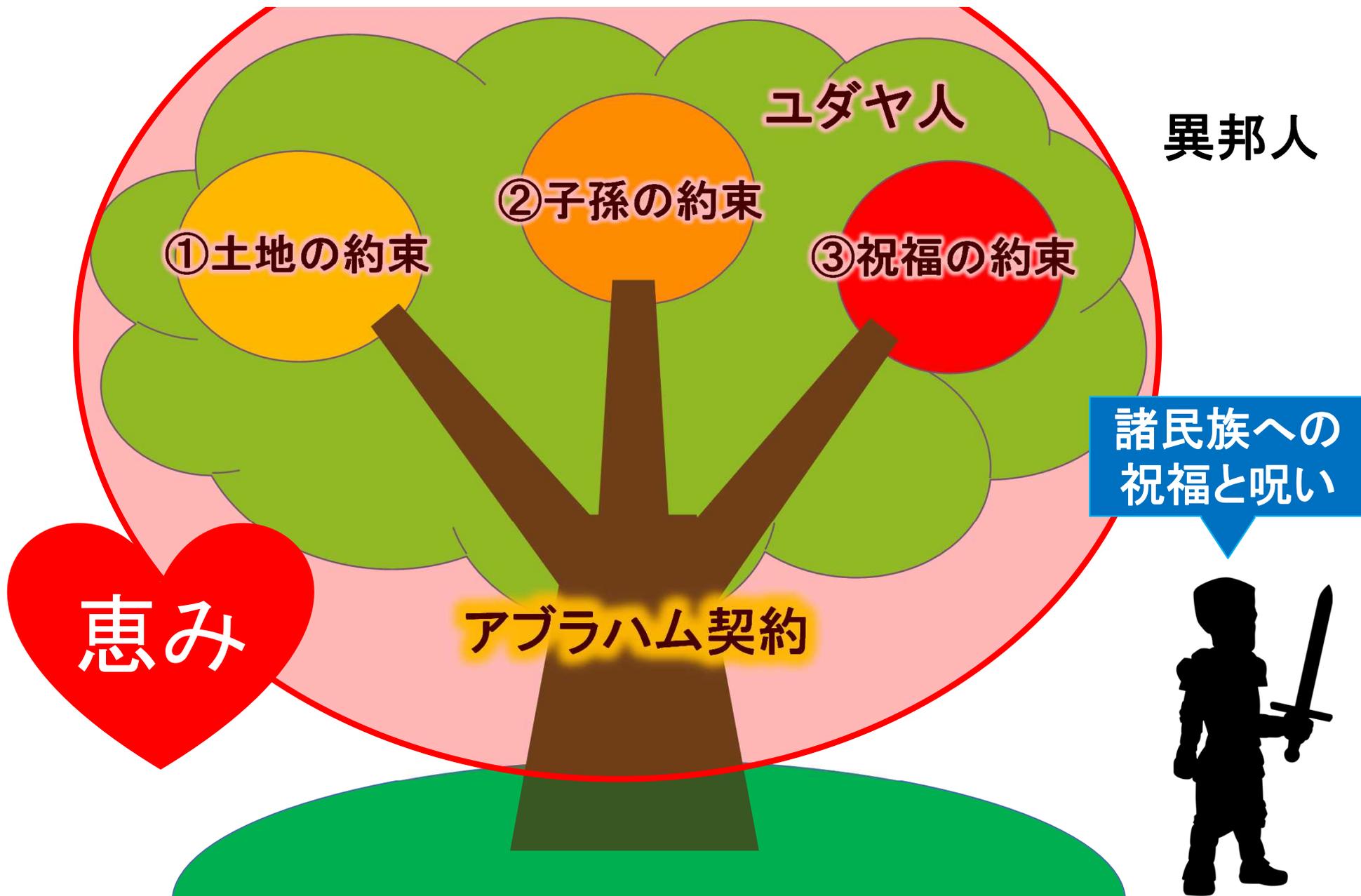
神が、イスラエルに無条件に約束された、

①子孫の祝福、②土地の約束が、その根拠!!



アブラハム契約への
深い理解を示すモーセ

【アブラハム契約】



【下山】 出 32:15～18

モーセは向き直り、二枚のあかしの板*を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にいくさの音がします。」するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

* 十戒の石板 ...同じ文面が2枚か。複数の証人を示す。

■ 未成熟なヨシュアとは対照的に、

人の罪の現実を見据える、とりなし手、モーセの姿。



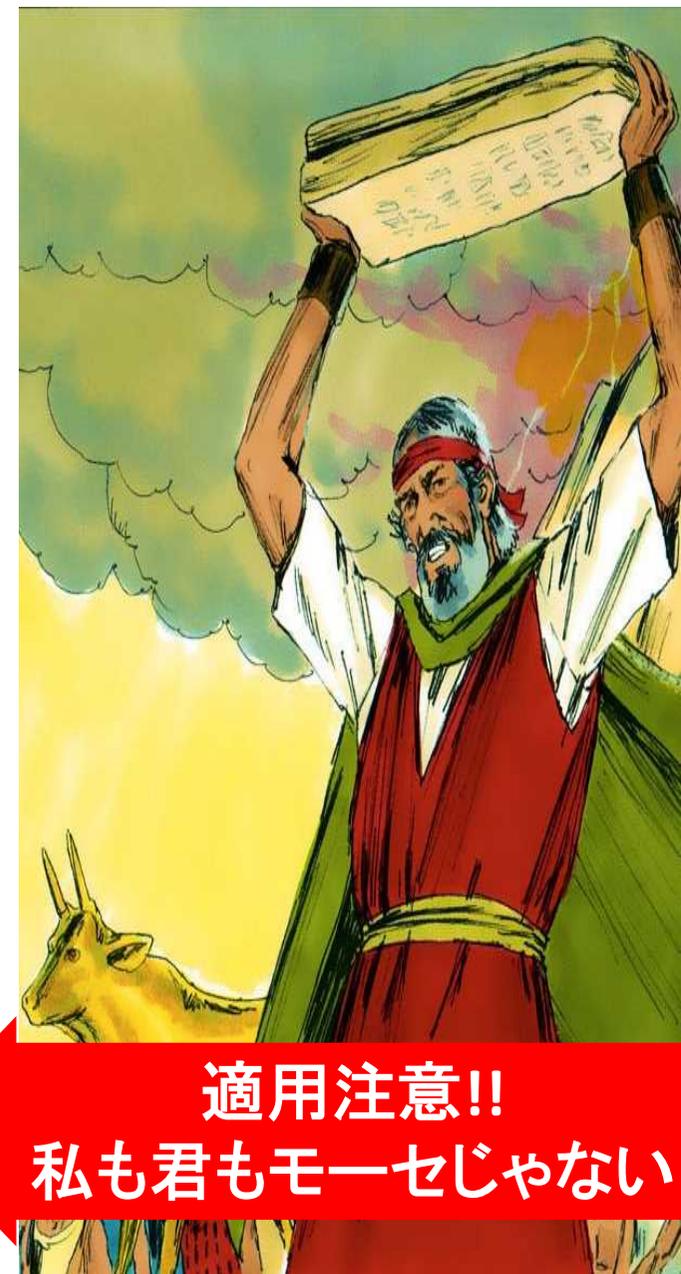
【モーセの怒り】 出 32:19～21

宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上にかき散らし、イスラエル人に飲ませた。

モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

■モーセの怒りは、仲介者としての神の代弁



適用注意!!
私も君もモーセじゃない

【アロンの言い訳】 出 32:22～25

アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。

モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

■ 敵？ ...敵対する諸民族？ 背後でほくそ笑む悪の勢力？

「どこのような、アロンの言い訳！」



【聖絶】 出 32:26～28

そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、【主】につく者は、私のところに」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのおの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

- 神につくか、人につくか、選択を求めたモーセ。
- 悔い改めなかった、事件の首謀者たちが打たれた。
 - ➔ その多くがレビ人。主に仕える者の責任の重さ。



【命がけのモーセのとりなし】 出 32:29～32

そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのこのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、【主】に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は【主】のところに上って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら—。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

本当に命と引き換えにされたとりなし手は、メシアである主イエス



【与えられた猶予】 出 32:33～35

すると【主】はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前を行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」
こうして、【主】は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

- イスラエルへの究極的裁きが、大患難時代。再臨されるメシアが、裁き主として来られる。



裁きの中にもある
恵みの要素。
民に与えられた
猶予期間。



IV. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考えよう
教会の内にも忍び寄る偶像



【偶像礼拝とは？】

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在

■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。

偶像とは、ひたすら、
人間にとって、都合のよいもの。
欲望の投影。



【教会に忍び寄る、目には見えない偶像とは？】

■ アロンが示した、無責任と甘え。➡ 勝手に偶像ができた。

「そこで、神は彼らに背を向け、

彼らが天の星に仕えるままにされました。」 使 7:42

➡偶像礼拝の根源とは、世の支配者(サタン)への依存。

■ 愛ばかりが強調される教会にある、強い束縛、支配の不思議。

人間的母性の特徴は、無条件の愛と、無制限の支配。

「ずっと、ありのままがいい」「どこまでも、あなたはわたしのもの」

➡制限のない依存と支配の背後に働いている存在は？

■ 義の神がもたらすのは、制約と自由。

これを守るなら、祝福がある。➡ 選択権と責任は、各々に!!

【神の義に生きるものになるために!!】

- 決して、自然には身につかないのが、父性。
父性とは、“約束の大切さに基づき、制約と自由をもたらすもの。”
→ 責任の範囲を明らかにし、選択の自由を人に与える。
- 父性を身につけるために必要なのは、“契約の概念を学ぶこと。”
契約は、誰かに教わらなければ、決して分からない。
- 愛の神は、一方的恵みによって、イスラエルを救い出され、
義なる神は、契約によって、イスラエルに成長を促される。
- 十字架の恵みによって、贖い出された私たちは、
御霊の導きによって育まれ、信仰の成熟へと促されていく。
御霊の最大の働きは、約束に基づく神の計画の全貌を教えること。
- 神の契約への理解を深め、約束にもとづく真の自由を味わっていこう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしたちの内(うち)にしのびよる、偶像(ぐうぞう)から、おまもりください。主の約束(やくそく)についての理解(りかい)を深(ふか)め、契約(けいやく)がもたらす、まことの自由(じゆう)を味(あじ)わわせ、よろこび生(い)きる者(もの)へと成長(せいちょう)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」

8
モセ

聖徒伝 34

「アイドル フェスタ」

出25～32章 幕屋建設命令・金の子牛事件

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 幕屋建設命令 25～31章

II. 金の子牛事件 32章

III. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考える
教会の内にも忍び寄る偶像



イスラエルの歩みは
すべて アブラハムへの
神の約束から始まった



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

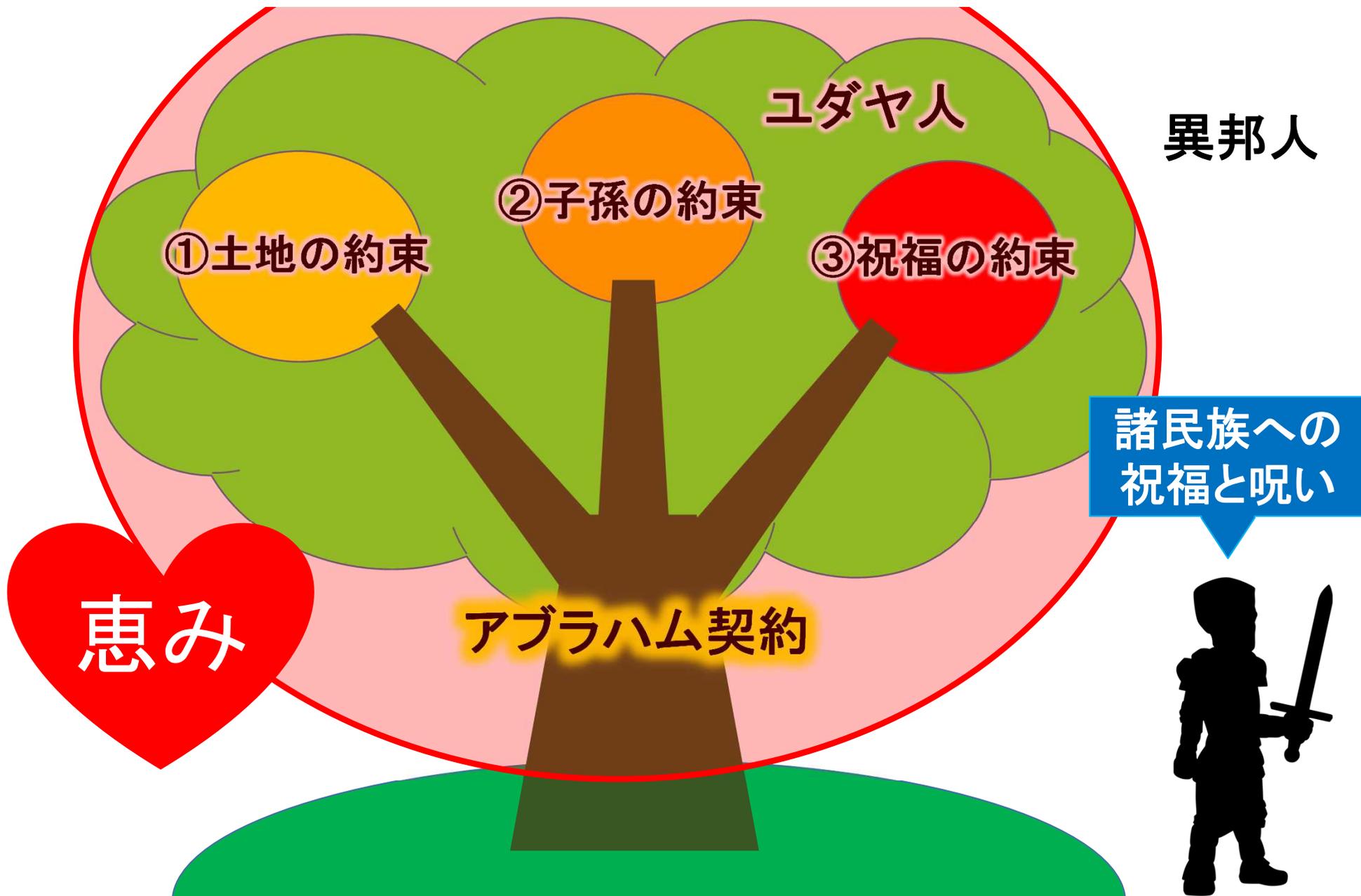
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

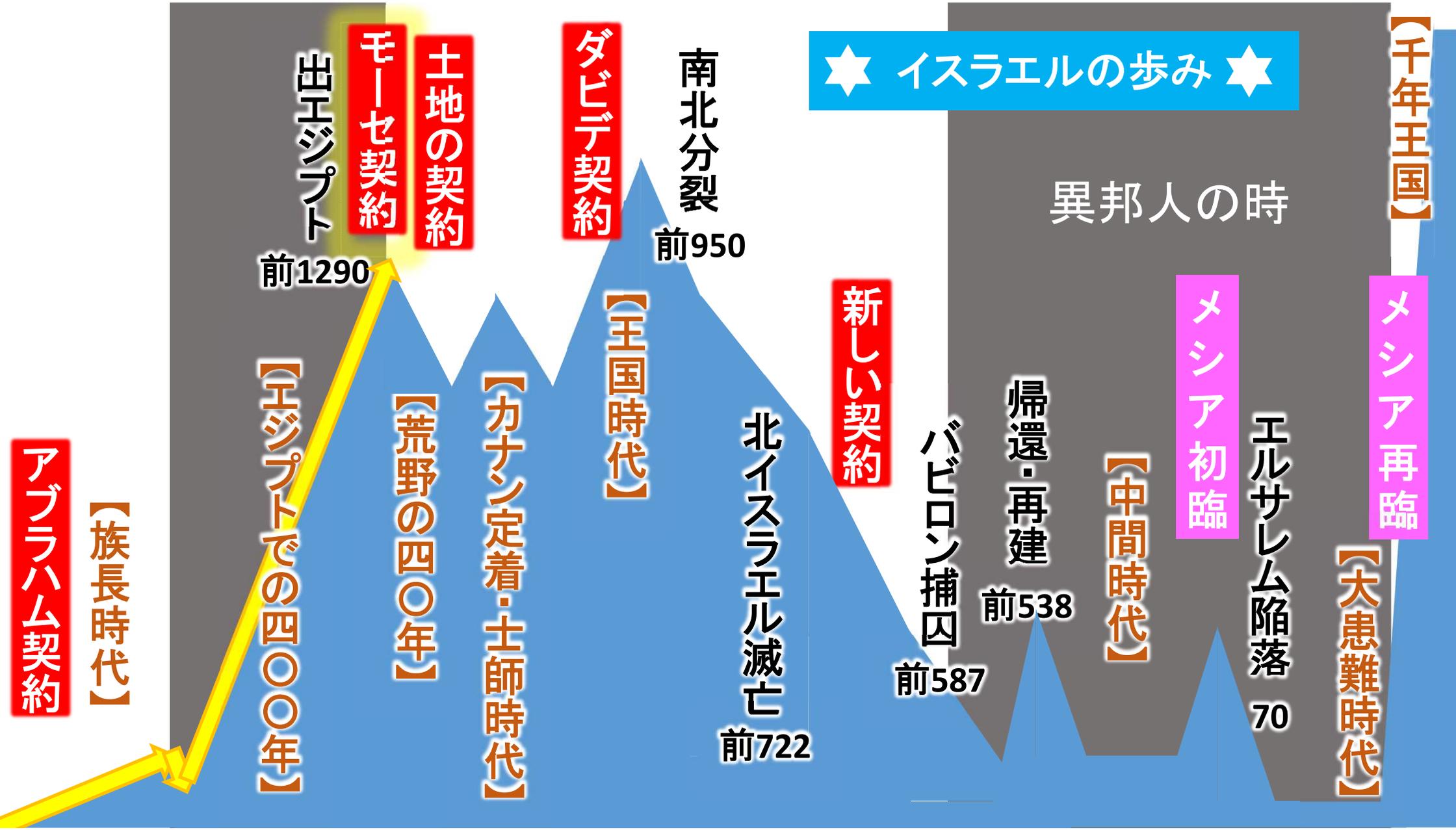
イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

新しい契約

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- エジプトの王女に拾い上げられ、王宮で育つ。
- 40歳の時、逃亡者となり、40年間を荒野で過ごす。
- 80歳の時、イスラエルの指導者として召命される。
- パロとの交渉は決裂し、エジプトに災いが下る。
- モーセは、イスラエルの民を連れ、エジプトを脱出。
葦の海を渡り、荒野を横切り、シナイ山へ。
- シナイ山に、神が顕現され、モーセを仲介者として
律法を授与された。律法の中である十戒が、
民の前で読み上げられた。



0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

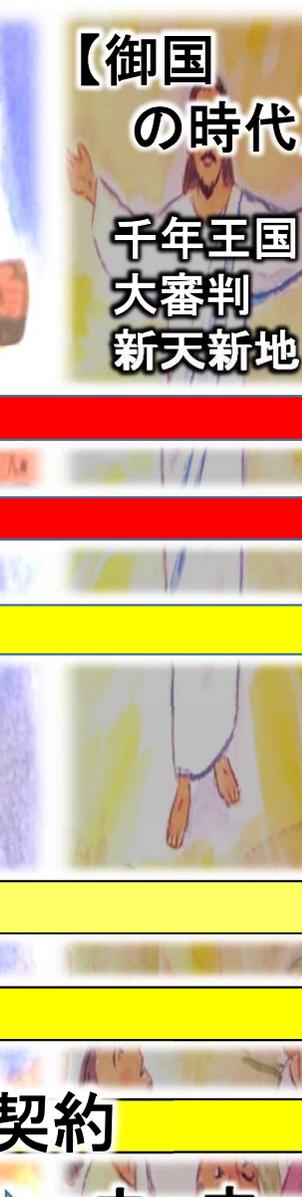
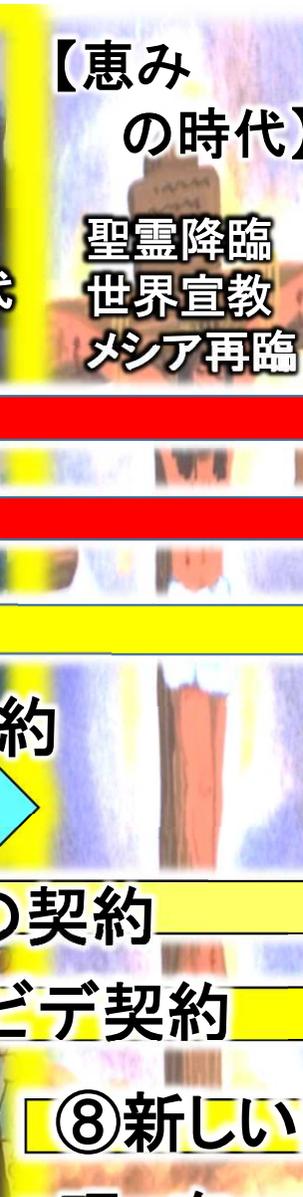
民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

律法は、イスラエルを導く、飴と鞭

罪を思い知らせ、救い主へ導く

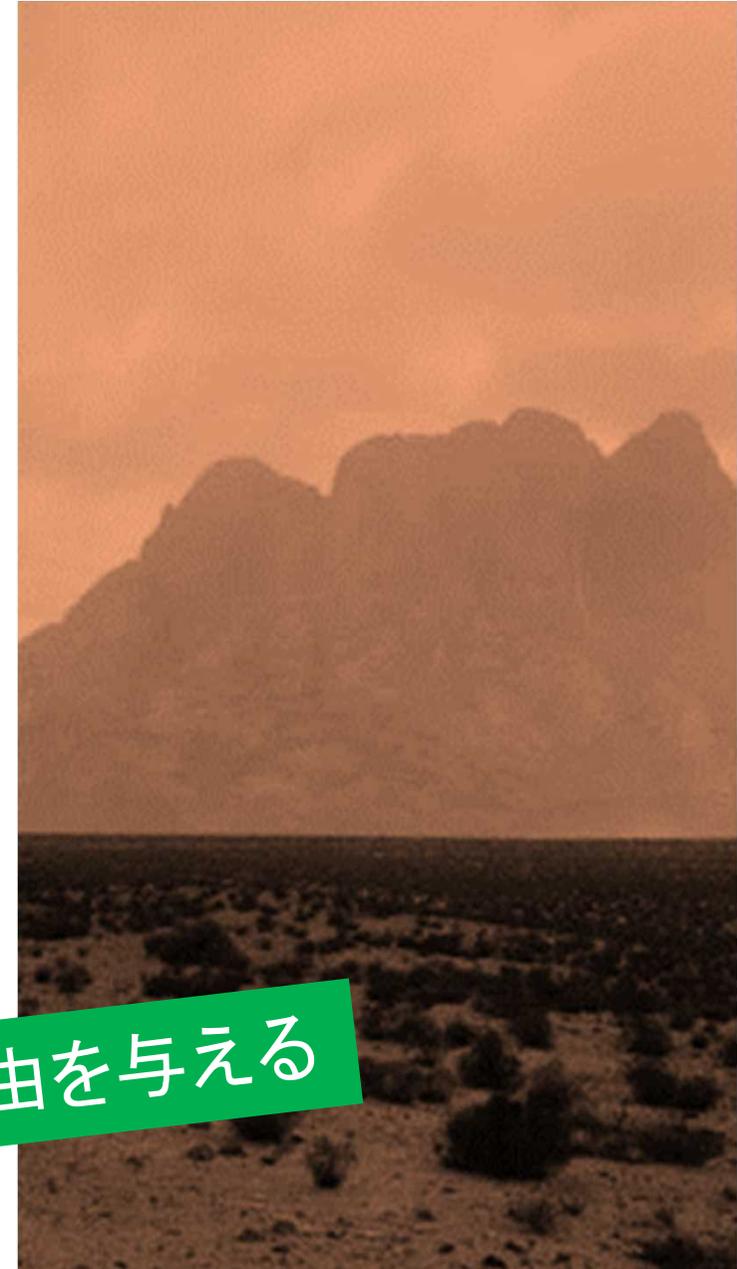


【法が、人にもたらしたものの】

- 法は、束縛？ では、法がなかったら？
- 無制限に、人に、正しさが求められたら？
いったい誰が、神のもとにたどり着ける？
- 法は、神ご自身に制限を加え、
私たち人間に、チャンスと自由を与えるもの!!

法は、神ご自身を縛り、

人に機会と自由を与える



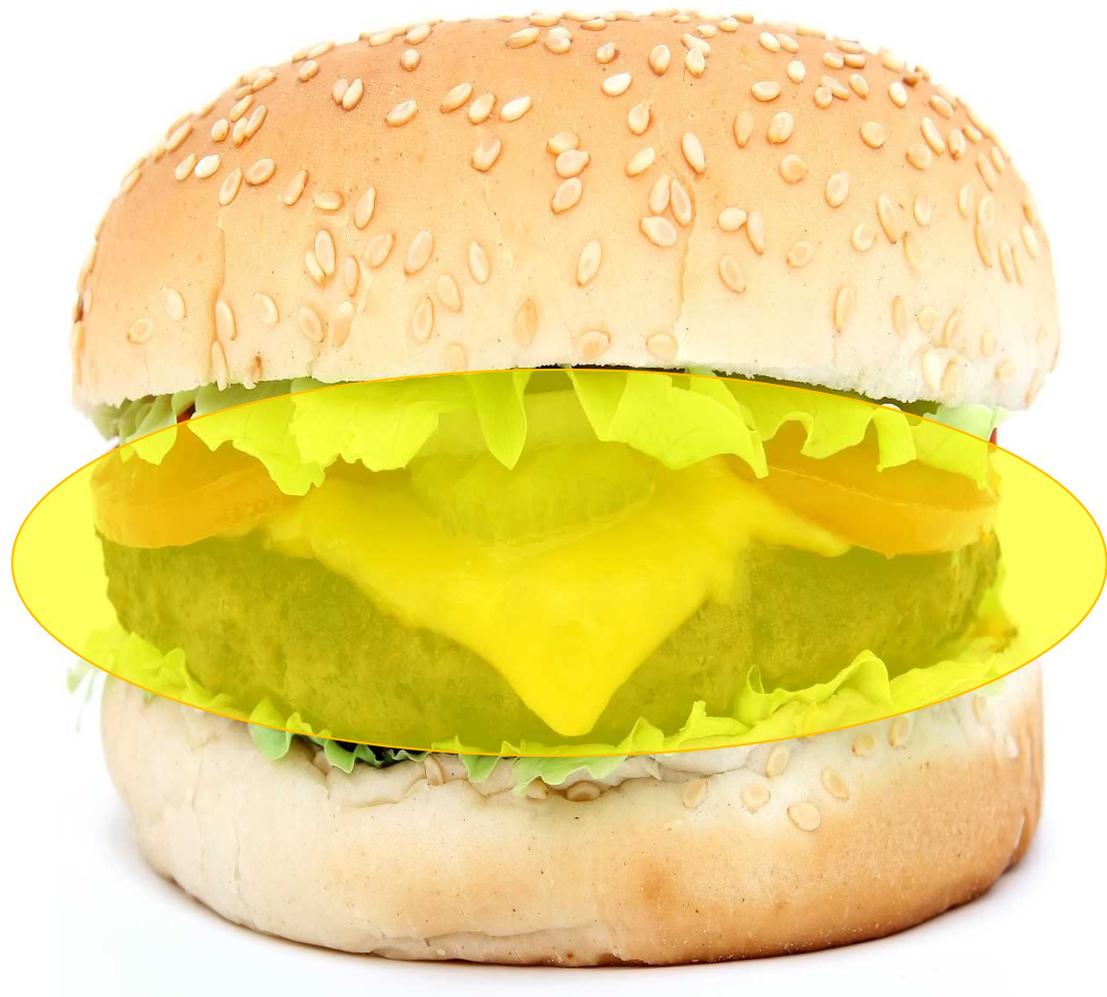


I. 幕屋建設命令

出エジプト記25～31章

【出エジプト記・後半の流れを確認しよう!!】

- 律法授与 20～24章
- 幕屋建設の指示 25～31章
- 金の子牛事件 32章
- 律法の再授与 33～34章
- 幕屋建設・完成 35～40章



【幕屋建設命令】 出 25:1~7

【主】はモーセに告げて仰せられた。

「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。彼らから受けてよい奉納物は次のものである。金、銀、青銅、青色、紫色、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、燈油、そそぎの油とかおりの高い香のための香料、エポデや胸当てにはめ込むしまめのうや宝石。」

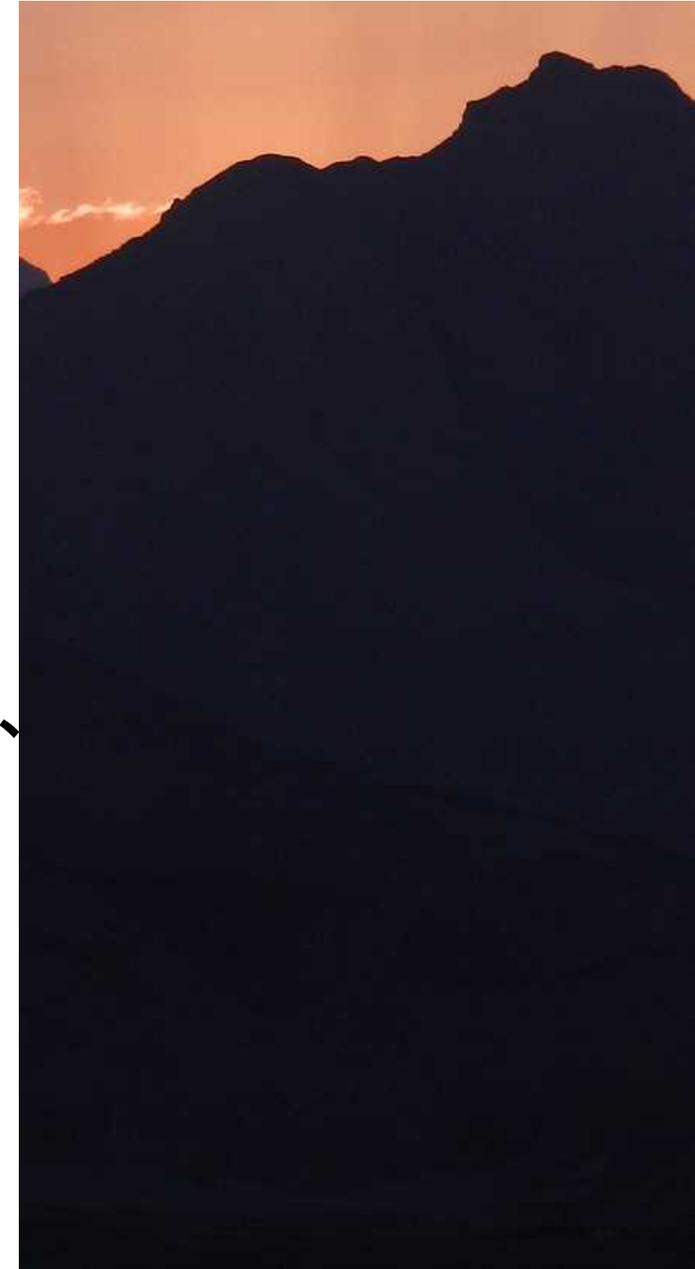


エジプトから得た
贈り物が材料に!!

【幕屋建設命令】 出25:8～9

彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。

- 人が罪を犯した時、地上を離れた神の栄光が、部分的とはいえ、再び地上に住まわれる!!
- 神の方法に従うことで、神に近づける。
➡幕屋の実際の建設は、35～40章。



【幕屋建設の目的】

- ①王なる神が住まわれる**王宮**。
②民が神を礼拝する**神殿**。
- 幕屋は、天にあるものの写し(ヘブ8:5)
- 幕屋は、神が聖なることを教える、罪人が、神に近づくための神の方法。



【幕屋とは？】

- 移動式のテントの神殿。神の王宮。
天にある神の住まいのひな形。視覚教材。
⇒究極的に、メシアそのものを示す!!
※教会堂は、幕屋でも、神殿でもない。
教会堂に近いのは、ユダヤの会堂。

- 出エジプト記の半分は、律法の記述。
3分の1以上は、幕屋の記述。

- 出エジプト記で最も重大なのは幕屋。
幕屋に、シャカイナグローリーが宿る!!



「出25:8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」

【幕屋】 出25～31章

- ①契約の箱 25:16～21
- ②供卓 25:23～30
- ③燭台 25:31～40
- ⑤幕屋の幕 構造物 26:1～37
- ⑥祭壇 27:1～8
- ⑦庭 27:9～21
- ⑧祭服 28:1～42
- ⑨祭司の聖別 29:1～46
- ⑩香壇 30:1～10
- ⑪きよめ 日々の祈り 30:11～38
- ⑫技術者の任命 31:1～11

幕屋の内

幕屋の外

祭司



メシアの型の説明は
次々回に!!

【契約の箱】 出25:10～22

■ 縦113cm × 横68cm × 高さ45cm
アカシア材＋純金

■ 最も重要な祭具

★ 契約の箱の
贖いの蓋のケルビム*の間に
(* 神の側近の天使)
シャカイナグローリーが宿った。

■ 中身は、①十戒の石版2枚
②アロンの杖
③マナの壺



【供卓】 出25:23～30



12部族を表す12枚のパンを捧げた。

【燭台(メノラー)】 出25:31～40



幕で暗闇となっている
聖所内を照らすもの。

【幕屋の構造】 出26章

■ 幕

④じゅごんの皮

③雄羊の皮(赤になめす)

②ヤギの織物

①亜麻布の織物

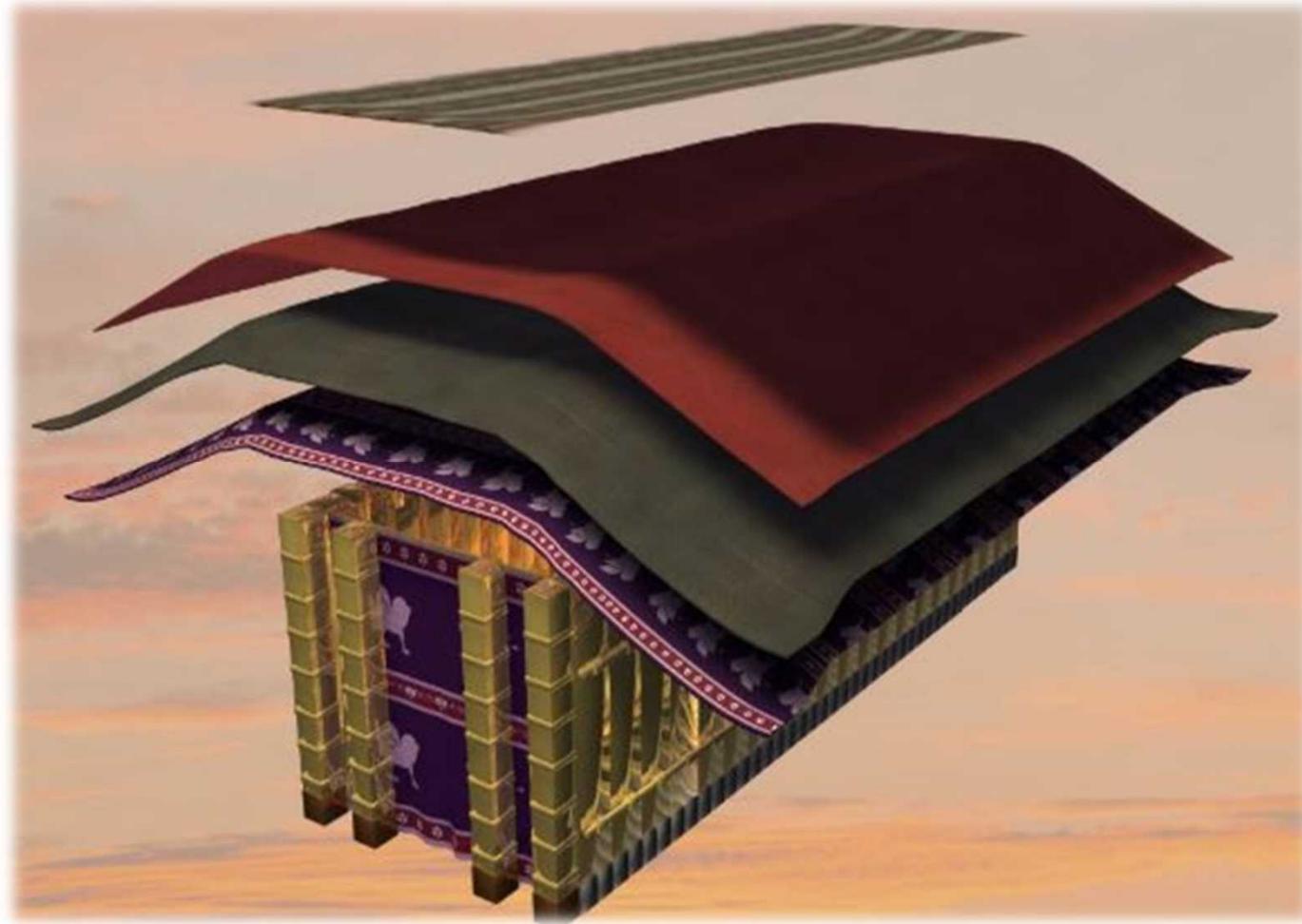
(ケルビム*の刺繍入)

* 最上位の天使

■ 骨組みとなる縦横の板

...金で覆われた

■ 青銅製の土台



【幕屋内部】 出26章

縦13,3m

× 横4,4m

× 高さ4,4m

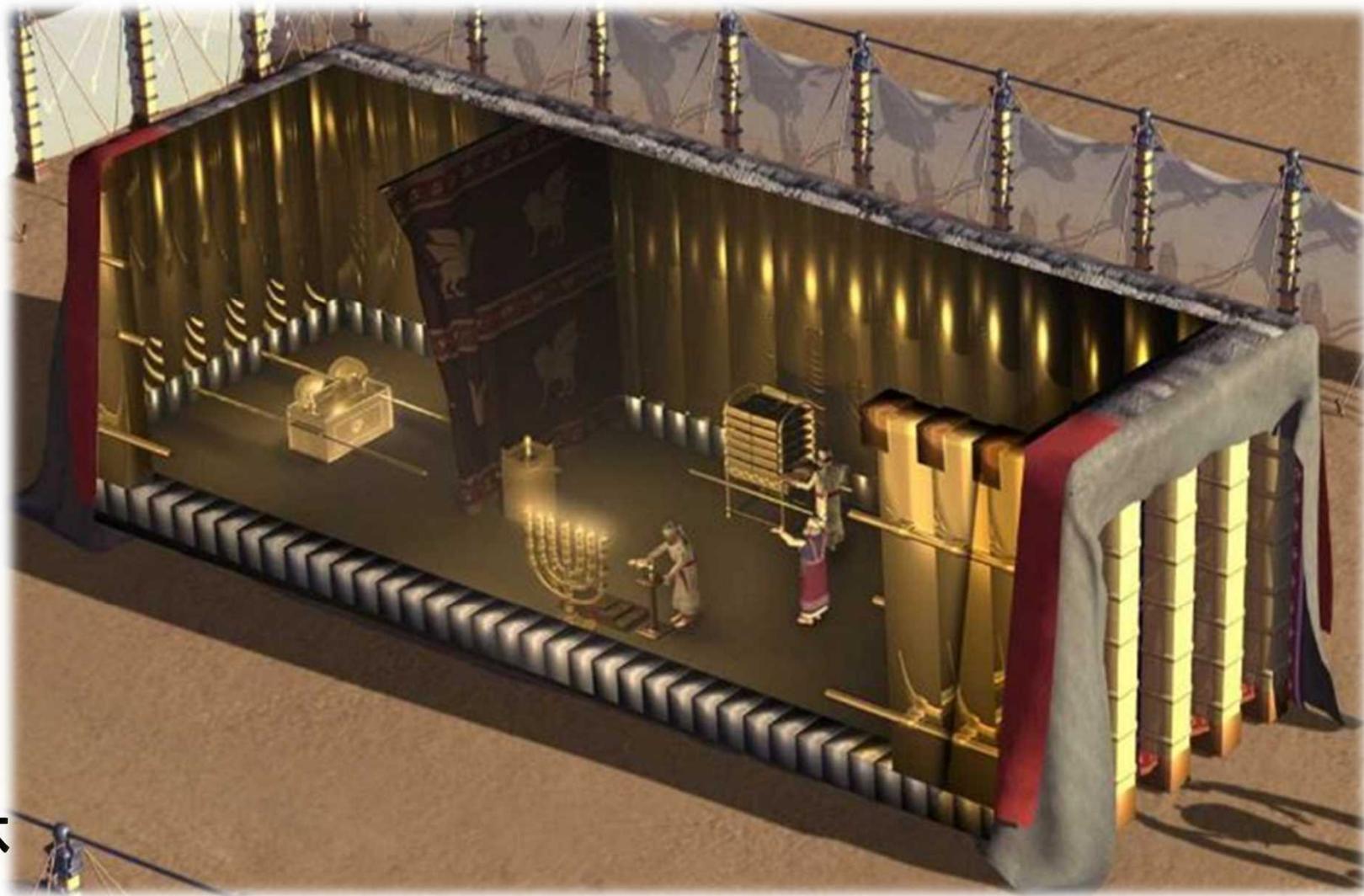
17,5坪 36畳

・聖所 24畳

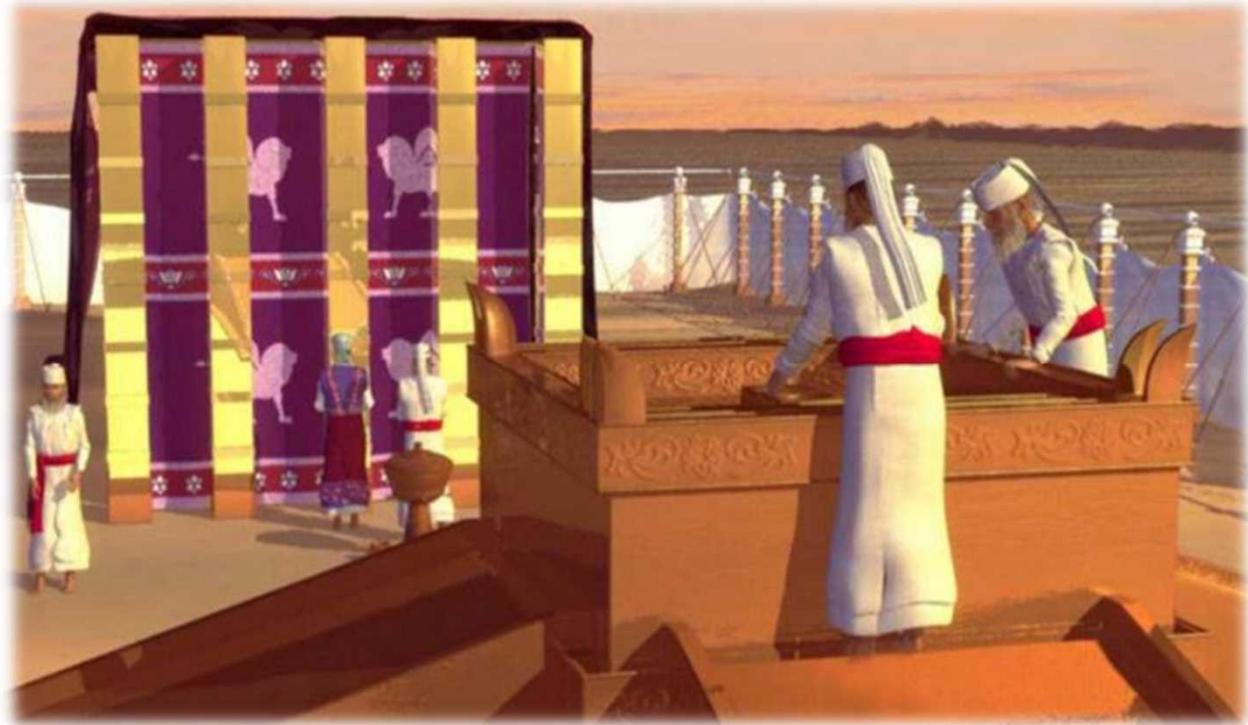
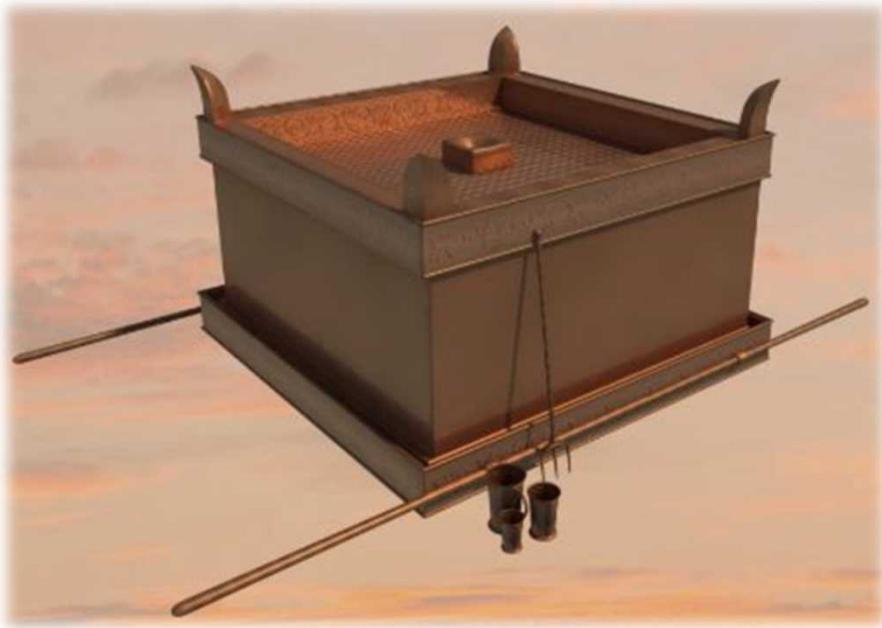
・至聖所 12畳

縦横高さ

4.4m³の立方体



【祭壇】 出27章



縦2,2m × 横2,2m × 高さ1,3m

大きなバーベキューコンロ。ここで生け贄の動物を焼いた

【幕屋の庭】 出27章

【北】

【西】



【東】

【南】

縦(東西)44m × 横(南北)22m 約970m² 約300坪

【祭服】 出28～29章

■大祭司

▼亜麻布の長服の上に以下を着用

- ①エポデ(聖なるエプロン?!)
- ②裁きの胸当て(12の宝石付)
- ③ウリムとトンミル
...肩につけた二つの石。神意を伺う。
- ④青服(袖なしのワンピース)
- ⑤額当て ...「主の聖なる者」と彫られた。

■一般の祭司

亜麻布の長服のみ。



【香の壇】 出30章



縦44cm × 横44cm × 高さ8cm ➡香は、「祈り」を現す。

香を焚く奉仕は、イスラエルを代表する祈り。名誉ある奉仕だった。

例)洗礼者ヨハネの父・祭司ザカリアの神殿の奉仕(ルカ1:5～25)

【安息日】 出31章

「31:15 六日間は仕事をしてよい。しかし、七日目は、【主】の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。

31:17 これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである」

- イスラエルに求められる、神への完全な信頼(安息)。
- 安息日は、イスラエルを他と区別(聖別)する、しるし。
- ★ 「ユダヤ人が安息日を守ったのではなく、安息日がユダヤ人を守った」 ...ユダヤの格言

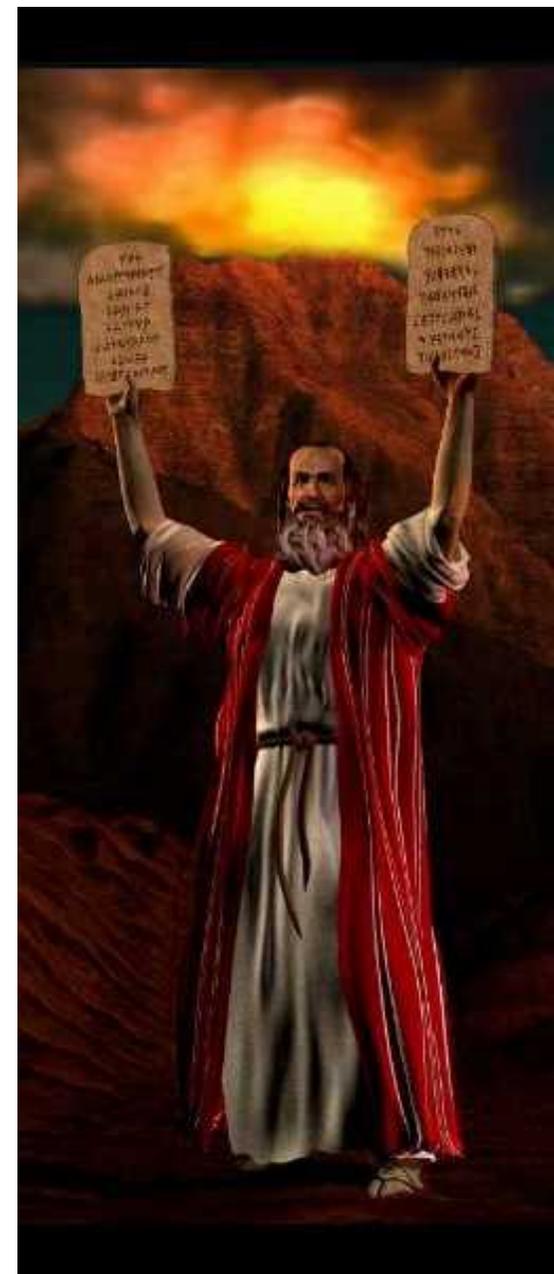


【十戒の石板】 出 31:17~18

「これ(安息日)は、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである。」

こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。

- 「安息日」は、神の完全さを示し、民に、神の律法への全的信頼を求める。
- 律法の中心である「十戒」が、神ご自身の手で、石の板に刻まれた。



Ⅱ. 金の子牛事件

出エジプト記32章

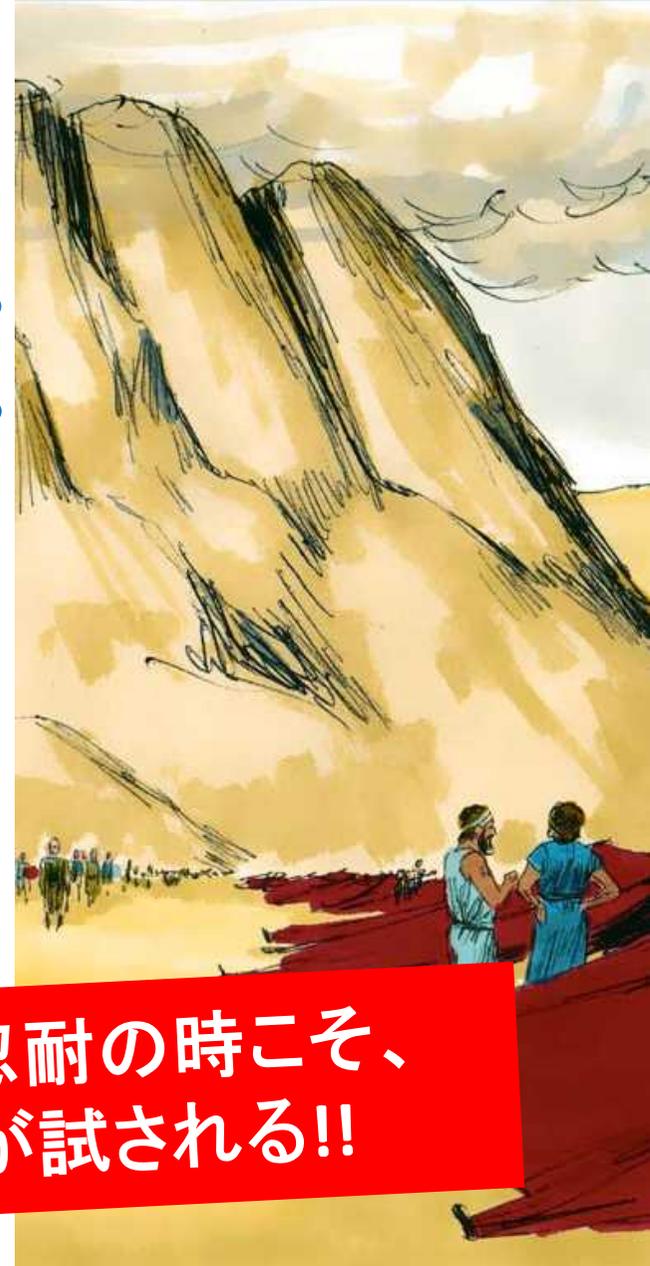


【民の圧力】 出32:1

民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちがエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから」

- モーセがシナイ山に上って40日が過ぎていた。
- 民は、目に見える安心を求め、アロンに詰め寄った。

座して待つ忍耐の時こそ、
最も信仰が試される!!



【金の子牛】 出32:2～4

それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」

そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鑄物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」と言った。



言い逃れられない
自覚的な罪!!

■なぜ子牛？ ➡ エジプトの影響?! (アピス、ハトホル等)

人物像ではなく、成牛でもなく、子牛。➡後ろめたさがあった?!

【偶像礼拝】 出32:5～6

アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼わって言った。「あすは【主】への祭りである。」

そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた。



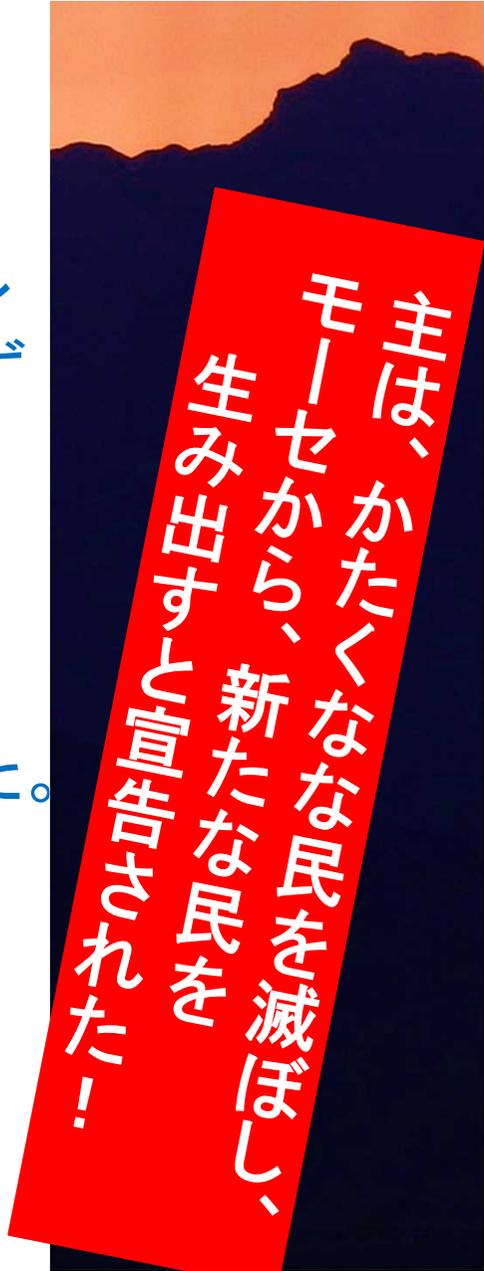
偶像の祭りに伴う
性的淫乱を示す

飲めや食えやの大騒ぎが、繰り広げられた!!

【神の怒り】 出 32:7～10

【主】はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただから。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言っている。」

【主】はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」



【仲介者の使命】 出 32:11～12

しかしモーセは、彼の神、【主】に嘆願して言った。「【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。

また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざいを思い直してください。」

■ モーセのとりなしポイント・その1

神の憐れみに訴え、御名が汚されないよう願う。



【神の恵みに訴えるモーセ】 出 32:13～14

あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる』と仰せられたのです。」すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された。

■ アブラハム契約の恵みに訴えたモーセ!!

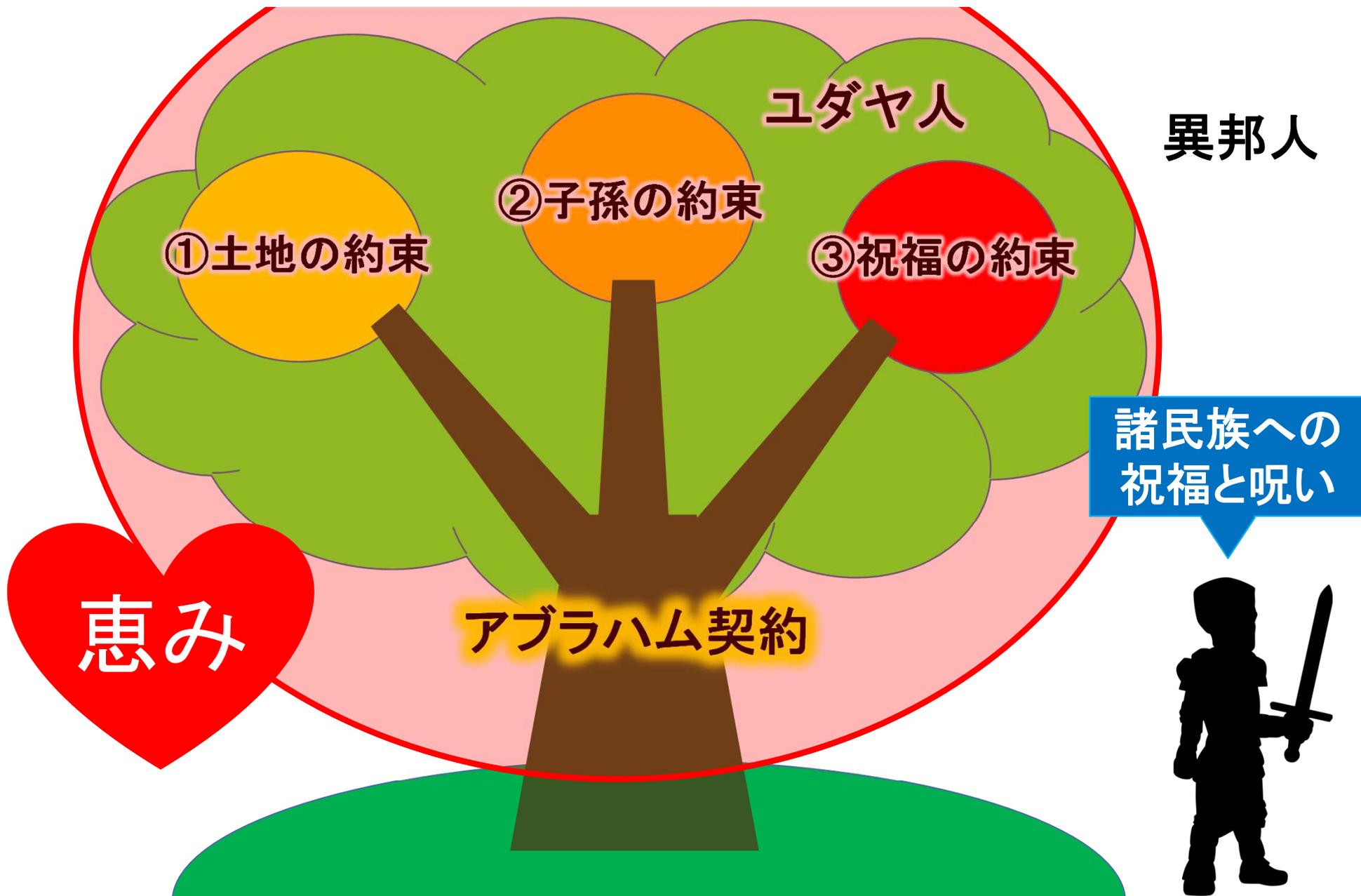
神が、イスラエルに無条件に約束された、

①子孫の祝福、②土地の約束が、その根拠!!



アブラハム契約への
深い理解を示すモーセ

【アブラハム契約】



【下山】 出 32:15～18

モーセは向き直り、二枚のあかしの板*を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にいくさの音がします。」するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

* 十戒の石板 ...同じ文面が2枚か。複数の証人を示す。

■ 未成熟なヨシュアとは対照的に、

人の罪の現実を見据える、とりなし手、モーセの姿。



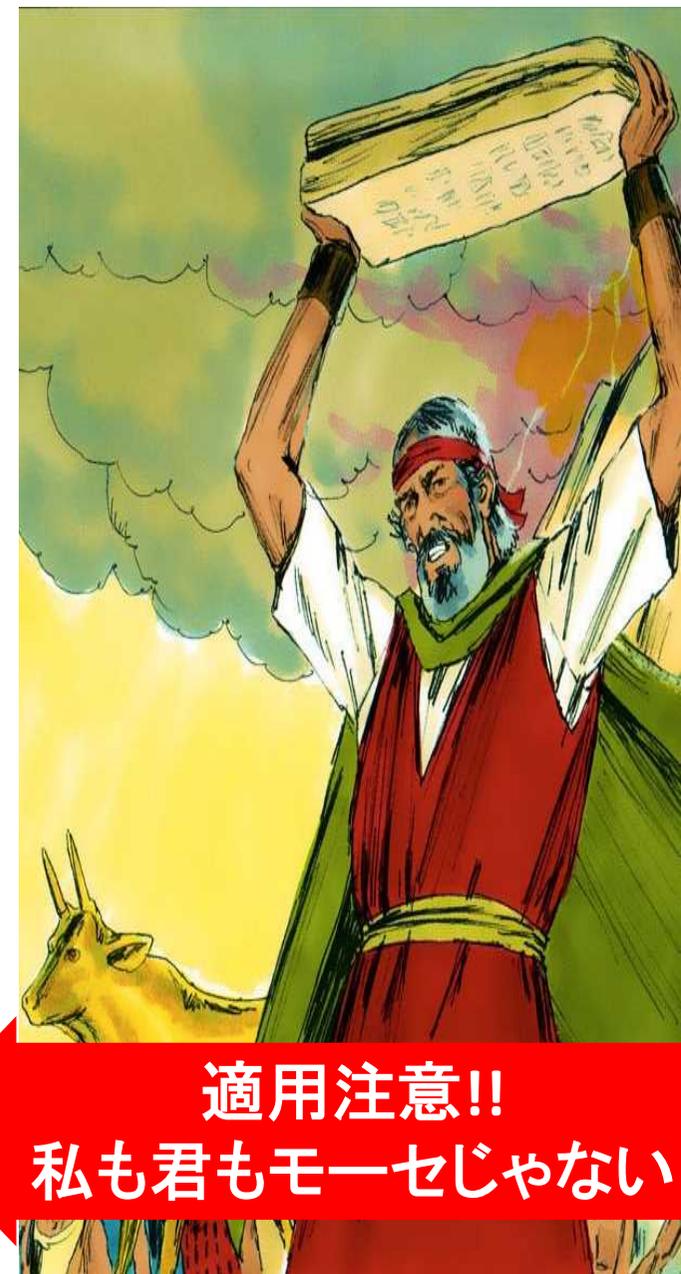
【モーセの怒り】 出 32:19～21

宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上にかき散らし、イスラエル人に飲ませた。

モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしましたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

■モーセの怒りは、仲介者としての神の代弁



適用注意!!
私も君もモーセじゃない

【アロンの言い訳】 出 32:22～25

アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。

モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

■ 敵？ ...敵対する諸民族？ 背後でほくそ笑む悪の勢力？

「どこのような、アロンの言い訳！」



【聖絶】 出 32:26～28

そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、【主】につく者は、私のところに」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのおの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

- 神につくか、人につくか、選択を求めたモーセ。
- 悔い改めなかった、事件の首謀者たちが打たれた。
 - ➔ その多くがレビ人。主に仕える者の責任の重さ。



【命がけのモーセのとりなし】 出 32:29～32

そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのこのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、【主】に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は【主】のところに上って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら—。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

本当に命と引き換えにされたとりなし手は、メシアである主イエス



【与えられた猶予】 出 32:33～35

すると【主】はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前を行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」
こうして、【主】は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

- イスラエルへの究極的裁きが、大患難時代。再臨されるメシアが、裁き主として来られる。



裁きの中にもある
恵みの要素。
民に与えられた
猶予期間。



IV. まとめと適用

偶像礼拝の本質を考えよう
教会の内にも忍び寄る偶像



【偶像礼拝とは？】

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在

■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。

偶像とは、ひたすら、
人間にとって、都合のよいもの。
欲望の投影。



【教会に忍び寄る、目には見えない偶像とは？】

■ アロンが示した、無責任と甘え。➡ 勝手に偶像ができた。

「そこで、神は彼らに背を向け、

彼らが天の星に仕えるままにされました。」 使 7:42

➡偶像礼拝の根源とは、世の支配者(サタン)への依存。

■ 愛ばかりが強調される教会にある、強い束縛、支配の不思議。

人間的母性の特徴は、無条件の愛と、無制限の支配。

「ずっと、ありのままがいい」「どこまでも、あなたはわたしのもの」

➡制限のない依存と支配の背後に働いている存在は？

■ 義の神がもたらすのは、制約と自由。

これを守るなら、祝福がある。➡ 選択権と責任は、各々に!!

【神の義に生きるものになるために!!】

- 決して、自然には身につかないのが、父性。
父性とは、“約束の大切さに基づき、制約と自由をもたらすもの。”
→ 責任の範囲を明らかにし、選択の自由を人に与える。
- 父性を身につけるために必要なのは、“契約の概念を学ぶこと。”
契約は、誰かに教わらなければ、決して分からない。
- 愛の神は、一方的恵みによって、イスラエルを救い出され、
義なる神は、契約によって、イスラエルに成長を促される。
- 十字架の恵みによって、贖い出された私たちは、
御霊の導きによって育まれ、信仰の成熟へと促されていく。
御霊の最大の働きは、約束に基づく神の計画の全貌を教えること。
- 神の契約への理解を深め、約束にもとづく真の自由を味わっていこう!!

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしたちの内(うち)にしのびよる、偶像(ぐうぞう)から、おまもりください。主の約束(やくそく)についての理解(りかい)を深(ふか)め、契約(けいやく)がもたらす、まことの自由(じゆう)を味(あじ)わわせ、よろこび生(い)きる者(もの)へと成長(せいちょう)させてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」